

明海日本語

18

2013. 2

論文

- 形態素N-gramを用いた地方議会会議録における地域差の分析手法の検討
 —ひらがなで構成された文末の4-gramに着目して—……高 丸 圭 一 (1)
- あいさつと学校教育 —明治以降から昭和までの変遷—……倉 持 益 子 (11)
- 叱り表現に関する日中対照研究 —職場を中心に—……任 星・陳咪咪 (21)
- 中国人日本語学習者の特殊拍の学習メカニズムの検討
 —既知語・未知語・無意味語の比較から—……木 下 直 子 (35)
- 日本語の発音の改善に見られるシャドーイングの効果
 —中国語（広東方言）を母語とする日本語学習者の群別再考察—
 ……………喬 方 (45)
- 台湾人日本語学習者の「ニトッテ」の使用について
 —LARP at SCUコーパスを例に—……張 秀 玲 (55)
- 授受補助動詞「てくれる」の習得に関する考察
 —韓国語母語話者を対象に—……金 賢 珠 (65)
- 日本語作文から見る漢字語彙の使用について
 —日本語話者・韓国語学習者・台湾人学習者の比較を通じて—
 ……………胡 曉 睿 (75)

研究ノート

- 日本語作文クラスにおけるピア・レスポンスの試み
 —JFL台湾人学習者の場合—……荒 井 智 子 (83)
- 文字の日本語における位置づけ — 2007 年 —……鈴 木 晃 二 (85)
- 流行語使用実態の経年調査法
 —Google Trendsを用いて—……上 村 健太郎 (87)
- 平成 24 (2012) 年度 卒業研究要旨……荻 原 稚佳子 (89)
- 編集後記……井 上 史 雄 (106)

執筆者紹介（掲載順）

高丸 圭一	宇都宮共和大学シティライフ学部	専任講師
倉持 益子	中央学院大学法学部	非常勤講師
任 星	厦門大学外文学院日語語言文学系	助理教授
陳 咪 咪	厦門大学外文学院日語語言文学系修士課程	大学院生
木下 直子	明海大学総合教育センター	専任講師
喬 方	明海大学応用言語学研究科博士後期課程	大学院生
張 秀 玲	明海大学応用言語学研究科博士後期課程	大学院生
金 賢 珠	明海大学応用言語学研究科博士後期課程	大学院生
胡 曉 睿	明海大学応用言語学研究科博士後期課程	大学院生
荒井 智子	大葉大學應用日語學系	助理教授
鈴木 晃二	明海大学応用言語学研究科博士前期課程	修了生
上村健太郎	明海大学応用言語学研究科博士前期課程	大学院生

明海日本語

18

2013. 2

明海大学日本語学会

〈論 文〉

形態素N-gramを用いた地方議会会議録における
地域差の分析手法の検討

— ひらがなで構成された文末の4-gramに着目して —

高 丸 圭 一

キーワード：地方議会，コーパス，形態素，相関係数，地域差

1. はじめに

ウェブに公開された言語資源の活用や，検索サイトが提供する検索エンジン等のサービスを利用した言語研究が盛んになっている（松田 2010，荻野・田野村 2011，井上 2011 など）。科研費採択課題「地方議会会議録コーパスの構築とその学際的应用研究」では，地方自治体の議会事務局がウェブに公開している会議録（議会の議事録）を収集・整形し，関係データベースに登録することにより，コーパスとして利用することを目指した研究が行われている（木村・渋谷・高丸・乙武・森 2012）。また，学際的な研究利用に向けて自治体横断全文検索や形態素N-gramの整備が進められている。全文検索の言語研究への応用例として，井上（2012）は「去った〇日」という表現（「去る〇日」の意）が那覇市の会議録に見られることを指摘しており，山下（2012）は「めっちゃんこ」が名古屋市の会議録に見られることを指摘している。また，高丸（2011）では，「終わす」（「終わらせる」の意）が栃木県内の複数の議会会議録で観察されることを指摘している。このように全文検索を用いることで，既知の方言語彙が会議録に含まれていることを個別に確認することが可能である。

地方議会会議録コーパスは，全国各地の議員らの発言の収集したものである。発言者の居住地が明確であるため，表現や用語の地域差の研究に適していると考えられる。これを日本語研究に有効活用するために，大規模言語資源に内在する特徴を明らかにする方法を確立する必要がある。本論文では，地方議会会議録コーパスから作成した形態素N-gramを用いて会議録の地域差を捉える方法について検討する。会議録には議論の内容（主題）を含めて，様々な地域差があると思われるが，地域差を捉える方法自体を検討することが目的であるので，差が見えやすいと考えられる文末表現に対象を限定する。例えば，関西方言の終助詞は関西で多く使われて，他の地域ではほとんど使われていないことが予想される。関西方言が関西で使われていることを捉えることができる手法を使って，全国の自治体を分析すれば会議録に内在した様々な地域差を捉えることができるであろう。

2章で使用するデータについて述べた上で，3章でN-gramに基づく出現確率（3.1節），都道府県間またはフレーズ間の相関係数（3.2～3.3節），ネットワーク図による結果の可視化（3.4節）につい

て述べる。

2. 研究対象

2.1. 地方議会会議録

本研究では、齋藤・大城・菅原・永井・渋谷・木村・森（2011）がプログラムによる自動処理によって収集・データベース化した地方議会会議録コーパスを利用する。地域差のみを見るために2010年の会議録に対象を限定した。2010年の会議録が収集されている自治体の内訳を表1に示す。この405自治体はすべての都道府県を網羅している。

表1 分析対象の会議録

自治体分類	対象数
市	323
区	13
町	42
村	8
道県	19
合計	405

一般に会議録には、発言の要点だけをまとめたものと、発言の逐語録的なものがある。地方議会会議録は議会での発言をすべて記録することを目的としており、後者に該当する。しかし、「読み上げ原稿が存在する発言が含まれる」「話しことばの特徴の一部が書きことば的に修正されている」という2つの点において、完全な自由会話の書き起こし資料であるとはいえない。

議会を円滑に運営する目的で、議員の発言（質問）内容は事前に通告されており、答弁者も質問通告に対する答弁をあらかじめ用意している。事前に発言内容が用意された発話では原稿を読み上げている部分が確かに存在する（高丸 2011）。原稿を読み上げた発話を書き起こしても話しことばの性質が含まれないが、発言者は必ずしもそのまま読み上げるわけではない。また、答弁に対する再質問など朗読によらない自由な議論も多く含まれる。

会議録は読みやすさの観点から整文と呼ばれる文章の修正が行われている。（高丸・木村 2010）。整文の作業では、言い直しや単純な言い間違い、助詞の誤用、冗長な言い回しなどそのまま文字化にすると読みづらい表現等は修正される。整文の指針（野村・鶴沼 1996）には「訛りは標準語に直す」という項目も存在する。ただし、すべてを書きことばのように修正するのではなく、発言の意図や議論の様子を記録するために、話しことばのまま記載される場合もある。高丸（2011）における議会発話音声と会議録の比較によると、整文前後のレーベンシュタイン距離（整文によって削除、追加、置換される文字数）は、会議録1,000文字あたり約60文字であった。会議録の作成は各自治体の中で行われるため、地域差の中でも特に気づかない方言はそのまま残る可能性が高い。

議会会議録がもつこれらの性質を考慮に入れて地域差を検討する必要がある。

2.2 形態素N-gram

形態素N-gramとは、ある文書においてN個の連続する形態素列が出現する頻度を求めたものであり、文書中の形態素の共起頻度や共起確率を知ることができる。本研究では、収集した会議録を形態素解析ツールMeCab⁽¹⁾によって形態素に分割した。形態素解析辞書にはUnidic（伝・小木曾・小椋・山田・峯松・内元・小磯 2007）を用いた。形態素解析の結果から、自治体別に会議録の形態素N-gramを作成した。形態素N-gramの例を表2に示す。

表2 形態素N-gramの例（北海道札幌市議会の7-gramの一部）

第1形態素	第2形態素	第3形態素	第4形態素	第5形態素	第6形態素	第7形態素	頻度
本市	の	出資	団体	数	に	つい	1
の	出資	団体	数	に	つい	て	1
団体	数	に	つい	て	ご	説明	1
数	に	つい	て	ご	説明	さ	1
に	つい	て	ご	説明	さ	せ	14
つい	て	ご	説明	さ	せ	て	14
て	ご	説明	さ	せ	て	いただき	25
ご	説明	さ	せ	て	いただき	ます	41
説明	さ	せ	て	いただき	ます	。	47
さ	せ	て	いただき	ます	。	</S>	117

※「</S>」は文末を示すマークでありN-gramでは形態素と同等に扱われる。

2.3 ひらがなで構成された文末の形態素4-gram

地方議会会議録の形態素N-gramから文末表現の地域差を検討するが、どの範囲が文末表現に相当するかは文によって異なる。大規模データから特徴抽出を行うためには統一した基準が必要である。終助詞等の文末表現の多くはひらがなであることから、ひらがなで構成される形態素に限定する。また、終助詞の連続を考慮してN=4とする⁽²⁾。すなわち、本研究の分析対象は、第4形態素が句点であり、かつ、第1から第3形態素がすべてひらがなで構成されている4-gramである。（以下、この4-gramを「フレーズ」と呼ぶこととする。）

また、N-gramには出現頻度が小さいパターンが大量に含まれることが知られている⁽³⁾。このため、1都道府県あたり平均1回程度の出現が見込まれる表現、すなわち総出現頻度（全自治体の和）が50回以上のフレーズを対象を限定する。

3. 特徴の分析

3.1 出現確率

405自治体の会議録からひらがなで構成された文末の形態素4-gram（フレーズ）の出現頻度を求めた。全自治体を合計すると4,433,834（異なり数25,341パターン）のフレーズがあった。このうち、合計出現頻度50以上のフレーズは、4,341,447（異なり数1,331パターン）であった。収集した会議録は自治体ごとに全体の量が異なるため、出現頻度そのものを自治体間で直接比較することは適当で

はない。このため、次式によってフレーズの出現確率を求めた。

$$\text{フレーズPの出現確率} = \frac{\text{フレーズPの出現頻度}}{\text{第4形態素が句点である4-gramの総出現頻度}}$$

次に、出現確率を都道府県単位で集計した。表3に出現頻度が高い10フレーズを示す。また、このフレーズの出現確率をもっとも高い都道府県ともっとも低い都道府県を併せて示す。出現頻度が最も高い「ております。」と10番目の「ありました。」との間に10倍以上の頻度の開きがある。また、この10パターンで、全1,331パターン出現頻度の和の約58% (2,517,671) を占めている。このことから、少数の文末表現が高頻度で繰り返し使用されていることが分かる。ただし、出現確率をみると、都道府県ごとにばらつきがある。例えば「ております。」では、佐賀県 (0.1861) と和歌山県 (0.0687) の間に約3倍の開きがある。

表3 出現頻度の高いフレーズ

順位	フレーズ	全国計	最大	最小
1	て／おり／ます／。	866,450	佐賀県 (0.1861)	和歌山県 (0.0687)
2	で／ごさい／ます／。	652,018	高知県 (0.1883)	和歌山県 (0.0259)
3	で／あり／ます／。	323,651	富山県 (0.1504)	神奈川県 (0.0230)
4	て／い／ます／。	172,671	秋田県 (0.0537)	長崎県 (0.0097)
5	て／いただき／ます／。	110,858	奈良県 (0.0371)	鹿児島県 (0.0033)
6	ませ／ん／か／。	109,905	鳥取県 (0.0620)	佐賀県 (0.0067)
7	を／いたし／ます。	87,083	鳥取県 (0.0419)	青森県 (0.0030)
8	いたし／まし／た／。	70,804	鹿児島県 (0.0306)	石川県 (0.0061)
9	て／ごさい／ます／。	62,891	東京都 (0.0258)	富山県 (0.0000)
10	あり／まし／た／。	61,340	和歌山県 (0.0233)	鹿児島県 (0.0041)

3.2 都道府県間の相関

フレーズ出現頻度の地域差をみるために、1,331フレーズの出現確率をパラメータとして都道府県間の相関係数を求める。相関係数は都道府県間における文末表現の使用傾向の類似度を表すと考えられる。全都道府県の組み合わせ1,081組の相関係数の分布を図1に示す。都道府県間の相関係数は全体的に高い正の相関を示しており、0.9を超える組み合わせが785組あった。最大値は0.997 (大阪府と兵庫県)、最小値は0.566 (新潟県と高知県) であった。相関が最も高い大阪府と兵庫県の出現確率の散布図を図2(a)に、相関が最も低い新潟県と高知県の出現確率の散布図を図2(b)にそれぞれ示す。

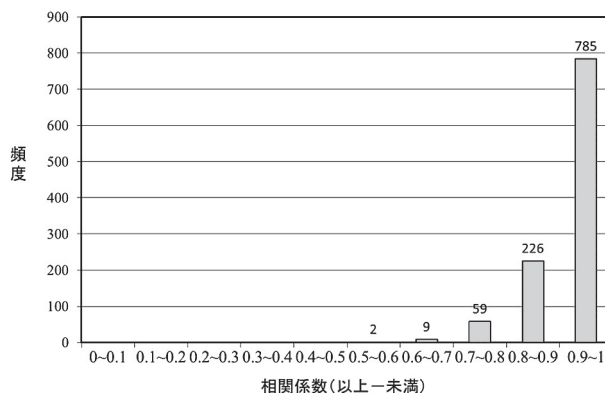


図1 都道府県間の相関係数の分布

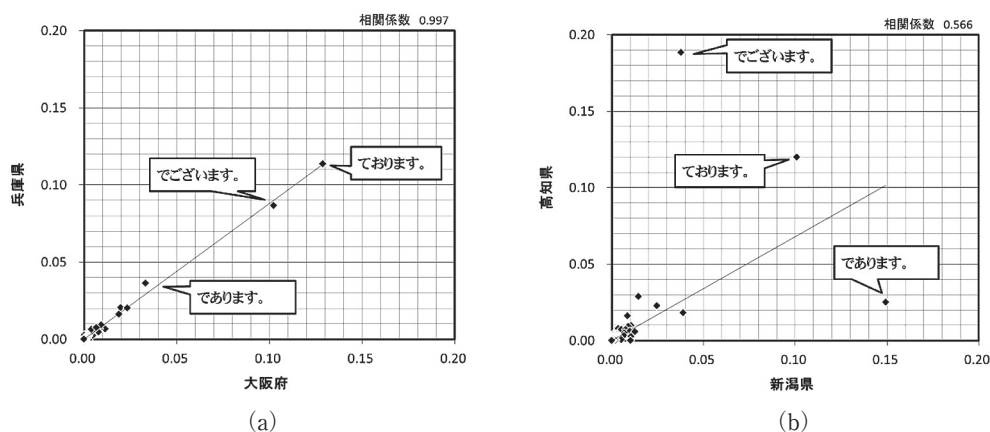


図2 都道府県間の出現確率の散布図

相関係数の低い図2(b)と比べると図2(a)は多くのフレーズが回帰直線の付近に分布しており、大阪府と兵庫県では、文末表現の使用傾向がかなり類似していることが分かる。しかし、(a)(b)ともに、大半のフレーズが原点付近に集中していることから、都道府県間の相関係数は、全国的に出現頻度の高い「でございます。」「ております。」「であります。」などのフレーズの出現のばらつきによって決定づけられているといえる。

方言差などの“ある地域には出現し、他の地域にはほとんど見られない”という特徴をもつフレーズはこれらに比べて出現頻度が低く、原点付近に存在していると考えられるため、相関係数に微細な差異を与えるに過ぎない。したがって、都道府県間の相関係数は、出現頻度の高いフレーズの使用傾向を説明できるものの、いわゆる地域差をよく表現する値とはいえない。

3.3 フレーズ間の相関

次に、行と列を入れ替えフレーズ間の相関係数について考える。1,331 フレーズ間の組み合わせ 885,115 組について、47 都道府県の出現確率をパラメータとして求めた相関係数の分布を図3に示

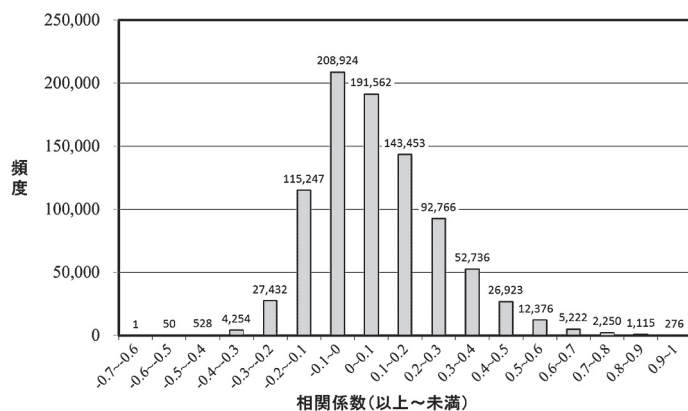


図3 フレーズ間の相関係数の分布

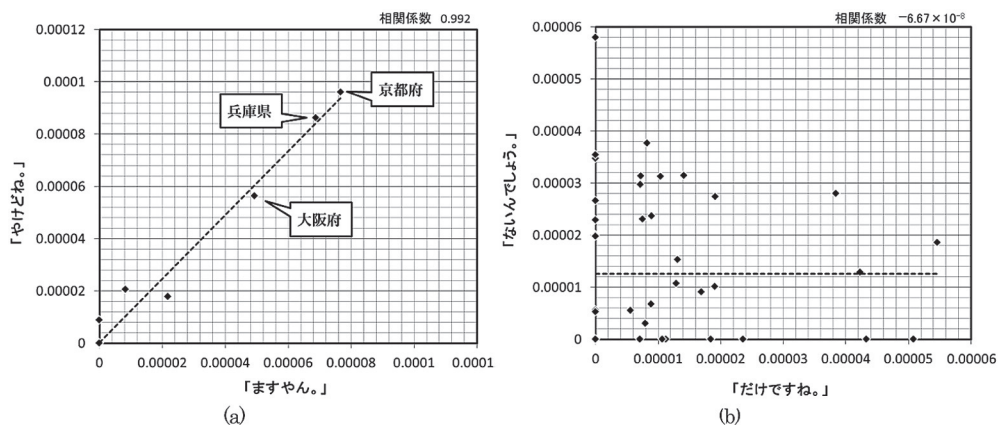


図4 フレーズ間の出現確率の散布図

す。相関係数が最も高い組み合わせは「やけどね。」と「ますやん。」の0.992であった。一方、相関係数の絶対値が最も小さい組み合わせは「だけです。」と「ないんでしょう。」の -6.77×10^{-8} であった。それぞれの散布図を図4(a)(b)に示す。

図4(a)では、関西方言である「やけどね。」と「ますやん。」が京都府、兵庫県、大阪府、およびその近県で出現し、その他の都道県では出現頻度が0である。このように出現傾向の地域特性が共通している2つのフレーズの間では、相関係数が高くなる。したがって、フレーズ間の相関係数を求めた上で、そのフレーズ対の出現確率が高い地域を調べることによって出現傾向に地域差のあるフレーズとそのフレーズが出現する地域を知ることが可能である。表4に相関係数の高い上位10組を示す。

上位10組には関西方言が多く観察される(①③④⑤⑧)。このほか、長崎県において「～である。」という文末表現が多く(②⑥⑩)、宮城県では「～のです。」という文末表現が多いことが分かる(⑦⑨)。自治体別の4-gramを調査したところ、長崎県佐世保市議会の会議録に「だ／である」の文末

表4 相関係数の高いフレーズ（上位10組）

	フレーズ1	フレーズ2	最頻都道府県	相関係数
①	やけどね。	ますやん。	京都府	0.992
②	わけである。	ことである。	長崎県	0.989
③	わけやな。	ことやな。	三重県	0.986
④	んやな。	ことやな。	三重県	0.985
⑤	わけやね。	どないですか。	兵庫県	0.979
⑥	わけである。	のである。	長崎県	0.978
⑦	なのです。	あるのです。	宮城県	0.976
⑧	ねんけれども。	とるわけや。	兵庫県	0.975
⑨	なのです。	ないのです。	宮城県	0.974
⑩	ことである。	ていた。	長崎県	0.971

表現が多いため、長崎県での出現確率が突出した。また、「～のです。」は宮城県議会や宮城県石巻市議会等の会議録に比較的多く見られた。これらの表現は他の都道府県でも出現し、出現地域が連続的に分布しているわけではないことから、いわゆる方言的特徴というよりも、議会発言における表現技法の偏り、または、整文規則の偏りによるものであると考える方が適切である。しかしこれらも会議録の興味深い地域差であることには違いない。



図5 ネットワーク表現の考え方

3.4 フレーズ間の相関係数に基づくネットワーク表現

3.3節で求めたフレーズ間の相関係数を利用して、出現傾向（出現の地域差）が類似しているフレーズをネットワーク図によって表現することを試みる。図5に示すように、相関係数が高いフレーズ同士をネットワーク状に結ぶことで、出現傾向が類似したフレーズがクラスタを形成する。本研究で対象とする「文末のひらがな」という限定的な条件下であっても、フレーズのパタン数は膨大であるため、このような可視化手法を用いた分析は有用であると考えられる。

ネットワーク図の作成には、Cytoscape⁽⁴⁾を用いる。相関係数の下限を0.85に設定し、相関係数が0.85以上の696組（異なりフレーズ数207）とその相関係数を同ソフトウェアに入力した。生成されたクラスタの概要を表5に示す。

ラスタを形成した(図6(c))。このほか、東海地方で使われる尊敬表現の「～してみえる」が愛知県、岐阜県、三重県、滋賀県に出現しており、クラスタを形成している(図6(d))。

紙幅の都合から本論文の範囲では、他のクラスタについて具体的に述べることは控えるが、クラスタ一つ一つが詳細に分析するに価値を持つ地域差であると考えられる。

4. まとめ

形態素N-gramを用いて地方議会会議録の地域差を捉える方法について検討した。都道府県間のフレーズ出現確率の相関係数では、出現確率が全体的に高いフレーズのみが相関係数に強く影響するため、それ以外の地域差を見つけることが困難であった。一方、フレーズ間の相関係数は出現地域の類似性にしがって値が変化するため、出現傾向の地域差を見つけることに適していた。また、ネットワーク表現は出現傾向が共通するフレーズを視覚的に概観するのに有用であった。

関西方言が全文で修正されずに京都府や兵庫県、大阪府などの会議録に出現することは予想通りであったといえるが、関西方言のうちどのような文末表現が会議録に多く出現するかは新たな知見となる。東海地方で使われる尊敬表現「～してみえる」が全文されずに残されていることが確認された。また、長崎県で常体の表現が、宮城県で「～のです」がそれぞれ他地域と比べて多くみられることを発見できた。

この方法で明らかになった地域差が、発言の地域差であるか整文規則の地域差であるかまでは分からない。しかし、元の会議録に戻って調査することが可能であるし、議会の録画をウェブ上でオンデマンド配信している自治体もある。今後、本調査手法を出発点として地域差が見られるそれぞれの表現について詳細な分析を進める。さらに、同じ手法を応用して一つの自治体の年代差の分析をすることで通時的な変化についても検討を進める。

謝 辞

本研究の一部は、科研費 No:23652102 および No:22300086 によるものです。

〈注〉

- (1) <http://mecab.googlecode.com/svn/trunk/mecab/doc/index.html>
- (2) 例えば札幌市議会では、最終形態素が句点であるN-gramのうち先行部分がすべてひらがなである割合は、2-gramでは99.5%、3-gramでは78.4%、同様に、4～7-gramでは、それぞれ67.6%、45.8%、32.1%、23.3%である。3-gram(文末2形態素のみを分析)では終助詞の連続を捉えきれない可能性があり、また5-gram以上(文末の4形態素以上を分析)では、ひらがなの連続といっても、ひらがなの内容語が含まれる割合が高くなると予想されるため、本研究では4-gramを用いることとした。
- (3) 計算機の処理能力の観点から、4-gramの生成時には足りきりを行ったため明らかではないが、例えば札幌市議会の3-gramでは、254,724パタンのうち約73%(185,722パタン)の出現頻度は1である。4-gram以上では出現頻度1のパタンはさらに増大する。
- (4) <http://www.cytoscape.org/>

参考文献

- 井上史雄（2011）「Google 言語地理学入門」『明海日本語』 Vol. 16, pp.43-52
- 井上史雄（2012）「[ことばの散歩道] 171 去った〇日」『日本語学』 Vol. 31-10
- 萩野綱男, 田野村忠温・編（2011）『コーパスとしてのウェブ』明治書院
- 木村泰知, 渋谷英潔, 高丸圭一, 乙武北斗, 森辰則（2012）「地方議会会議録コーパスの構築とその利用」第26回人工知能学会全国大会, 3B3-NFC-4-3
- 齋藤誠, 大城卓, 菅原晃平, 永井隆広, 渋谷英潔, 木村泰知, 森辰則（2011）「地方議会会議録の収集とコーパスの構築」『言語処理学会第17回年次大会論文集』, p.2-21
- 高丸圭一, 木村泰知（2010）「栃木県の地方議会会議録における整文についての基礎分析—本会議のウェブ配信と会議録との比較—」『都市経済研究年報』第10号, pp.74-86
- 高丸圭一（2011）「規模の異なる自治体における地方議会会議録の整文の比較」『社会言語科学会第27回研究大会発表論文集』, pp.256-259
- 伝康晴・小木曾智信・小椋秀樹・山田篤・峯松信明・内元清貴・小磯花絵（2007）「コーパス日本語学のための言語資源：形態素解析用電子化辞書の開発とその応用」『日本語科学』22号, pp.101-122
- 野村稔・鶴沼信二（1996）『地方議会実務講座 第3巻』ぎょうせい
- 松田謙次郎・編（2010）『国会会議録を使った日本語研究』ひつじ書房
- 山下暁美（2012）「なりすましの方言「めっちゃんこ」」地域語の経済と社会, 第209回
<http://dictionary.sanseido-publ.co.jp/wp/2012/07/07/>

〈論 文〉

あいさつと学校教育

—明治以降から昭和までの変遷—

倉 持 益 子

キーワード：あいさつ言葉，標準語，おはようございます，今日は，明治期，

1. はじめに

あいさつは，社会とかかわる基本的なマナーとされ，人は物心がつく以前から家庭や保育施設でしつけられてきた。元来，人間関係を良い状態に保つための交感言語であるため，地域等属する社会から影響を受けてきた。しかし，明治以降，学校教育で，それまで子供があまり使うことのなかったあいさつ言葉や使い方が指導されるようになった。

本稿は，あいさつ言葉の変容研究の一部として，学校教育との関わりをまとめ，全国統一あいさつの推進の意図と影響を考える。学校におけるあいさつ教育をまとめるに際して，無視できない二点がある。それは，“Standard language”すなわち岡倉由三郎が「標準語」と訳したものとの関係であり，もう一つは学校制度及びその教育内容との関わりである。本稿では，この二つの視点から「あいさつ」指導を考えてみたい。

2. 現在の学校あいさつ

文部科学省の小学校学習指導要領の第三章道徳に以下の記述がある。

〔第一学年及び第二学年〕

主として他の人とのかかわりに関すること

気持ちのよいあいさつ，言葉遣い，動作などに心がけて，明るく接する。

文部科学省（2012）. HP より

このようにあいさつは，小学校低学年で学べき内容に取り上げられており，インターネットで「小学校・あいさつ」をキーワードに検索すると，おびただしい数がヒットする。その中のいくつかを開くと，多くの学校でかなり力を入れて指導されているのがわかる。

では，どのように教育の重要事項となっていくのであろうか。以下に，あいさつ教育の変遷と，その前提となる標準語の形について述べていきたい。

3. 標準語の形成

国民が共通して使える言葉を作ることは、明治政府の重要事項であった。その必要性は以下の理由に基づくと考えられる。

- 1) 「日本国国民」であるということを全国民に認識させなければならない。
- 2) 軍隊や経済活動で使う共通した言語が必要である。
- 3) 外国へ紹介する「日本語」を明確にする必要（翻訳の問題）がある。
- 4) 国による教育のための言語が必要である。

明治18年から28年まで、教育のある東京人の話し方を「標準語」の基準とする言論が高まっていた。しかし、このことは裏を返せば、明治28年までは、まだ基準がどうなるか決定されてはいないということである。すなわち、教育の場では、すでに「ゆるやかな東京語を基準とした教育」が始まっていたが、当時の関係者、識者の発言から察すると、それは教師が東京語を意識して使う程度のものであった。

標準語化に関して、水野（1992）に基づき、当時の識者が述べたことを表にした。

表 1 明治期の標準語化（識者の言動）

年	氏名	発言	備考
明治18年 (1885年)	渡辺修二郎	教育を受け足る東京人の間に行わるる発音。	
明治20年 (1887年)	西邨貞	会話体は専ら東京士君の間に行わるる語音（幼學讀本）	尋常小学校教科書
明治23年 (1890年)	岡倉由三郎	標準語となり、方言となるのは、其思想交換の具として優劣あるが為ならず、常に之を用いる者全体が、政治上の都合により、上下するにつれ、定まるものなり。（日本語學一斑）	“Standard language” の訳語
明治28年 (1895年)	上田万年	現今の東京語が他日（標準語としての）名誉を享有すべき資格を供ふる者なりと確信す。（中略）予の云う東京語とは、教育のある東京人の話すことばと云う義なり。（帝国文学）	論文名「標準語に就きて」

教育とは別に、軍隊も共通した発音、語彙、表現を進めていた。これは、必ずしも「東京の知識人言葉」を基にしたものではない。

4. 明治期の学校教育

明治に入ると教育の整備が急速にすすめられた。明治5年に学制が発布され、国民の多くを対象とした小学校が制度化されていった。入学は6歳からで卒業は12歳、現在の一学年で2級進む。あいさつ指導は、特定の科目の教授項目には挙げられてはいない。しかし、日常的な躰と「読本（国語）」において指導がなされていたことは確かである。

明治期は、「国語」の形成期でもある。ここでは、教室で使う言葉に関して、法令や当時の教材を

通じて見ていきたい。明治6年の師範学校小学指導法「小学教授法凡例」には、「俚言ヲ避ケズ唯童蒙ノ解シ易キヲ務ム」という一文がある。すなわち、この時点では読み書き能力が高まれば、子供たちにとって分かりやすい土地の言葉でかまわないということである。

しかし、明治20年になると文部省検定師範学校教科書『改正教授術』に、教師の注意として以下のことが書かれている。

「鄙語方言等ヲ用井ルベカラズ」

若林・白井（1888）からの引用

この頃すでに、東京の山の手地域で使われている言葉を標準とし、教師に推奨していたと見られる。以下に明治期の学生に関する表を載せる。

表2 明治期の主な教育政策

西暦	年号年	事項	関連事項
1871	明治4年	教育行政機関文部省設置	
1872	明治5年	学制発布	「小学教則」公布・指定教科書使用
1879	明治12年	教育令	
1886	明治19年	小学校令	小学校の教科書は文部省が検定したものに限る
1891	明治24年	小学校教則大綱	各教科の要旨を詳細に規定
1903	明治36年	小学校令改正	小学校の教科用図書は文部省に著作権があるものに限る
1904	明治37年	国定教科書使用開始	

5. 明治期のあいさつ教育

5.1 明治20年までのあいさつ指導

明治期の教科書は、国定第一期教科書が出るまで、あいさつ言葉は現れてこない。しかし、その前提となる言葉の指導は、教授法を通して知ることができる。明治7年の『小学教師必携補遺』には教室内での作法等の指導の仕方、及び同年発行の『小学授業法細記』には、学童が守るべきこと（規則・作法）が書かれている。しかし、あいさつ言葉の指導については記載がなく、立ち礼等の非言語的な作法について書かれているにすぎない。

あいさつ指導に触れる記述は、上記の明治20年の『改正教授術』に現れる。附説、作法に、6歳から7歳児の作法指導の内容が書かれている。

六七歳ノ生徒ニハ唯普通人民間ニ行ワル、尋常ノ心得ヲ教授練習スルヲ以テ足ルベシ

（中略）有益ナリ其事項ハ概子左ノ如シ

寝起ノ心得 出入リノ心得 食事ノ心得 父母長上及朋友ニ接スル心得

客ニ行キタル時ノ心得 客ノ来ル時ノ心得 途上ヲ歩行スル心得

茶菓子膳等ヲ進ムル心得

これは、非言語の作法以外にも言葉によるあいさつを含んでいるものと思われる。実際に教授法の一例として以下のような記述がある。

例1

教「汝等朝起キテ先ヅ何事ヲスルヤ」(中略)

教「父母ニ對シテ如何スルヤ」

生「父母ニ禮シマス」

教「何ト云ヒテ禮スルヤ」

生「ヲハヨウゴザリマスト云ヒテ禮シマス」

他のあいさつ言葉にもこのような指導がされている可能性が高いが、朝の「おはよう」系以外は具体的なあいさつ言葉が書かれていない。しかし、このころから学校教育の場で、有る程度決まった形のあいさつ指導が行われていたと見られる。

5.2 教科書の中のあいさつ言葉

国定教科書の使用（明治37年から）以前の国語及び作法の教科書からあいさつ言葉は見いだせない。出会いのあいさつには以下のような記述がされている。

例2

「おお、狼君、今朝は快く晴れて、真に好き天気なり」

「おおかみときつね」幼學讀本第四（明治20年発行）より

この頃はまだ、本格的な「標準語」で話す指導が行われていなかった可能性がある。読んで意味がわかり、「書き」に展開できるというのが、当時の教育の狙いであったと思われる。そうであるならば、あいさつ言葉の読み書きは、あまり意味をなさない。

あいさつ言葉が「読本（国語）」教科書に出てくるのは、国定教科書第一期（明治37年）からである。この教科書は、著作権そのものを文部省が持っている。まさに「国による言葉指導」の始まりである。ここで、出てくるあいさつは以下である。

表3 国定教科書に出てくるあいさつ言葉（初出のみ）

国定時期	あいさつ言葉	巻	使用時期
第一期	おはようございます	2	1年生後半
	おやすみなさいませ	2	1年生後半
	ごめんくださいませ	2	1年生後半
	よくいらっしゃいました	2	1年生後半
	おやすみなさい	6	3年生後半
	ごきげんよう（別れ）	6	3年生後半
	*御苦労でしたね（労い）	6	3年生後半

第三期	今日は	4	1年生後半
	ありがとうございます	4	1年生後半
	さようなら	12	6年生後半

第四期	行ってまいります	1	1年生前半
	ただいま	1	1年生前半
	さようならごきげんよう	1	1年生前半

※第二期は、第一期とあいさつ言葉は変わらず

5.3 明治時代からのあいさつ指導と国語教育

5.3.1 尋常小学校における標準語教育

尋常小学校では、国定教科書ができるまで、標準語的会話が話せるようになることを、そう厳しく求められてはいなかったと見られる。教師には、方言を避けるよう師範学校教科書における記述はあるが、児童を標準的な（東京山の手のような）話し方をさせるような記述はない。また、当時の教科書は文語調で、読んで意味がわかるという意図で作られている。モデルとなる会話文は、あまり見えない。

本格的な標準語指導は、明治37年の国定教科書使用の時期と見られる。なぜなら、この教科書は、口語体が多く使われているからである。会話も多く掲載されている。それ以前の幼年読本に掲載されている会話文と、国定教科書の同じ学年の会話文を比べてみたい。

例3

幼年読本

「今朝は快く晴れて、真に好き天気なり。時に君には面白き新聞は無きか」

第十六課 おほかみときつねより

例4

国定読本

オチヨ ハ イマ、ネル トキノ アイサツ ラ シテキマス。

「オトウサン。オヤスミナサイマセ。オカアサン。オヤスミナサイマセ。」

この頃から、標準的な日本語に慣れさせるための指導方針が明確になってきている。明治44年発行の『小学校作法教授要項』に、以下の記述がある。

一 下品ナル言語及方言・訛音ハ之ヲ避クヘシ

文部省（1911）. 小学校作法教授要項. 宝文館p14 第七 言語應對より

さらに、この言語應對の章では、「標準的」言葉の作法を具体的に書いている。以下、要約した内容を記す。

- ・人に声をかけるときには「もしもし」と声をかける。
- ・人の名には「〇〇さん」を使う。

- ・ 応答には「はい」と言う。
- ・ 自分のことは「わたくし」と言う。
- ・ 相手のことは「あなた」と言う。

国語の時間以外にも作法等で、標準語の指導はされていたといえる。

5.3.2 国定教科書におけるあいさつの場面

小学校の生徒があいさつ言葉を使う場面は、そのほとんどが家庭内である。たとえば、教科書では「おはようございます」も「おやすみなさい」もそうであるし、「ごきげんよう」は出征していく息子が両親に告げる言葉である。「御苦労様でした」も親が子にかける労いである。これにはいかなる意味があるのだろうか。

第一に、家族間のあいさつが子供にとって身近でわかりやすいということであろう。しかし、他の理由も考えられる。国は直接指導できない親世代に、子供を通じて標準語を紹介し、中央政府推奨の「定型化あいさつ」という新たな習慣を根付かせる目的があったものと考えられる。

明治期に、「官制あいさつ」の有無を言わせない指導に対して、地方が強く反発したという記録は見られない。これは、国定教科書実施時期が日露戦争後のナショナリズムの高まりを背景にしている可能性がある。当時の国民意識として、新しい言葉の使用法を積極的に受け入れよう空気があったものと見られる。

6. 大正時代のあいさつ事情（宮沢賢治と学校あいさつ）

大正期7年発行の第三期国定教科書では、さらに口語化が進み、「こんにちは」「さようなら」も掲載されている。この大正7年というのは、児童文化（文学・音楽・美術）に大きな影響を与えた『赤い鳥』が発行された年でもある。この頃から、児童文学のジャンルも盛んになってくる。その代表的作家が宮沢賢治である。賢治は岩手県出身者で、教育者でもあった。彼の作品は、方言が織り込まれ、岩手県人の感性を感じさせながらも、国定教科書の語彙・表現、とりわけあいさつが多用されている。

例5

一郎もていねいに挨拶しました。

「いや、こんにちは、きのうははがきをありがとう。」

山猫はひげをぴんとひっぱって、腹をつき出して言いました。

「こんにちは、よくいらっしゃいました。」

（1924年『どんぐりとやまねこ』インターネット青空文庫より）

例6

「今晚は、」ジョバンニは叫びました。

「はい。」白い太いずぼんをはいた人がすぐ出て来て立ちました。

「何のご用ですか。」

「今日牛乳がぼくのところへ来なかったのですが」

「あ済みませんでした。」

(1927年頃『銀河鉄道の夜』 インターネット青空文庫より)

例7

紺三郎が二人の前に来て、丁寧におじぎをして云いました。

「それでは。さようなら。今夜のご恩は決して忘れません。」

二人もおじぎをしてうちの方へ帰りました。

(1921『雪渡り』 インターネット青空文庫より)

ここで着目したい点は2点である。一つは、賢治の作品の日本語（口語）が、現在のものと同様ということである。もう一つは、東京から距離的に離れた方言話者が標準語を使い、それも比較的新しい言葉を使い作品を書いていることである。大正という時代が、普及・使用法の両面から標準語の完成の時期に当たるのではないだろうか。

もう一つの、方言話者が書く標準語文学ということを考えたい。賢治は果たして「こんにちは」や「こんばんは」を東北の子供たちになじませたかったのであろうか。本研究では、賢治はあいさつ言葉を新しい世界を覗く窓口と見ていたという可能性を挙げたい。賢治は故郷岩手県を理想郷「イーハトーブ」の世界観に入れたように、地方の文化と風土を非常に大切に作家であった。その彼が、比較的新しいあいさつ言葉を始めたとした標準語とされる表現、話し方を積極的に使ったには、それが新しい時代を拓く「鍵」と見たからであろう。故郷の外にも日本中に豊かな文化があり、そこには、「こんにちは」や「こんばんは」を受け入れることで、アクセスできると考えたのではないか。それは、現在のグローバル化にあこがれる感覚を思い起こさせる。したがって、賢治は標準語あいさつ言葉に意味を見出していたと考えられる。

国定教科書のあいさつ言葉は、大正時代にだれでも使えるあいさつ言葉となった。しかし、それが、かつて仲間内の意識を高めるポジティブプライトネス機能^(注)を失わせてしまったというのは、皮肉な結果である。

7. 考察 明治期から大正期におけるあいさつ指導の意義

5までに述べたことから、スタンダードな日本語（標準語）が形作られるのと、文部省が著作権を持つ国定教科書の登場は密接に関係していたのがわかる。さらに、この国定教科書に掲載された「新しい国語」は、緩やかな紹介という程度ではなく、かなりの強制力を持った口語改革であるといえる。その「国定国語」に如実に現れたのが、あいさつ言葉である。土地ごとに（または個々人に）されていたあいさつが、定型化されたものを紹介され、これが正しいものだと言わんばかりに教育で導入され、実践を促される。

これらの政策は、ある程度受け入れられたものと見られる。それは、次節で述べる福島県のあい

さつ調査からも分かる。また、標準語あいさつ言葉の伸張には、大正時代の児童文学に取り上げられたのが大きいと思われる。

8. 昭和のあいさつ教育

大正時代、学校教育から、文学作品に拡大した標準語あいさつ言葉が、昭和になり、戦争を経て、地方にどのように受け入れられたのかを見てみたい。

昭和期の後半、東北地方における標準語あいさつの浸透程度がわかる調査がある。国立国語研究所報告 33（1968）「家庭における子供のコミュニケーション意識」（以下、国研報告 33 と略す）である。これは、福島県の福島市、梁川町、松江市の小・中・高校の生徒に家庭で行っているあいさつ言葉をアンケート方式で調査をしたものである。

本研究では、この調査結果を、田中（1991）の補足を参考にして、地方と標準語あいさつという視点でまとめてみる。

調査項目に使用された場面は、朝のあいさつ、就寝のあいさつ、食事の前と終わり、登校前、帰宅の6つである。田中（1991）には、この調査で自由記述形式の回答の主なものが挙げられている。この中で、主なものを転載する。

- | | |
|------------|-------------------------|
| 1) 朝起きてから | オハヨー・オハヨーゴザイマス |
| 2) 食前のあいさつ | イタダキマス・イタダキマース |
| 3) 食後のあいさつ | ゴチソーサマ・ゴチソーサン・ゴチソーサマデシタ |
| 4) 夜、寝るとき | オヤスミナサイ・オヤスミ |
| 5) 登校のとき | イッテキマス・イッテマイリマス |
| 6) 帰宅のとき | タダイマ |

カタカナで記載したものが全体の回答の90%を占めるという。これら全てが国定教科書以来の標準語あいさつ言葉である。標準語あいさつ言葉は、この調査を見た限りでは、かなり浸透している。この調査は家庭で使われている言葉であるので、学校のみで指導で使われているとは考えられない。これらのあいさつを使うように家庭でしつけているか、使用を積極的に認めているということになる。

9. まとめ

あいさつ言葉は、明治期には標準語推進に利用されたと考えられる。そして、学校の指導対象にされたあいさつは、地方の人々にも受け入れられていった。

〈注〉

拙論、倉持（2012）では以下の論を示した。「こんにちは」・「こんばんは」は、その始まりが遊里である可能性が高く、江戸期においては使用は庶民間に限られていた。しかし、気の置けない間柄に使われていたため、ポジティブボライトネス機能を持っていたと考えられる。

参考文献

- 倉持益子 (2012). 江戸から明治期における「今日は」. 明海日本語 17. 明海大学日本語学会. pp.123-126
- 国立国語研究所 (1985). 国定読本用語総覧Ⅰ. 三省堂
- 国立国語研究所 (1987). 国定読本用語総覧Ⅱ. 三省堂
- 国立国語研究所 (1987). 国定読本用語総覧Ⅲ. 三省堂
- 神戸市立千代ヶ丘小学校 (2012). 学校のHP.
http://www2.kobe-c.ed.jp/cyg-es/index.php?page_id=55
- 斎藤喜門 (1981). 学校におけるあいさつの指導. 「ことば」シリーズ 14 あいさつと言葉. 文化庁. pp.84-94
- 式亭三馬 (1813). 浮世床. 初編巻之上. 中西善三校註 (1955). 日本古典全書. 朝日新聞社. p.105
- 杉本つとむ (1989). 西洋人の日本語発見. 創拓社. p.258
- 田中章夫 (1991). 標準語 ことばの小径. 誠文堂新光社
- 田中義廉・諸葛信澄 (1873). 師範学校小學教授法. 雄風舎
- 筑摩縣師範學校編 (1874). 小學授業法細記. 筑摩縣師範學校
- 鶴屋南北 (1825). 東海道四谷怪談. 郡司正勝校註 (1981). 新潮社. p.63
- 東京書籍社史編集委員会編 (1980). 近代教科書の変遷 東京書籍七十年史. 東京書籍
- 西邨貞 (1888). 幼學讀本第四. 第十六課「おほかみときつね」
- 西邨貞 (1887). 幼學讀本第二. 金港堂
- 西邨貞 (1887). 幼學讀本第四. 金港堂
- 西邨貞 (1887). 幼學讀本第二. 金港堂
- 西邨貞 (1887). 幼學讀本第四. 金港堂
- 林多一郎 (1874). 小學教師必携補遺. 栃木師範学校
- 平田宗史 (1991). 教科書でつづる近代日本教育制度史. 北大路書房
- 古川正雄 (1871). ちゑのいとぐち (出版者・出版地不明)
- 古田東朔 (1984). 小學讀本便覧 (復刻版). 武蔵野書院
- 前田勇 (1964). 近世上方語辞典. 東京堂. p.441
- 水野雅央 (1992). 標準語の現在. 葦書房
- 文部省 (1906). 尋常小學讀本八. 博文館
- 文部省 (1911). 小学校作法教授要項. 宝文館
- 文部科学省 (2012). 小学校学習指導要領. 第三章道徳. <http://www.mext.go.jp>
- 横山駿也 (2007). 残しておきたいこの授業. PHP研究所
- 若林虎三郎・白井毅編 (1887). 改正教授術卷一. 普及舎
- 渡辺友左 (1968). 国立国語研究所報告 33 「家庭における子供のコミュニケーション意識」. 国立国語研究所
 電子化報告書. <http://libgw.ninjal.ac.jp/>
- J.C.Hepburn (1872). 英和語林集成 (再版). 日本横浜梓行

〈論 文〉

叱り表現に関する日中対照研究

—職場を中心に—

任 星 陳咪咪

キーワード：叱り表現，話しことば，日中対照，異文化交流，人間関係

1. はじめに

「叱り」は「お詫び」，「断り」，「感謝」，「謝り」などとともに言語行動として頻りに行われている。「叱り表現」は，相手のよくない点を否定的な態度で表し，また，とがめるものであるため，人間関係を損ねる危険性を持つ発話行為である。世界中のどの国でも，人間は叱り行動を行うとき，できるだけそのあからさまな失礼さを弱めるように努めるわけである。しかし，文化が異なれば，言語的表現とコミュニケーション形式も違ったものになると言ったとおりに，叱り表現も異なっているのではないかと考えられる。

言語行動をめぐる，「お詫び」，「断り」，「謝罪」，「感謝」，「不満」などの研究は盛んに行われているようであるが，職場における叱り表現に関する研究はそれほど見当たらない。異文化交流がますます重要になっていく今日，円滑な人間関係を保つためにどのように叱り表現を把握すればよいのかもだんだん重視されるようになっていく。グローバル化の今日は，日中の貿易往来も盛んになり，それに伴う貿易摩擦もますます多くなってきている。文化の背景が違えば違うほど，言語表現も異なっていると言われているが，果たして，中国人と日本人の叱り表現がどこか違っているのか，その違いが日中交流にどのような影響を与えるのかを調べる必要がある。そこで，本稿では職場における日中両国の叱り表現に注目し，その相違を明らかにしたい。

2. 先行研究

2.1 日本における研究

日本における先行研究には親の叱りことばをめぐる研究が多く見られる。竹内他（1990）では，対教師感情の善悪によって，叱られ手の受け止め方が変わってくる叱りことばもあるが，受け手の反応には，単に教師に対する感情だけではなく，それぞれの叱りことば固有の要因が影響していると指摘している。また，遠藤他（1991）では，叱りことばの表現パターンは，命令形で子どもの行為を指示し，直接的に親の意図を表現するものや，子どもの行為の善悪には直接言及しないが子どもの人格を評価したり，問い出したりして，間接的に親の意図を表現するものなど，14パターンに

分類している。さらに、藤田・丸野（1992）では、叱り手の意図を正確に読み取ることが、必ずしも叱られた行為の修正につながるとは限らず、母子間の情緒的な関係の安定性に関する子どもの信念が、子どもの反応に影響していると述べている。

学校場面において教師と生徒間の叱りは、日常的にもよく見られる。竹内他（1990）では、同じことについてそれぞれ違う叱りことばで叱った場合、子どもが叱り手である教師をどのような人間であるとうけとめるかについてまとめている。また、松田・林（2005）の研究は、親の用いる「叱りことば」をいくつかのタイプに分類し、どのような叱り方が子どもに受容されやすいかということ、親の自分に対する日ごろの関わり方を子ども自身がどのように認知しているかによって、同じ叱り方でも受け止め方に違いが見られるのではないかとすることを調べている。

2.2 中国における研究

夏（2001）では、中国語の叱りについて、ポライトネス理論に基づき、叱りの語用原則と運用を指摘している。また、徐（2002）は、日本語の叱り表現について、直接的と間接的に分けて分析し、直接的表現には、命令という形式で人を叱る表現とひどいことば遣いで人の自尊心を傷つけて罵る表現という二点を言及している。一方、間接的表現には、疑問、励ましなどの緩和な語調で人の過不足なところを指すことが多いと述べ、叱りことばの使用のテクニックについても触れている。

朱（2004）は、アンケート調査から、中国人の日常生活における叱り表現について分析し、日本語教育への必要性を示唆した。李（2005）は、語用論と社会言語学の立場から、実証調査を通して、中国人男女教師の叱りの策略の選択について分析し、その性差を明らかにした。また、陳（2007）は、叱りには、「ちょっと」といった緩和表現を付加することにより、FTAを緩和したり、疑問形を使用して相手の面子を脅かされないように、ポライトネス・ストラテジーの選択が必要であることを示唆している。鄭（2009）は、教師が中学校教育における叱りについての運用を調査分析している。

対照研究においては、趙（2004）は、AustinとSearleの言語行為論とBrown & Levinsonによって提案されたポライトネス・ストラテジーをもとにして、中英叱り言語行為の誤用策略を検討し、叱りの応答について分析した。また、王（2006）では、語用論を人間関係の交際策略の原則の標準として、実例を分析し、中英の叱りのストラテジーに対する文化、コンテキストという二つの変数がどのように役に立つのかを検討した。朱・周（2004）では中国語を勉強する外国人留学生を対象とするアンケート調査から留学生が中国語で叱りを行う状況を整理分析し、中国人と留学生が叱り方についての対照を検討している。安（2010）の研究では、日中両国の家族内の人間関係を基に、テレビドラマを取材・調査し、叱りの方式を明らかにした。

3. 定義と分類

3.1 「叱り」の定義

「叱り」は、表情、しぐさ、言語表現、口調など、さまざまなものを媒介にしてなされる情報伝達

行為である。日中両国の間には文化背景、国民性などの違いによって、人を叱る場合、叱りことば、叱り手と受け手の関係などにそれぞれ異なる特徴が見られる。叱ることは、相手または相手の行為に対する拒否やその程度を示すだけでなく、叱り手の「望ましい」と考える方向に相手の態度や行為を調整し、究極的には「こうなってもらいたい」という抽象的な価値を伝える目的を持っているからである。

『国語大辞典』によると、「叱るというのは、目上の者が、目下の者のよくない点を見て怒って威圧的にとがめる」と定義されている。また、『新明解国語辞典』によれば、「相手の仕方をよくないといって、強く注意する」と記されている。

中国語では「批評、责备」の意味である。「批評」は物事を分析し、その優劣を評定、判断する意味や、相手の間違ったところに対して自分なりの意見を提出するなどの解釈である。一方、「责备」とは上下関係を強調しないで、話者の不満などの気持ちを持ち、他の人のよくない点を責めることである。「批評」も「责备」も叱りに当てはまるところがあるため、本稿では日本語の「叱り」と対照して研究を進めたい。

3.2 叱り表現の分類

遠藤（1991）は、親による叱りことばの表現形態について、まず、直接的表現と間接的表現と大別した。次に、間接的表現に注目し、それらを主として発話の表現形式によって分類し、以下のよう

直接的表現

- ① 望ましくない行為の制止。直接命令形で、制止を命ずる者である。（やめなさい）
- ② 望ましい行為の実行要求。直接的な行動要求、命令である。（勉強しなさい）

間接的表現

- ① 望ましくない行為の指摘（ほら、忘れ物した）
- ② 想起（前にもいったでしょ）
- ③ 望ましくない理由説明（家事になるに決まってる）
- ④ 罰の予告（押入れに入れるぞ）
- ⑤ 望ましくない行為の逆説的指定（勉強したくないなら、するな）
- ⑥ 子どもの人格に対する評価（だらしない子だ）
- ⑦ 突き放し（もう、好きにきなさい）
- ⑧ 聞きただし（どうしてお手伝いしないの）
- ⑨ 話者の不快感の表明（お母さん、がっかりした）
- ⑩ 悪態、罵りによる不快感の表明（バカ、死んでしまえ）
- ⑪ 世間体意識（ご近所に笑われるよ）
- ⑫ その他

なお、職場の場面は家庭内の人間関係とは異なっているため、本稿では、上記の表現形式を参考

にし、下記のように分類する。

直接的表現

- ① 厳しく叱る ② 命令 ③ 禁止 ④ 人格の評価

間接的表現

- ① 問い質し ② 文句を言う ③ 注意する ④ 皮肉 ⑤ その他

婉曲的な命令や勧め、比較など間接的に他の人を責めることをはっきり分けるのは難しいため、「その他」とまとめることにした。

4. 研究方法と調査対象

本研究では、中国と日本のドラマを一部ずつ取り上げ、ドラマに出現する叱りの表現形式、人間関係、性差などを対照分析する。調査対象は以下のとおりである。

a) 日本：『OLにつぼん』

放送時間：2008年10月8日－2008年12月10日（10回）

毎週水曜：22：00－22：54（日本テレビ）

キャスト：観月ありさ、阿部サダヲ、美波、井上芳雄、東幹久、浅野ゆう子、タン・ジャースー、ローラ・チャン、フービン

あらすじ：東慶商事に勤めるOL・神崎島子が所属する総務課は、経済不況の煽りを受けて、経営コストの削減をせざるを得なくなっていた。そこで、会社は総務課の仕事を中国に海外アウトソーシングする方針を出す。当初は、見ず知らずの中国人に仕事を任せられないと憤慨する島子を始めとする総務課の社員達だったが、研修生達の一生懸命に生きる姿を見て、自分達の生き方を見直すことになる。

b) 中国：『杜拉拉昇職記』

放送時間：2010年7月22日－2010年8月10日（32回）

月曜日－金曜日：19：41－21：30（北京放送）

キャスト：王珞丹、李光潔、陳慧珊、李彩樺、雷佳音、尚于博、夏凡、張亮、鄧九雲、馨子、鄭愷、陳彦妃

あらすじ：大学卒業して、会社に入ったOL杜拉拉はある日社長のセクハラに耐えかねて、上海の世界500強企業に入る某外資系企業に転職した。僅か三年の時間で、総務部のアシスタントから、マネージャーに出世した。

5. 結果と考察

5.1 日中叱り表現の合計使用率

日本のドラマでは、「直接的な表現」が37例、「間接的な表現」が44例あった。一方、中国のドラマでは、「直接的な表現」が20例、「間接的な表現」が37例あった。叱りの

表1 叱り表現の使用率

表現	日本	中国
直接的な表現	43.5%	35.1%
間接的な表現	56.5%	64.9%

言語表現の合計使用率をみると全体的に日本においても、中国においても、「間接的な表現」が多く用いられることが分かる。また、日本のほうが中国より「直接的な表現」が多く見られた。言い換えれば、中国人より、日本人のほうが直接的に叱り表現を使う傾向があるといえよう。

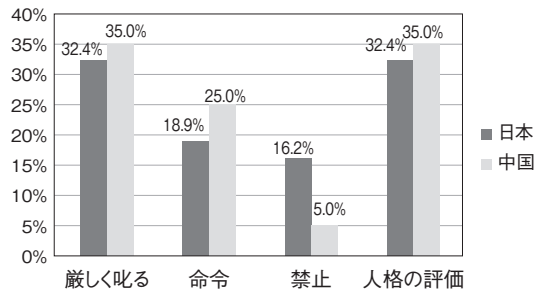


図 1 直接的な表現の種類と使用率

5.2 直接的な表現の種類と使用率

図1は日中の叱りにおける直接的な表現の種類と使用率を示したものである。

直接表現というのは、人を叱るとき、相手のフェイスを脅かして、直接的に話し手の意図を表した行為である。直接的な表現では、日本では、「厳しく叱る」と「人格の評価」の表現が同じ32.4%であるのに対し、中国では、「厳しく叱る」と「人格の評価」が同じく35.0%を占めている。中国側でも、日本側でも、人を直接叱る場合、厳しく叱ったり、人格を評価したりすることが多いということが分かった。例えば：

- (1) 部長：あんたは本真にがっかりさせられたわ、もうちょっと使いもんになると思っていたけど、あんたは本社の総務という温室で育ったもやしや。首になる後輩の身代わりで自分が結婚退職とってみたり、あっさり自分の席を譲り渡すような人間、私は軽蔑します。他人に甘いということは自分にも甘いということです。今の会社にとって一番無駄なのは、あんたみたいな社員かもしれへんね。働かへん社員よりもよっぽどたちが悪いでしょうもないことばかりして…
- (2) 神崎：都留君でそういう人だったんだ。あの二人に恥ずかしいと思わないの？ 張さんとヤンヤンがどれだけ必死に作ったマニュアルか？ 都留君よく知っているでしょう。私に謝ったってだめ、あたしに頭を下げたってだめ、許さない。見損なったわ。

例 (1) 部長は神崎が甘すぎる人間と思い、神崎の行為をさんざんと批判している。それに、神崎の気持ちを全然考えず、「軽蔑する」というような軽蔑表現までも使っている。

例 (2) 神崎は都留君が会社のデータを漏らしていることを見て、がっかりしながらも、都留君を厳しく叱っている。一方、中国側においても、

- (3) Rose：你们怎么搞的，跟你们说了多少次了做事要有章法，每个月自己干什么都说不清楚，年终的时候怎么考评呢。低头认错有什么用啊？我要的是改进。
- (4) 杜拉拉：新疆办事处是DB比较大的办事处，你作为人事主管，你怎么连这点常识都不知道呢。确保工作的准确度，是你工作的基本职责。这已经是第二次了，我不希望这种低级错误再

次発生。

と、厳しく叱る表現がよく使われていることが分かった。

人格を評価する場合は、日本では、

(5) 小旗：こんな無能な社員のせいで。だってそうでしょう，無能で無技能な社員たちが思いつき
 そうな姑息な手段じゃないですか。

(6) 矢部：って，按配ってなんですか？

課長：ばかなのか？

(7) 部長：阿呆やな…

と，よく「阿呆」，「バカ」などのことばを使いながら，人を叱るのに対して，中国の場合は，

(8) 约翰：什么时候轮到你教训我了？真该跟你们王伟谈一谈，现在的年轻人那么自以为是。

(9) 王伟：谁允许你进入我的办公室了，这是我明天要用的，你都装箱子了明天出了事谁负的了责任。

杜拉拉没人教过你什么叫礼貌啊？

杜拉拉：那得分人，没人教过你什么叫尊重？

王伟：尊重？我倒想请教你一下，是谁不请自来的？

杜拉拉：我不自己动手，您会合作吗？

王伟：你别以为你拿着何浩德的令箭，大家都得听你的。

と，よく人の具体的な行為に対して，相手を批判する場面が多いようである。また，このような「人格を評価する」叱り表現は相手の面子を損害するため，よく喧嘩を売るのも一つの特徴であると考えられる。

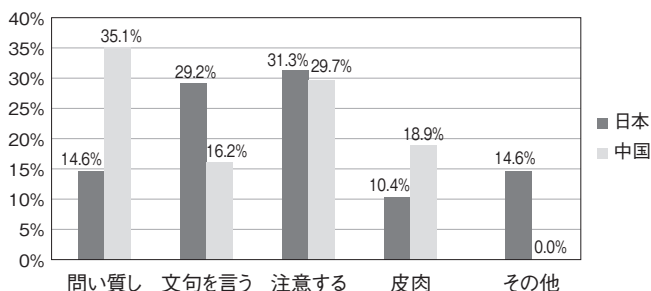


図 2 間接的な表現の種類と使用率

5.3 間接的な表現の種類と使用率

「間接的な表現」は相手のフェイス侵害度を小さくするように努力する表現で、相手の気持ちを考慮し、人間関係を円滑にする表現である。図2のように表現において、「注意する」の割合は日中それぞれ29.7%と31.3%で、中国でも日本でも高いことが分かる。「注意」とは言い聞かせることで、職場では間違っただけを二度と起こらないために社員に忠告することである。例えば：

- (10) 部長：重役会議で総務課アウトソーシングの進行が遅れていると指摘されました、それだけでも、大変なのによその試食会を引き受ける暇はないでしょう。
- (11) 小旗：NOって一言言ってくればよかったんです。彼女たちは心を開いて、あなたたちは閉じて、それごまかそうとして、びくびく空気を読んで、優しいことばでとりつくろいと、それが一番相手を傷つけるんですよ。

(10) のように、「部長は直接試食会をやるのがだめです」とも言えないし、「それをやめなさい」とも言わなく、婉曲的に「それをやる暇がない」と社員に注意した。(11) は日本人の曖昧な話し方で中国人社員に誤解されたとき、小旗さんが解析したことばである。この話は厳しく叱るより、やさしい話し方で、日本人に忠告しているといったほうがよいだろう。

また、図2からわかるように中国の場合、一番割合が高いのは「問い質し」である。

- (12) Rose：拉拉，你刚上班就迟到，怎么能这样？
- (13) Rose：快有什么用？关键是看质量，你看你提的这个方案，连一点基本的品味都没有。你在为谁工作？为你自己？你看你自己的方案，哪一点体现出年轻进取的精神了？
- (14) 约翰：只有两百个，开什么玩笑，现在是开玩笑的时候吗？

「問い質す」とは、はっきりしない点を尋ねて明らかにすることや真実を言わせるためにきびしく責め問うことである。他の否定句や、命令な表現より、叱る語調がもっと強く、態度も明らかで、また叱る意図がはっきり表されたため、聞き手にとって受けかねると考えられる。「怎么能这样？」や「快有什么用？」、「开什么玩笑」などのような表現は疑問形をとっているが、必ずしも回答を要求しているわけではなく、よくない点に注意するためであると考えられる。日本の場合、

- (15) 部長：一体どういうことなんだよ。赤嶺社長だよ、じきじき会場までおいでくださったのに、列の最後尾に並ばせて、あげくに追い返したそうだな。おまけに中国の屋台だと、バッシングさせるこんな社会に、何考えてるんだ？
- (16) 主任：何やってるんだろう、お茶溢しにいったじゃないか。

と、「何やっている」「どういうことなんだ」などもよく使われているが、「注意する」より割合が低

い。これは、職場という特殊な場所で、相手を詰問したところ、聞き手の面子を損害する可能性が高いからではないかと考えられる。

5.4 職場における叱りについて

本稿の研究対象は会社の場面に設定したため、人間関係は主に上司と部下、社員の間という二つに分けられる。また、叱り表現の場面は「上司が部下に対する叱り表現」、「同僚の間の叱り表現」、「部下が上司に対する叱り表現」の三つに分けている。

図3のように、中国では、上司が部下を叱るのが79.0%で、一番多く見られるのに対して、日本においては、同地位である同僚の会社員の間に叱る表現が最も多く、52.9%を占めている。

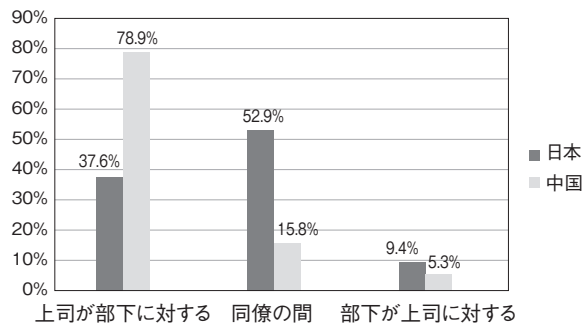


図3 叱りの対象による人間関係

5.4.1 上司と部下の間における叱り表現

図4から見れば、直接的な叱り表現は日中とも「人格の評価」が一番多く、それぞれ、21.9%と16.0%を占めている。例えば：

(17) 杜拉拉：你总是这么没大没小的吗？

(18) 杜拉拉：太过分了他们，他们这不是欺负人嘛，一点职业素养都没有。

それに対し、日本側においては、一番よく使われている表現は「厳しく叱る」である。例えば：

(19) 部長：総務は何考えているんだ？ こんな半人前のよこすとは、営業二部を舐めているのか。私のいすがないのは、何かの嫌がらせか？ 用なし部長というか？ やり直せば済むってもんじゃないだろう。この問題の責任をとれ、責任を！

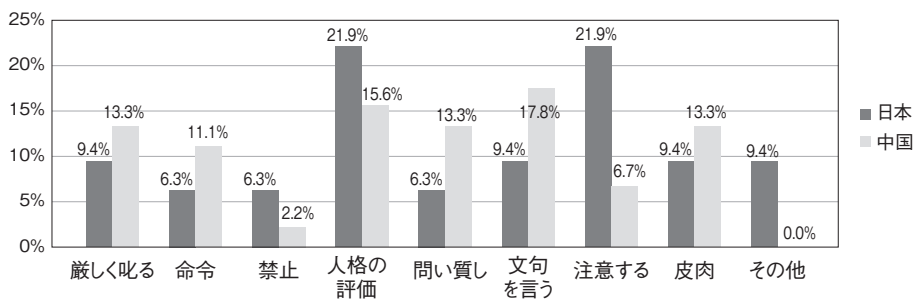


図4 上司が部下に対する叱り表現

例(19)のように、部長は問い詰めながら、皮肉なことばも使い、最後に責任を取ることを命じている。

間接的な表現については、中国側では、「注意する」が20.0%と一番高いが、日本の場合は「文句を言う」が21.9%と一番高い。例えば：

(20) Rose：拉拉，我很忙的，这是你的工作，我的任务呢只是给你建议而已。你要有自己的想法和自己的判断，明白吗？

(21) 约翰：你的手下很厉害嘛，竟然查起我的帐来了。我知道你很忙，但是有空还是多管管他比较好。

と、上司が間接的に人の悪いところを指摘している。

「文句」とは相手に対する不平，不満，不賛成を言って，間接的に叱ることである。例えば：

(22) 部長：常務，そういうこと，急いでやらせるっていつていますでしょう。

(23) 部長：何か意見があるにやったら，何で会議に発言せへんかったん，朝比奈課長？

(22)は常務が指定された仕事を完成できないことに対して，部長は文句を言いながら叱っている。(23)は詰問しながら，朝比奈課長の不足なところを非難している。文句を言い出したのは，日本人の国民性と関連があるのではないかと考えられる。

5.4.2 社員の間における叱り表現

図5は日中の社員の間における叱り表現を示したものである。中国でも日本でも会社員の間に，直接より間接的に同僚を叱る例が多く見られる。日本側の直接的な表現については，社員の間に「厳しく叱る」，「命令」，「禁止」，「人格の評価」がほぼ同じぐらいの割合であった。興味深いところに，中国側においては，「厳しく叱る」と「人格の評価」以外に，ほかの直接的な表現がほとんど見られないようである。例えば：

(24) 小旗：あなたは自分のおかれている立場，まったく分かっていない。(厳しく叱る)

(25) 紅葉：ひど過ぎるんだ，悪口言うなんて最低だ。お母さんに言われなかったの？ ここにいるみんなに謝りなさい。(人格を評価する)

(26) 神崎：邪魔しにきたんですか，帰ってください。(命令)

小旗：いきなりご挨拶ですね。

神崎：用がないんだったらとっとと帰ってくださいよ。

(27) 主任：お前は横入りするなよ。(禁止)

(28) 徐经理：不对啊，你这个态度我觉得非常不对，我们是来帮你澄清你下属问题的，你非但不雪中送炭，还要落井下石呢。(厳しく叱る)

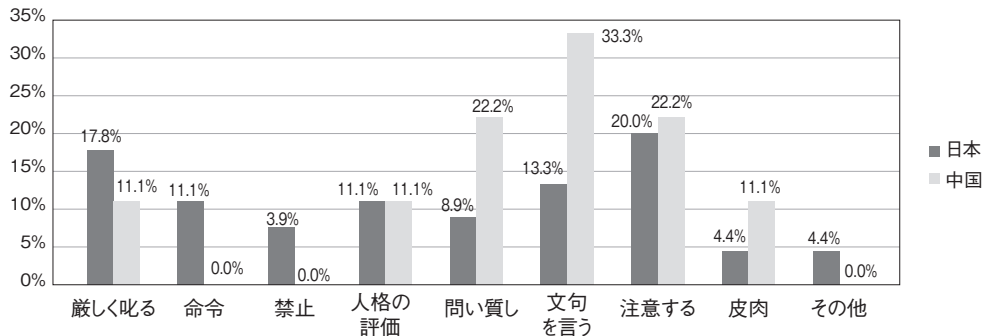


図5 社員の間の叱り表現

(29) 杜拉拉：太过分了他们，他们这不是欺负人嘛，一点职业素养都没有。（人格を評価する）

以上の例から見れば、日本人の場合は四種類の叱り表現を使っているが、中国人は同地位である同僚に禁止や命令することは見られない。日本社会では人間平等主義がよく唱えられており、社員たちの間には、序列がないため、叱る表現も特別拘るところがないのである。その一方、中国人も平等は提唱しているものの、地位が対等な社員の間には、禁止や命令のような表現は使わない。相手の面子を脅かす傾向が強いからであると考えられる。

ところが、間接的な表現について、日本側は「注意する」が20.0%で、最も多く使用されている。中国の場合は「文句を言う」の割合が一番高く、33.3%を占めている。例えば：

(30) 小旗：ばかばかしい。というか、あなたたちは運動会ってやっている場合でしたっけ。将来のこと考えたほうがいいんじゃないですか。

(31) 小旗：甘い、あなたは残るとしても、みんなを救うのは無理です。

(32) 麦琪：感谢信会不会太长啊，我记得我们以前都只有一页纸，那么长人家没有耐心看完。还有啊，以后寄邮件给我就好了，动不动就这样列印，那么浪费，不符合我们公司环保原则。

日本人の場合は相手に気を使ってほしいため、相手のよくないところを指摘したり、注意するのが多いが、中国人の場合、文句を投げる形で相手を婉曲的に叱ることが多いようである。このような場面は新人社員に対する場合に多く見られる。

5.4.3 部下が上司に対する叱り表現

一般的には部下が上司を叱ってはいけないのが常識であるが、極端な場合に、部下が上司の行為に耐えられなく、上司を注意したり、文句を言ったりすることもある。

図6からわかるように、日本は上司に注意することが一番高く、中国は、「問い質し」という表現しか見られない。例えば：

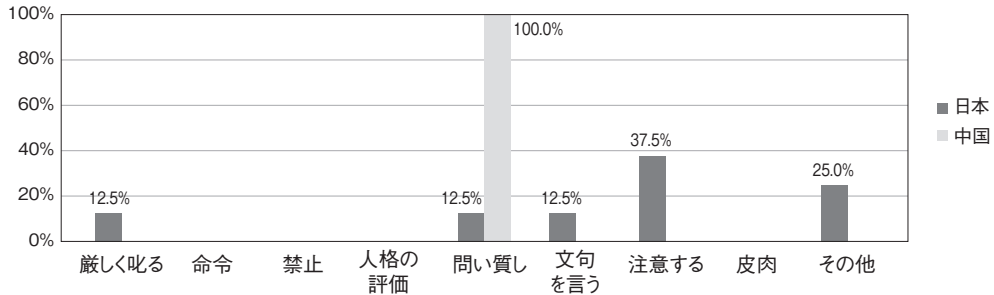


図6 部下が上司に対する叱り表現

(33) 課長：部長、あんまりです。

(34) 課長：塞げない、塞げじゃないって言ってた。彼女たちは毎日どんな思いで頑張っているのか、しているか。どれだけ必死に、この会社に溶け込もうか知っているか。この会社はバイト代も出ないのに、試食会盛り上がり頑張ってくれたんだ。国の両親が持たしてくれた大事な唐辛子、それだけ全部使って、それは何なのか、あんたの心に感謝の気持ちないのか。彼女の気持ち知りもしないで、知ろうともしないで。評価する資格があるのか、これから総務課はどうなるか分からない、でもこの二人は働いていて、一緒に生きている仲間だ、仲間の悪口を言うの、おれは絶対悪口言わない。あんたが総務に丸投げした仕事俺たちはちゃんとやってた。全員でやった。あんたに文句言う資格はない、分かっているか、分かったら、出てください。

(35) 杜拉拉：王总，环保怎么能做做样子呢，公司对外已经表态了就更应该在公司内部推广下去，再说只是做表面功夫，那也太虚伪了吧。

(36) 杜拉拉：你敢说你现在的沉默，将来不需要向上帝忏悔吗？

(37) のような、課長が部長に対して、怒鳴りながら、厳しくたずねるのが極めて少ないことであるが、調査対象となったドラマの中では一例しか見られない。中国側においても、部下が上司に詰問する「問い質し」の例は三つしか見られない。

以上から、日中両方とも部下が上司に叱る表現が少ないことが分かる。

6. 叱り表現の相違と異文化交流

6.1 文化的背景

言語はただ人間の感情を表現する手段であるばかりでなく、言語の形態そのものの中に、人間の心理が刻み込まれている。そして、異なる言語を比較することによって、人間の心理の特徴もある程度明らかになることもある。中根（1976）は「日本社会に根強く潜在する特殊な集団意識のあり方は、そして日本社会の津々浦々まで浸透している普遍的な「イエ」(家)の概念に明確に代表され

ている」と述べている。

また、日本人は人を叱るとき、「注意する」形が一番多く使われることは日本人の「甘え」の文化心理とも関係があるのではないかと考えられる。日本人は、「仲間はずれ」にされることを極端に恐れるため、強く自分を主張することよりも、周囲を同調して、たとえ意見が違ったとしても「丸くおさめる」ことを好む。自分自身の考えを持って目立つことよりも、人の考えに同調して「平均化」しようとする。こういう背景の中で、日本人は自分の行動に対する他人の批評に常に気を配っている。他人にばかされ、何かを拒否されること、特にそれが人前で行われた場合、恥として感じる(韓, 2006)。したがって、人を叱る場合も、人の気持ちを配慮して、なるべく、「文句を言う」や「注意する」形で婉曲的に人の悪いところを指摘するのである。

6.2 異文化交流への示唆

「ことばを教えることは文化を教えると言われるが、ことばの使われ方は各文化によって異なる。母国語を学ぶ時にはそれと共に文化を学んでいくことに問題がない、外国語を学ぶ時に学習者はすでに母国語の文化的価値、社会規範を持っているために社会言語的転移が生じやすい」と横田(1985)は述べている。異文化間コミュニケーションを行うとき、ことばは通じて、その言語使用と文化背景の違いによって相手の誤解や不快を招きかねない。よりスムーズにコミュニケーションができるように、日中の叱りについての使用の共通点と相違点を明らかにしたことが役に立つ。中国人の方が日本人より積極的配慮を重視するが、日本人の方が中国人より消極的配慮を愛用する傾向が観察される。中国語のほうは言語依存型というタイプで、発話の正当性、説得性が重視されるが、日本語は「以心伝心」、「腹芸」などと言語不信型、あるいは、言語軽視型という傾向がある。芳賀(1979)が言うとおり、日本人はおしなべてコミュニケーションに対して消極的な民族であることを特色とする。教育においても、国際化、異文化の重要性が呼ばれて久しいが、何をどのように学習すべきか、真剣に論議しながら試行的実践を積み重ねていくことが必要であると思われる。

7. おわりに

本稿では、日本と中国のテレビドラマから収集した用例によって、叱り表現について考察を行った。叱りにおける直接的な表現と間接的な表現という二つの種類は日本でも中国でも存在している点で共通しているが、両国でも間接的な表現が圧倒的に多いことが明らかになった。

また、各種類の言語表現は人間関係によって、使われる割合も異なっている。日本の場合は、上司が部下に対して、一番多く使われる表現が「人格の評価」と「文句を言う」で、中国では、「注意する」がもっと多く使用されている。また、同地位の同僚の間では、日本人は「注意する」ことが好まれるが、中国人はよく「文句を言う」という形で相手を叱る。極めて稀な場合に、部下が上司に対して不満を伝えようとして、叱ることもあるが、日本人においては「注意する」が一番多く、中国人では「問い質し」が多い。

本研究では、叱り表現について分析してきたが、テレビドラマから取材したデータは、登場人数

が異なるなど、得られた結果も多かれ少なかれ偏りがある恐れがある。また、叱ることは、叱りことばと伴う、顔の表情、手振り、しぐさなどの言語外の要素や、声などの要素によっても表現している。このような叱りに対する受け手の言語反応については今後の研究課題としたい。

参考文献

- 安偉 (2010)「叱り表現に関する日中対照研究」中国海洋大学修士論文, pp.1-49.
- 陳建祥 (2007)「漢語語境下批評言語行為研究」『安徽理工大学学報 (社会科学版)』6
- 遠藤由美・吉川佐紀子・三宮真智子 (1991)「親の叱りことばの表現に関する研究」『教育心理学研究』39:1, 日本教育心理学会, pp.85-91.
- 藤田敦・丸野俊一 (1992)「親の叱りことばの受容過程における子どもの状況認知の役割」『九州大学教育学部紀要 (教育心理学部門)』37:2, pp.133-142.
- 芳賀綏 (1979)「日本人のコミュニケーション」『日本人の表現心理』中央公論社
- 韓少紅 (2006)『日本文化概論』南開大学出版社, p.221.
- 金田一京助他編 (1999)『新明解国語辞典』第5版 [電子版 Ver. 3.0] 三省堂
- 李琳 (2005)「試論批評言語行為中的性別話語模式」『湖南社会科学』5, 湖南省社会科学界連合会
- 松田君彦・林紋子 (2005)「親の叱りことばの表現と子どもの受容過程に関する研究 (Ⅱ) —原因の所在に関する認知が受容過程に及ぼす影響を中心に—」『鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要』15, pp.149-156.
- 中根千枝 (1967)『タテ社会の人間関係 — 単一社会の理論』31, 講談社
- 尚学図書編集 (1981)『国語大辞典』[電子版] 小学館
- 竹内史宗・三宮真智子・遠藤由美 (1990)「小学生の教師に対する好悪感情と叱りことばの認知」『日本教育心理学会第32回総会発表論文集』, p.306.
- 梅棹忠夫・金田一春彦 (1995)『日本語大辞典』第2版 [カラー版] 講談社
- 王瑾 (2006)「英漢批評言語行為対比研究」上海海事大学修士論文
- 夏中華 (2001)「批評的語用原則及運用」『修辞学習』1, 復旦大学
- 徐昌華 (2002)「關於責備語的語用考察」『日語学習与研究』2, 对外經濟貿易大学
- 横田淳子 (1985)「ほめられた時の返答における母国語からの社会言語学的転移」『日本語教育』58号, pp.203-217
- 趙英玲 (2004)「英漢批評言語行為語用研究」『吉林師範大学学報』1
- 鄭璇 (2009)「論批評語用策略在教学中的運用」『西昌学院学報 (社会科学版)』4
- 朱湘燕 (2004)「漢語批評語用策略調查」『語言文字応用』1, 教育部語言文字応用研究所
- (2005)「影響批評語用策略選択的文化因素」『暨南大学華文学学院報』2
- (2007)「影響漢語批評語用策略選択的社会因素」『広州大学学報 (社会科学版)』6
- 朱湘燕・周健 (2004)「漢語批評言語行為的中外対比研究」『華南師範大学学報 (社会科学版)』3

〈論 文〉

中国人日本語学習者の特殊拍の学習メカニズムの検討

—既知語・未知語・無意味語の比較から—

木 下 直 子

キーワード： 特殊拍の生成，学習メカニズム，中国人日本語学習者，音響表象

1. 研究の背景

本研究の目的は，中国人日本語学習者を対象とし，日本語の特殊拍の学習メカニズムを解明することである⁽¹⁾。

多くの日本語学習者に共通して，日本語の長音，促音，撥音などの特殊拍は，聞き分け，発音ともに困難だと指摘されている（助川 1993，戸田 2003）。例えば，「おばあさん」の「あ」をどの程度長く発音したらよいのか，「来てください」が「切ってください」とならないように，どの程度短く発音したらよいのかわからない学習者が多い。特殊拍の拍感覚がつかめなため，新しい単語を聞いても辞書で引けなかったり，ワープロで漢字変換ができなかったり，日常会話はもちろん，発表時には特に伝わらないまま終わったりすることがある。日本語教育の分野では，このような状況に対応すべく，特殊拍に関する数多くの調査，研究，教材開発が行われてきたが，その成果が教育に還元できるまでに検討されてきておらず，練習項目においても，なぜその順で提示するのか，なぜその方法をとるのかといった根拠となる理論がない場合が少なくない。

LS型（重音節＝L，軽音節＝S）		
A1. ほんや	2. こんど	3. へんじ…
B1. りっぱ	2. いっぱ	3. きって…
<u>SLS型</u>		
①にほんご	②どうようび	③じてんしゃ…

図1：土岐・村田（1989）

タン・タン	タ・タン・タン
	
おば・さん	お・ばあ・さん
おじ・さん	お・じい・さん
びょう・いん	び・よう・いん

図2：戸田（2004）

図1，図2は既存の特殊拍を扱った教材の一例を示したものである。この例にあるように，既存の教材では，特殊拍の拍感覚をつかませるために同じリズムパタンの単語を複数提示し，練習する方法がとられている（土岐・村田1989，戸田2004，赤木ほか2010）。実際に日本語学習者は「タン・タン」「タ・タン・タン」のような音響表象で記憶しているのだろうか。これを考える上で，Levelt（1989，1993）の言語産出モデルから考えたい。

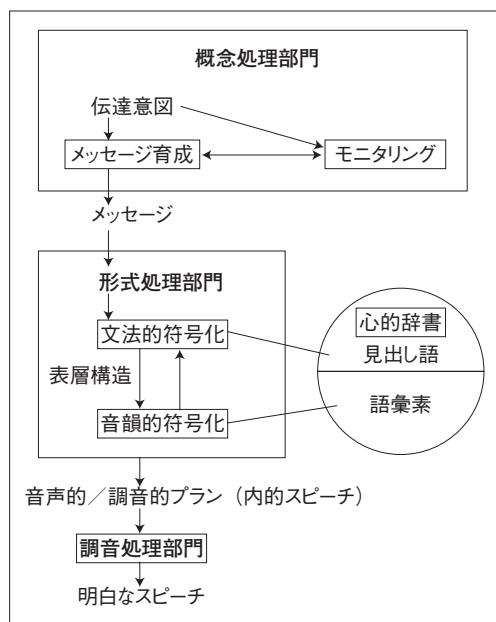


図3：言語産出モデルの一部
(Levelt 1989, 1993 より)

図3はLevelt (1989, 1993) の言語産出モデルの一部である。人は何か伝えたいメッセージが生まれると、その発話意図がまとめられ（概念処理部門）、これまでに学習・習得して蓄積している心的辞書内（mental lexicon）⁽³⁾ の情報から、文法、語彙、音声情報を検索して選び出して文の形にし（形式処理部門）、肺や口の筋肉を使って（調音処理部門）発話に至るといふ。このモデルは第一言語話者を想定したものであるが、de Bot (1996) は第二言語話者であっても同様のプロセスであると述べている。

この心的辞書に単語の音声情報、子音や母音、アクセントなどの音声情報があり、形式処理部門の音韻的符号化にある韻律生成装置（Prosody generator）で韻律が調整されるという。例えば、

A: The class starts now', B: 'The class is starting

today', C: 'The classes should be starting tomorrow' (□は強勢が置かれる母音) は、A, B, Cの順に文字数として文字数が多くなるが、いずれも「タンタンタン」という同じリズムになる。強勢が置かれる母音が強く伸長し、それ以外の母音と子音のクラスターが短縮することで、拍が調整されるのである。つまり、英語の「リズム」は機能語が短縮し、内容語が伸長する傾向があるものの、発話意図によって伸縮の程度が異なってくるため、単語とは異なる層でリズムの調整がチェックされる。そして、単語の単位でリズムの正誤を確認することはできない。これに対して、日本語は子音の時間長が短い/r/の後続母音は長さが長くなり、子音の時間長が長い/s/の後続母音は長さが短くなるという補償効果があり、1つのモーラがほぼ同じぐらいの長さを持つモーラ拍リズムである(匂坂1999)。モーラ拍リズムのため、単語の単位でもリズムの正誤を確認することが可能である。

また、英語の'read'は、現在形では/ri:d/と長音になるが、過去形は同じ表記であるのに/red/と短母音になり、長短の違いは表記に現れない。韓国語の場合も밤 (/pam/, 夜) 밤 (/pa:m/, 栗)のように長短の違いで意味が変わるとされているが、その長短は文字表記には現れない(李1986)。これに対して、日本語の特殊拍はどこに長音、促音、撥音があるのか明記されるため、単語の表記を学習する時に特殊拍の位置を覚えてリズムを産出する可能性がある。「おばあさん」は単語として長音の位置も撥音の位置も覚えているのでリズムを正しく生成できるが、「美容院」は知らないから実現できない場合、日本語のリズムは心的辞書に情報が保持され则认为られる。しかし、「おばあさん」の単語を覚える時に「タタンタン」のような何らかの音響表象が生まれ、韻律生成装置にルールとして保持され、その音響表象が知らない単語に応用されるという可能性もある。この点については、管見の及ぶ限り先行研究で明らかにされてこなかった。

これまで日本語学習者を対象としたリズムの研究結果を見てみると、鹿島（2001）は、韓国語母語話者、英語母語話者、スペイン語母語話者を対象に日本語の生成調査を行い、学習者全体に共通して21型、221型、122型⁽²⁾が日本語母語話者と異なっており、生成の難易がリズムパターンに関与していることを示唆している。木下（2011）は、韓国人日本語学習者を対象に行った3年にわたる縦断研究で、日本語の特殊拍を含む単語の生成調査の結果、11型、21型は早い段階で習得しているが、122型、221型の単語に関しては3年経っても習得していない学習者が多いことを報告している。神田・魚住（1993）では、直接の調査結果ではないが、リズム指導の効果は既習語のリズムだけでなく、未習語のリズムにも影響を及ぼしていたと述べている。これらの研究結果から、リズムは単語ごとに学習するのではなく、リズムパターンなどの抽象的なルールをもとに記憶していることが予測される。本研究の最終目標は、日本語学習者が日本語の特殊拍の拍感覚を習得するために、モデル音をどのように提示し、教育したらよいか、その方法を探ることである。その第一段階として、本稿では中国人初級日本語学習者を対象とした特殊拍の生成調査から、特殊拍の学習メカニズムを検討する。

2. 研究課題

本調査では、以下の2点を研究課題とする。

1. 特殊拍を含む既知語、未知語、無意味語の生成の習得度には違いが見られるか。

リズムパタンの種類に関わらず、既知語の習得度が高く、未知語や無意味語の習得度が低い場合、単語ごとにリズムを学習している可能性がある。逆に、既知か未知かに関わらず、リズムパターンにより習得度の違いが確認された場合は、リズムパターンで学習している可能性が考えられる。

2. 生成の習得度にもっとも影響する要因は何か。単語の種類（既知語、未知語、無意味語）、リズムパターン（11型、21型、12型、212型、122型、221型）から検討する。

3. 調査内容・方法

3.1 調査協力者

本研究の調査協力者は、中国上海の大学で日本語を専攻している中国人日本語学習者18名で、日本語学習歴が3カ月の初級学習者である（4）。また、評価者として、日本語母語話者6名にリズム評価を依頼した。アクセントや単音の間違えが評価に影響しないよう、リズムだけで判定してもらう必要があるため、依頼した評価者6名は、大学で日本語の音声教育を専攻し、尚且つ教育経験を持つ日本語の音声専門家である。

3.2 調査語

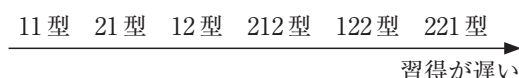
調査語は、有意味語36語（既習語18語、未習語18語）、無意味語18語の計54語である（表1）。既習語、未習語の選択にあたっては、調査協力者が必修の授業で使用している教科書（周平他編著

『新編日語』上海外国語教育出版)を参考にし、日本語クラスの担当教員と授業の進捗を確認しながら行った。また、リズムパターンについては、木下(2011)の結果をもとに習得の早かったリズムパターン(11型・21型)と習得の遅かったリズムパターン(221型・122型)、その中間(12型・212型)を選択した。木下(2011)は、韓国人日本語学習者を対象にした結果であるが、鹿島(2001)においても、学習者全体に共通して21型、221型、122型が日本語母語話者と異なっていたとしている。21型については、木下(2011)では習得が早かったため、鹿島(2001)の結果と一致が見られていないが、モーラ数が少なく、音節構造が複雑になるほど、長さのコントロールが難しくなるという見解にもとづき、選択した。

表 1：調査語⁽⁵⁾

パターン	既習語	未習語	無意味語
11 型	ここ、外、駅	子機、里、雨季	けこ、しと、えけ
21 型	雑誌、料理、切符	実施、流儀、河童	ぜっし、りゅうり、きっぱ
12 型	昨日、2年、授業	苦悩、2間、ジャ行	けのう、なねん、じゅぎゅう
212 型	何時間、10時半、15分	難事件、消火栓、常備品	にんじけん、じょうじはん、じゅうぎふん
122 型	お母さん、お兄さん、記念品	お坊さん、和尚さん、可燃品	えかあしん、おのうせん、きのんひん
221 型	研究所、文房具、32	困窮者、金鳳花、3畳間	かんきゅうじょ、べんぼうが、せんじゅうな

木下(2011)の結果



3.3 調査方法

調査は、雑音のない静かな環境で1名ずつ行った。まず、既知語を把握するため、有意味語(既知語・未知語)のリストの中で知っている単語にチェックをし、中国語訳を記入してもらった。

次に、コンピュータ画面上に単語の種類、リズムパターの提示順をランダムにした調査語(ひらがな)を1語ずつ示した。そして1語につき3回ずつ読み上げるよう指示をし、実際に2つの単語を用いて流れを確認した後で、54語を読み上げてもらった。その際、読み間違えたり、不自然だと感じたりした語については、何度でも言い直し、調査協力者が納得のいくまで発音してもらった。読み上げた内容は、SONY製PCMレコーダーで録音した。この調査にあたる調査内容の説明や指示、練習はすべて中国語で行った。

3.4 分析方法

まず、評価用CDの作成について述べる。調査協力者に3回読み上げてもらった音声データのうち、3回目の発音のみを評価対象とした。音声編集ソフトSound it! (ver.6.0)を用いて、調査語ご

とに18名のデータをランダムに並べ換え、1つの音声データを、2回ずつ聞けるように編集した。評価用CD全体の長さは、約2時間分である。

次に、評価について述べる。日本語音声専門家6名に評価用CDを聞いてもらい、「リズムが上手だ」に同意する程度を5段階スケールで評価してもらった。その際、アクセントや単音の間違えでは評価せず、リズムで評価をすること、音声分析ソフトを用いて評価しないこと、CDを何度でも聞いてよいので、評価者が納得のいく判定をすることを指示した。本研究では、この評価の結果を習得度とする。

最後に分析方法について述べる。まず、既知語の調査で、訳語の正しいものを既知語とし、知っている語にチェックが入っていない語、訳語が書かれていない語、訳語が誤っている語を未知語とした。研究課題1「既知語、未知語、無意味語の生成の習得に違いが見られるか」を明らかにするために、反復測定分散分析を行い、既知語、未知語、無意味語の各グループに違いが見られるかを検討した。研究課題2「生成の習得にもっとも影響する要因は何か」を明らかにするために、単語の種類、リズムパターンを独立変数、習得度を従属変数として重回帰分析を行い、最も評価に関わる要因を特定した。この結果をもとに、日本語学習者の日本語特殊拍の学習メカニズムを検討する。

4. 結果

表2は、リズムパターン別に見た既知語と未知語の平均語数である。全体の平均語数は、既知語約2語、未知語約4語であった。

表2：リズムパターン別既知語・未知語の平均語数

	11 型		21 型		12 型	
	既知語	未知語	既知語	未知語	既知語	未知語
平均語数	2.17	3.83	2.44	3.56	2.44	3.56
	212 型		122 型		221 型	
	既知語	未知語	既知語	未知語	既知語	未知語
平均語数	2.33	3.67	1.39	4.61	1.11	4.89

評価の内的整合性、すなわち日本語音声専門家の評価の一致について、統計分析ソフトSPSSのクロンバック α 係数から確認した。その結果、 $\alpha=.898$ であり、ある程度の高い一致が見られたことから、以下の分析を行うことにした。

研究課題1「既知語、未知語、無意味語の生成の習得に違いが見られるか」を検討した分析結果について述べる。

習得度の単語別平均値は、既知語2.88、未知語2.77、無意味語2.67であった（表3）。この結果を用いて反復測定分散分析の線型分析を行ったところ、単語の種類による有意差が認められ、習得度の高い順に既知語、未知語、無意味語であることが確認された（ $F(1, 17) = 7.178, p = .016$ ）。

表3：習得度の平均値及び標準偏差（SD）

	高		中		低		単語別
	11 型	21 型	12 型	212 型	122 型	221 型	平均値
既知語	3.01	3.11	2.2	2.7	3.22	3.07	2.88
SD	0.73	0.44	0.91	0.73	0.53	0.93	0.71
未知語	2.66	3.06	2.37	2.7	2.72	3.11	2.77
SD	0.78	0.64	0.74	0.78	0.4	0.64	0.66
無意味語	2.23	3	2.41	2.59	2.64	3.16	2.67
SD	1.09	0.53	0.93	0.92	0.86	0.69	0.84
パターン別	2.63	3.06	2.33	2.66	2.86	3.12	—
平均値	0.86	0.54	0.86	0.81	0.6	0.75	

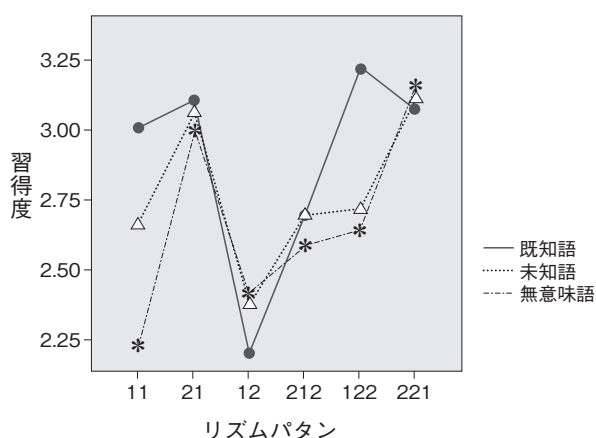


図4：リズムパターン別習得度

図4は、既知語、未知語、無意味語の習得度をリズムパターン別にまとめたものである。図4を見ると、習得の傾向にはリズムパターンにより違いがあることがわかる。

先の分散分析の結果では、既知語の習得度が未知語や無意味語に比べて高いことがわかったが、それが顕著に表れているのは、6つのリズムパターンの中で2つで11型と122型のみである。

21型、221型は、単語の種類に関わらず、習得度が高い。逆に12型は単語の種

類に関わらず、習得度が低い。そして、212型についても単語の種類によって習得度には大きな違いが見られない結果となった。次に、研究課題2「生成の習得にもっとも影響する要因は何か」を検討した結果について述べる。

表4：重回帰分析の結果

モデル	R	R ²	調整済みR ²	F値	有意確率
12 型	.404	.163	.147	10.145	.002
12 型 + 21 型	.508	.258	.229	8.871	.000
12 型 + 21 型 + 221 型	.586	.343	.304	8.702	.000

単語の種類、リズムパターンを独立変数、習得度を従属変数としたステップワイズ法による重回帰分析を行った。表4は、その結果で有意であったもののみをまとめたものである。

表4の通り、評価に影響している要因はリズムパターンの12型、21型、221型であった。また、相関係数は、12型が-.404 ($p=.002$)、21型が.383 ($p=.004$)、221型が.282 ($p=.039$) であった。12型はマイナス相関であったことから習得度が低く、21型、221型はプラスの相関であることから、習

得度が高いという結果である。これは図4の結果と一致する。単語の種類に関しては有意な影響が確認されなかった。

5. 考 察

第二言語として日本語のリズムを学習する際、単語ごとに覚えていくのか、あるいは単語の音響表象が生まれ、そのリズムパターンで覚えていくのかを検討した。その結果、①リズムパターンで学習する傾向にあること、②習得度にもっとも影響する要因は、リズムパターンであることがわかった。

全体の単語別平均習得度をもとに分散分析をした結果では、既知語の習得度が高く、未知語、無意味語の順で習得度が低かったが、事後テストでさらにリズムパターン別に見てみると、6つのリズムパタンのうち4つ（21型、12型、212型、221型）のリズムパターンで、既知語と未知語、無意味語の習得度には差が見られなかった。また、重回帰分析の結果においてもリズムの習得度にもっとも影響する要因はリズムパターンであった。これは、Leveltの言語産出モデルの韻律生成装置に何らかの音響表象が保持され、ルールとして他の単語にそのリズムを適用していることを示唆する結果である。

ただし、今回は表2で示した通り、リズムパターンにより既知語の平均語数が異なっていた。21型と12型はどちらも既知語の平均語数は2.44語であったが、122型、221型はそれぞれ、1.39語、1.11語しかなかった。既知語が多くなるとリズムの音響表象ができないということはないが、今回の調査では既知語がまったくない学習者が212型で5名、122型で1名、221型で5名いた。既知語がないものに関しては、そのリズムパタンの「日本語の音響表象」が形成されているとは考えにくい。念のため既知語がなかった学習者のデータを削除して分析してみたが、本調査の結果に違いは見られていない。しかし、学習期間3カ月の学習者を対象としていること、221型など既知語がない学習者が5名おり、平均既知語数も1.11語であっても習得度が高いこと、Major (2001) で学習初期段階には母語が大きく影響するという見解を考え合わせると、母語の音節構造が影響している可能性は高い。

先行研究の結果と比較しても母語、特に母方言の影響が推察される。韓国語母語話者、英語母語話者、スペイン語母語話者を対象とした鹿島 (2001) の結果、韓国人日本語学習者を対象とした木下 (2011) の結果では、共通して221型の習得が遅かったが、本調査の結果では習得度が高かった。北京語話者を調査した鹿島・橋本 (2000) の結果では、全体的に軽音節「1」が重音節「2」になる傾向があると指摘しているが、Duanmu (2009) は普通語の場合、第2音節に来るCVは、CVCと同じように強勢、長さ、声調を保つと述べ、鹿島・橋本 (2000) の結果を裏付けている。これに対して上海方言については、‘When a Shanghai syllable occurs in an unstressed position, such as the second syllable of a disyllabic compound, it is short and unstressed and loses its tone.’ (p.134), すなわち、第2音節に来るCV (子音+母音) は強勢がなくなり、短くなる。そして声調もなくなるという。この点で上海方言は普通語と異なるとしている。本調査の結果で、鹿島 (2001)、鹿島・橋本 (2000)、木下 (2011) の結果と一致が見られなかった点、単語の種類を問わず、21型、221型とい

う語末が短くなる語の習得度が高かった点で、調査協力者の母語、母方言である上海方言の韻律的特徴の影響が予測される。しかし、これはあくまでも推測の域を超えず、今後の検証が必要である。以上の結果及び考察をふまえた上で、特殊拍の学習メカニズムを予測する。先の図3でLevelt (1989, 1993) の言語産出モデルの一部を示したが、その中の形式処理部門と心的辞書の部分を取り上げたものが図5である。

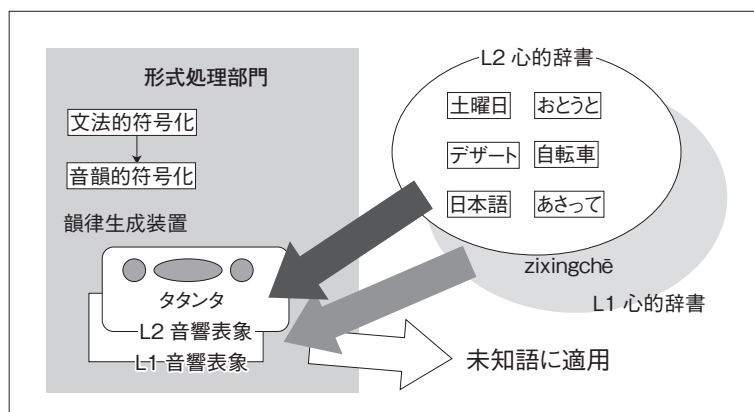


図5：特殊拍の学習メカニズム

第二言語のリズムは、11型や122型の結果に見られるように、既知語のリズムから何らかの音響表象が生まれ、学習すると考えられる。ただし、学習の初期段階において、L2 心的辞書に日本語の既知語がない場合やはっきりとした音響表象がない段階では、未知語とL2の音響表象の結びつきが弱い。その場合、L1 心的辞書に蓄積されている母語の単語から生まれ、韻律生成装置に蓄積されてきたL1の音響表象の方が優勢となって日本語の未知語に適用されるというものである。これについては、縦断的に既知語が増加した時にどのように変化していくのかを見ていくことが不可欠であり、今後の課題としたい。

これまで日本語のリズム教育を扱った教材では、特殊拍の拍感覚をつかませるために同じリズムパタンの単語を複数提示し、練習する方法がとられてきたが、本研究の結果はこの方法を支持するものである。

6. 結 論

本研究では、中国人日本語学習者18名を対象とし、Levelt (1989, 1993) の言語産出モデルを参考に1. 既知語、未知語、無意味語の生成の習得度に違いが見られるか、2. 生成の習得にもっとも影響する要因は何かという2つの研究課題を立て、日本語学習者がどのように日本語の特殊拍を学習していくのか、その学習メカニズムの解明を試みた。その結果、次の3点が明らかになった。①既知語のリズムパターンが未知語に影響すること。②影響が見られないリズムパターンについては既知語からそのリズムパターンを学習すること。③生成の習得にもっとも影響する要因はリズムパターンであること。ただし、学習初期の段階では音響表象が形成されていないものもあり、その場合には第一

言語の音響表象が優勢になることが示唆される結果が得られた。

今後は、調査対象者の日本語のレベルを考慮し、縦断的に調査を行っていくとともに、実際にリズムパタンを使って教育を行い、特殊拍の学習メカニズムを検討していきたい。

〈注〉

- (1) 本稿は、日本語教育国際研究大会における口頭発表（2012年8月）及び日本音声学会第26回全国大会における口頭発表（2012年9月）の内容を加筆修正したものである。
- (2) 鹿島（2001）は軽音節を「1」、特殊拍を含む重音節及び2モーラのまとまりを「2」としている。本稿では、軽音節を「1」、特殊拍を含む重音節を「2」する。
- (3) 門田（2003）では、心的辞書（メンタルレキシコン）を次のように説明している。「人はその長期記憶中から必要な情報を検索し、心の中の作業場であるワーキングメモリ内で保持、加工することで、言語によるコミュニケーションが可能になる。この長期記憶中で特に、語の形態（綴り）・音韻・意味・統語などの情報が蓄えられている部分を、メンタルレキシコンと呼ぶ。」
- (4) 戸田（2008）では、単語、文、自然発話のタスクで母語話者レベルと評価された発音の学習成功者に共通して学習初期にインプットの洪水を経験していることが述べられている。その評価には日本語らしさに関わる韻律的特徴の関与が考えられることから、リズム学習においてもインプット量の多い国内の学習者を対象とすべきとの見方もある。しかし、木下（2010）の3年に及ぶ生成調査の結果において、国内外の日本語学習者のリズム習得度に差は確認されなかった。そこで、同じ母語で同じ学習期間を持つ学習者を対象に検討することにした。
- (5) 表1では便宜上漢字表記を用いているが、調査ではすべてひらがなで提示した。

参考文献

- 赤木浩文・内田紀子・古市由美子（2010）『毎日練習！ リズムで身につく日本語の発音』東京：スリーエーネットワーク
- 이호영（李ホヨン）（1986）『국어음성학（国語音声学）』태학사
- 鹿島央（2001）『日本語発音教育への応用をめざした新しいリズム単位の音声の実現に関する基礎研究』平成9年度～平成12年度科学研究費補助金（基盤研究（C）（2））研究成果報告書
- 鹿島央・橋本慎吾（2000）「日本語リズムの語レベルでの特徴について—北京語話者の場合—」『名古屋大学日本語・日本文化論集』8, 75-90.
- 門田修平 編著（2003）『英語のメンタルレキシコン』東京：松柏社
- 神田紀子・魚住友子（1994）「リズム教育の効果について」『名古屋大学日本語・日本文化論集』1, 61-73.
- 木下直子（2010）「日本語特殊拍のリズム習得—海外と日本の学習者の比較—」『2010年度世界日語教育大会予稿集』DVD no.413.
- 木下直子（2011）『日本語のリズム習得と教育』東京：早稲田大学出版部
- 木下直子（2012）「発音習得—既知語のリズムが及ぼす未知語への影響」『日本語教育国際研究大会予稿集第1分冊』384.
- 木下直子（2012）「日本語特殊拍の学習メカニズムの検討—既知語・未知語・無意味語の比較から—」『日本音声学会全国大会予稿集』49-54.
- 匂坂芳典（1999）「日本語音韻の時間長制御と知覚」『言語』28-29.
- 助川泰彦（1993）「母語別に見た発音の傾向—アンケート調査の結果から」『日本語音声と日本語教育』文部省重点領域研究「日本語音声における韻律的特徴の実態とその教育に関する総合的研究」187-222.
- 土岐哲・村田水恵（1989）『発音・聴解』東京：荒竹出版
- 戸田貴子（2003）「外国人学習者の日本語特殊拍の習得」『音声研究』7-2, 70-83.

戸田貴子 (2004) 『コミュニケーションのための日本語発音レッスン』 東京：スリーエーネットワーク

戸田貴子 (2008) 『日本語教育と音声』 東京：くろしお出版

de Bot, K. (1996) The psycholinguistics of the output hypothesis, *Language learning*, 46, 529-555.

Duanmu, San (2009) *Syllable Structure: The limits of variation*, Oxford University Press.

Levelt, W. J. M. (1989) *Speaking From Intention to Articulation*, Massachusetts Institute of Technology.

Levelt, W. J. M. (1993) *Lexical Access in Speech Production*, Blackwell.

Major, R. C. (2001) *Foreign Accent: The Ontogeny and Phylogeny of Second Language Phonology*, Lawrence Erlbaum Associates.

〈論文〉

日本語の発音の改善に見られるシャドーイングの効果

—中国語（広東方言）を母語とする日本語学習者の群別再考察—

喬 方

キーワード：シャドーイング，初級学習者，発音，特殊拍，広東方言

1. はじめに

近年，日本語教育の現場において，シャドーイングが注目されるようになってきた。シャドーイングとは，「聞こえてくるスピーチに対してほぼ同時に，あるいは一定の間をおいてそのスピーチと同じ発話を口頭で再生する行為，またリスニング訓練法」である（玉井 1992；玉井 2005）。

中国の外国語教育は文法知識を教えることに重点を置いた教え方をしていると言われている。そのため，中国で日本語を学ぶ学習者は，読み書き能力に対し，聞いたり，話したりする能力が劣ることもしばしば指摘されている（冷 1994）。日本語能力試験1級合格や，日本語学科卒業といったハイレベルの資格者や卒業証書を持つ者を輩出するにも関わらず，日本語を使ったコミュニケーション能力のある人材の不足していることが問題とされる。この現状に鑑み，授業の内での会話練習や聞き取りの練習の強化が解決策として提案され，ほとんどのテストの中にヒヤリングの内容も盛り込まれるようになった。しかし，会話練習やヒヤリング練習は現在のところ効果があがっているとは言い難い。これは会話練習やヒヤリング練習が試験対策中心，資格取得偏重で行われているためであって，真のコミュニケーション能力養成の目的に繋がっていないためである（冷 1994；趙 2008）。

本稿は，筆者が中国における日本語学習者に役立つと考えるシャドーイングと発音の効果を明らかにした上で，誤用頻度が低い順（上位群，中位群，下位群）にどのような特徴が見られるかを考察することを目的とする。調査の結果，促音，撥音，長音，清濁音，拗音の改善が見られることが明らかになった。

2. 先行研究

発音についての先行研究では，荻原（2005）が中国人学習者を対象に約3ヶ月間のシャドーイング指導を行うことで，指導前と比べて促音，長音，撥音の誤用が大幅に減少し，半濁音と濁音の違い，また清，濁音の違いや母音の無声化などを合計して約40%の単音の誤用が減ったことを報告している。喬（2010）では，中国における日本語学習歴わずか一か月の初級日本語学習者を対象に約1か月の

シャドーイング訓練を行い、指導前と比べ、促音、撥音、長音、清・濁音と拗音の改善が見られたことを報告している。

3. 実験

実験の内容は以下の通りである。

3.1 被験者

実験は中国の広東省にある広東省旅行学校で実施した。被験者全員15名、全ての学生について日本語のレベルはSPOT (Simple Performance-Oriented Test) バージョンBの結果によって、初級と判断した。

3.2 実施時期

実験の実施時期は2011年3月21日から6月25日までである。

3.3 指導方法

シャドーイングの練習期間は3か月で、週3回授業中に行った。1回の授業は2コマ80分であるが、シャドーイングにかけた時間は5～10分ほどである。教科書は『新版 日中交流 標準日本語 初級上』及び『新版 日中交流 標準日本語 初級下』を使用し、シャドーイングにはその中の会話文^(注1)を取り上げた。各シャドーイングの特徴^(注2)を利用するため、シャドーイング指導は萩原(2005)と趙(2009)を参考にし、以下の順番で進めた。

- (1) テープを聞いて、単語をリピートする。
- (2) テープを聞きながら、単語のシャドーイング（プロソディ・シャドーイング）を行う。
- (3) 「モデル会話」を聞きながら、テキストを読む（サイレント・シャドーイング）。
- (4) 「モデル会話」を聞きながら、テキストのパラレル・リーディングを行う。
- (5) テキストを見ないで、シャドーイング（プロソディ・シャドーイング）を行う。
- (6) 「モデル会話」を聞きながらテキストを見て、聞き取れなかった語、言えなかった語をチェックする。
- (7) もう一度テキストを見ないでシャドーイング（コンテンツ・シャドーイング）を行う。
- (8) 会話の内容についてポイントのリピーティングをする。

3.4 データ収集

データ収集は3回行った。シャドーイングの授業がスタートする前に1回目の録音をし、6週間後に2回目の録音、12週間後に3回目の録音を行った。3回とも同じ文を使った。附1は、被験者に読んでもらった文である。これは予備実験に使用した問題に基づき、水谷・水谷(1979)と萩原(2005b)から取り出したものと筆者が作ったもので、全部で15の短文を用意した。文中それぞれ促音16、長

音 30, 撥音 25, 拗音 10, 半濁音と濁音, 清音と濁音のミニマルペア合計 10 というように, 学習者にとって難しいと思われる発音が含まれている。短文は漢字だけでは難しいと考慮して, よみがなもつけた。

3.5 シャドーイングが発音に与える効果

被験者全員のデータを用い, 分析した。誤用のカウントに当たって, 日本人母語話者二人の協力を得た。二人とも日本語教師である。二人の判定が分かれた場合は, 第三者の意見を合わせて一致したものとした。被験者を SPOT の得点によって, 上位群, 中位群, 下位群を分けた。

単音について, 群別によって, シャドーイングが与えた効果を探った。

3.5.1 促音の発音の変化

まず, 促音にシャドーイングが与えた効果について, 全員を対象に分析した。結果を以下の図で示す。

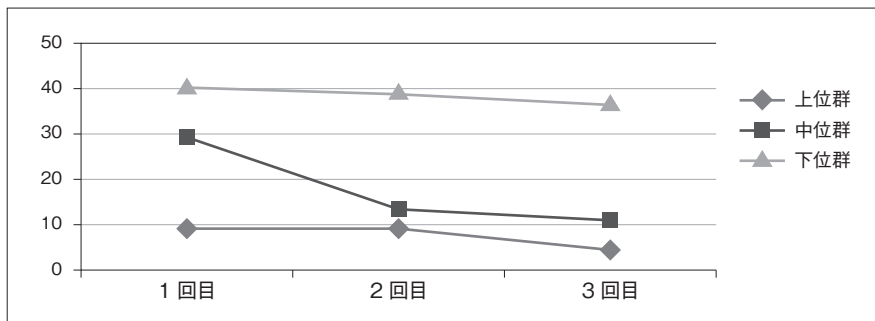


図1 シャドーイングが促音の発音に与えた影響

図1を見ると, 3群ともに, 回を追うごとに正用が増え, 誤用頻度が下がっていく傾向があった。うち, 中位群の誤用頻度の下がり幅が一番大きい。 t 検定の結果から見ると, 有意差があった。 $(t = 1.213, p \leq 0.0013)$

3.5.2 撥音の発音について

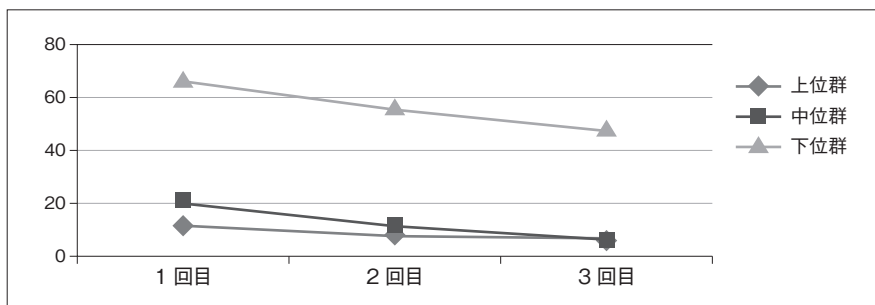


図2 シャドーイングが撥音に与えた影響

図2を見ると、3群ともに、誤用頻度が下がっていく傾向があった。 t 検定の結果から見ると、有意差があった。 $(t = 4.0847, p \leq 0.0443)$

3.5.3 長音の発音について

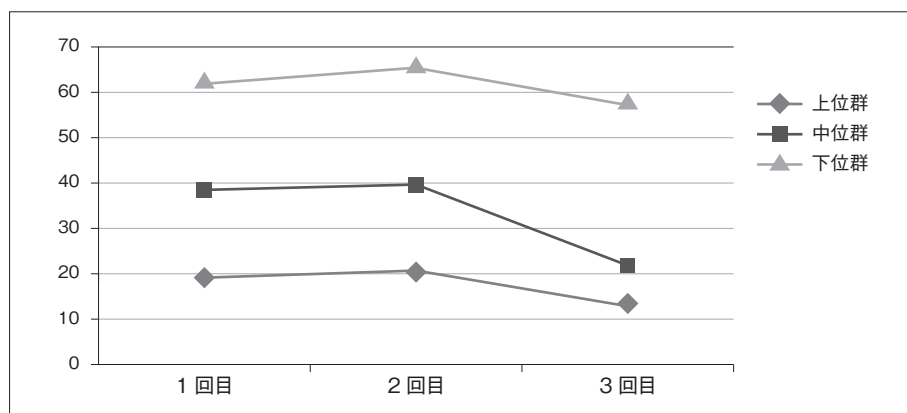


図3 シャドーイングが長音の発音に与えた影響

図3を見ると、三群ともに、誤用頻度が下がっていく傾向があった。また、三群とも、山型になっている。 t 検定の結果から見ると、有意差があった。 $(t = 4.333, P \leq 0.0409)$

3.5.4 清濁音の発音について

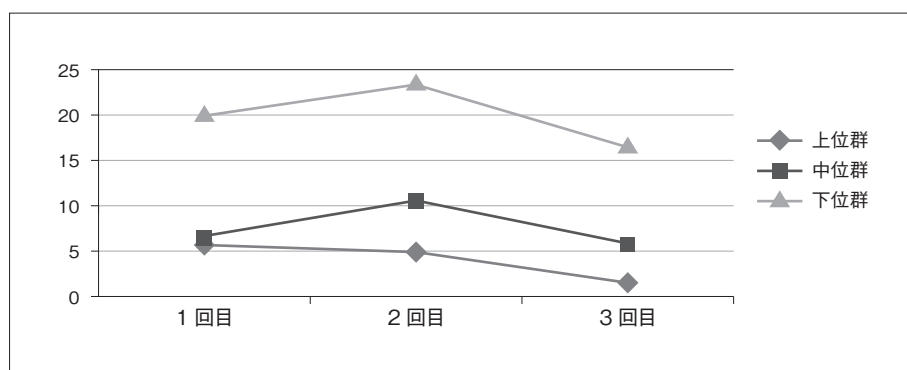


図4 シャドーイングが清濁音の発音に与えた影響

図4を見ると、三群ともに、誤用頻度が下がっていく傾向があった。また、中位群と下位群は山型になっている。 t 検定の結果から見ると、有意差があった。 $(t = 2.1322, p \leq 0.0161)$

3.5.5 拗音の発音について

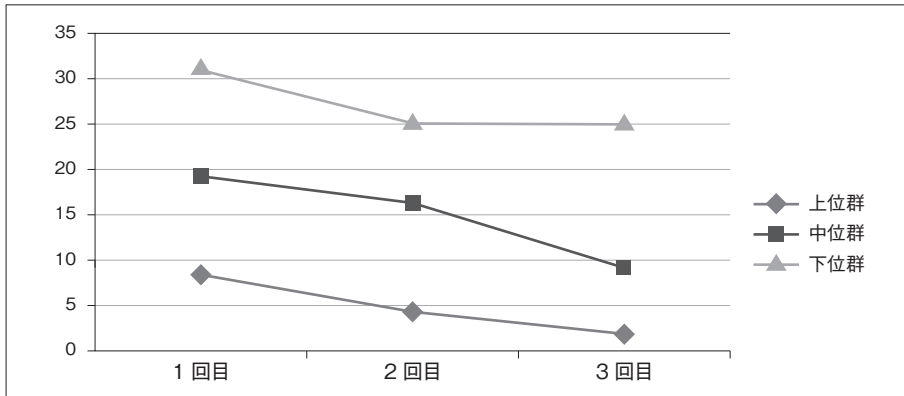


図5 シャドーイングが拗音の発音に与えた影響

図5を見ると、三群ともに、誤用頻度が下がっていく傾向があった。 t 検定の結果から見ると、有意差があった。 $(t = 1.1351, P \leq 0.0354)$

3.6 群別に見られるシャドーイングの効果

促音、長音、撥音、拗音、清濁音すべて3群に共通して改善された。

3.6.1 上位群に見られるシャドーイングの効果

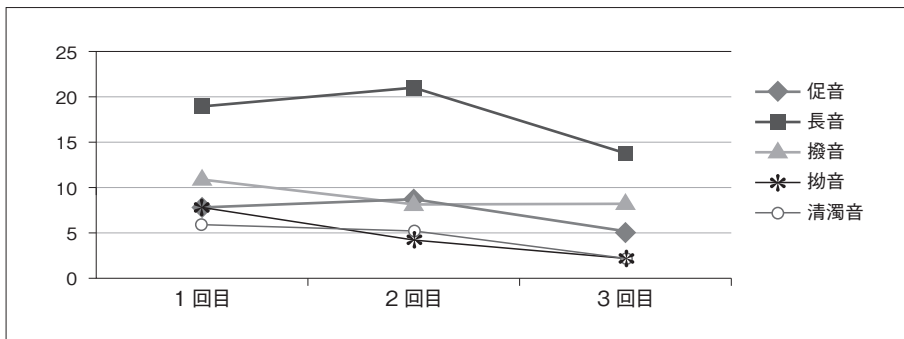


図6 上位群に見られるシャドーイングの効果

図6を見ると、各種類の単音の誤用頻度が右下がりになっている。長音、促音は山型になっており、撥音は谷型になっている。 t 検定の結果から見ると、有意差があった。 $(t = 1.9082, p \leq 0.0134)$

3.6.2 中位群に見られる傾向

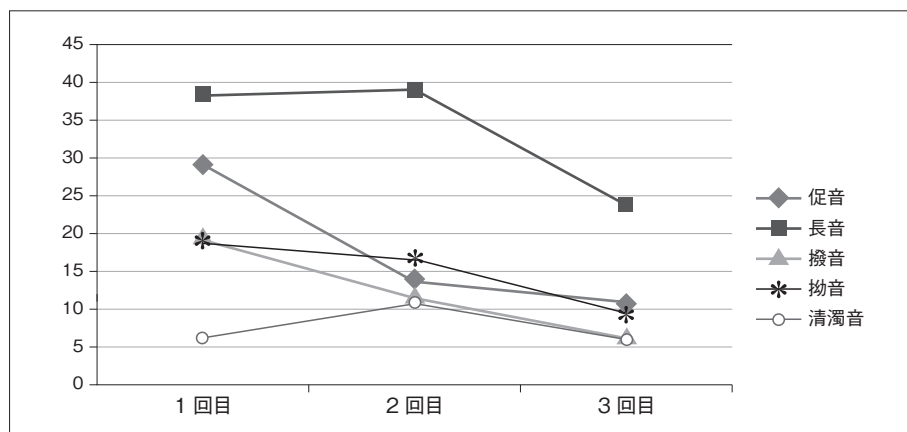


図7 中位群に見られる特徴

図7を見ると、各種類の単音の誤用頻度が右下がりになっている。長音、清濁音は山型になっている。 t 検定の結果から見ると、有意差があった。 $(t=1.0626, p \leq 0.0046)$

3.6.3 下位群から見られたシャドーイングの効果

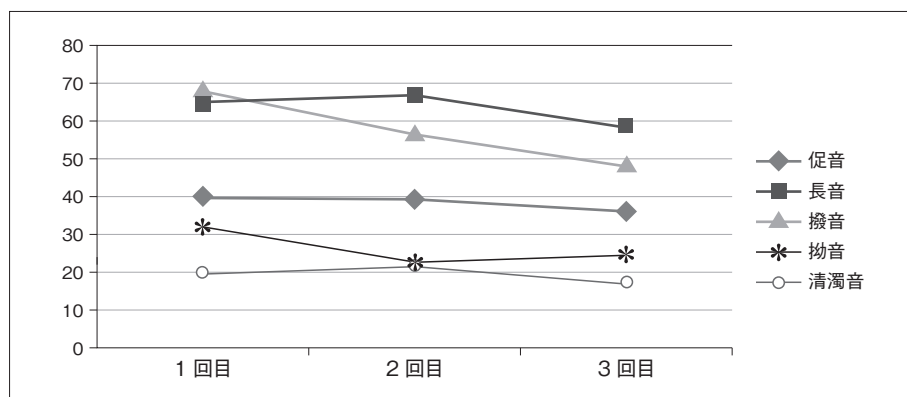


図8 下位群から見られたシャドーイングの効果

図8を見ると、各種類の単音の誤用頻度が右下がりになっている。長音、清濁音は山型になっている。 t 検定の結果から見ると、有意差があった。 $(t=2.5988, p \leq 0.0473)$

3.7 考 察

今回の分析では、被験者ごとに発音の誤用を数えただけで、アクセントとイントネーションについては考察していない。発音の誤用については、促音、撥音、短音と長音、清音と濁音、拗音を特に考察の対象とした。清音と濁音については、ミニマルペアのみ考察の対象としたが、文末「だ」

など、考察の対象としないものであった。

促音について、上位群、中位群、下位群から効果が見られた。

撥音について、上位群、中位群、下位群から効果が見られた。

長音について、上位群、中位群、下位群から効果が見られた。

清濁音について、上位群、中位群、下位群から効果が見られた。

拗音について、上位群、中位群、下位群から効果が見られた。

「病院 美容院」についてが、病院と美容院の発音は正確に区別できるのは1名から8名になっているが、しかし全員の改善は見られなかった。これは拗音の問題なのか、長音の問題なのか、はっきり解明できない。

「なーら」「りーに」のようなラ行とナ行の問題は考察の項目としなかったが、誤用は見られた。しかし、改善があまり見られなかった。大久保（2010）の結果と一致することから、中国の広東方言の干渉と考えられる。

種類別誤用頻度については、促音、撥音、長音、清濁音、拗音の全てに改善が見られた。この点で結果として、喬（2010）と一致した。

今回の実験では、促音と撥音で大きく改善されたものの、清濁音や拗音については少ししか改善してなかったという違いがあったが、全体として改善されている。

種類別誤用頻度の考察の結果、促音、撥音、長音、清濁音、拗音の全てに改善が見られた。この結果から、初級学習者でも、シャドーイング訓練法は発音指導に有効だと考えられる。

謝 辞

本稿執筆において、指導してくださった水谷信子先生、助言をくださった山岸勝榮先生、山下早代子先生に、この場を借りて深く感謝申し上げます。なお、本研究のためデータを提供くださいました関連機関の、そしてデータ収集のためにお手伝いくださった皆様にも心より感謝申し上げます。

参考文献

- 萩原廣（2005）「日本語の発音指導におけるシャドーイングの有効性」『京都経済短期大学論集』第13巻，第1号，55-71, 京都経済短期大学
- 萩原廣（2005b）「シャドーイングの日本語音声教育における有効性—単音、アクセント指導を中心に—」『国文学論集』52，112-125, 龍谷大学
- 大久保雅子（2010）「日本語学習におけるナ行音・ラ行音の聴取混同——香港広東語母語話者を対象として」『早稲田日本語教育』7，97-109
- 喬 方（2010）「日本語学習に見られるシャドーイングの効果—中国における学習者の発音面についての考察—」『異文化コミュニケーションのための日本語教育』2 高等教育出版社，382-383
- 高橋 恵理子・松崎 寛（2007）「プロソディーシャドーイングが日本語学習の発音に与える影響」『広島大学日本語教育研究』17, 73-80
- 玉井健（1992）「follow-upの聴解力向上に及ぼす効果およびfollow-up能力と聴解力の関係」『STEP BULLETIN』Vol. 4, 日本英語検定協会，48-62
- 玉井 健（2005）『リスニング指導方としてのシャドーイングの効果に関する研究』東京風間書房
- 趙 菁（2009）「シャドーイング法の初級中国語教育への応用：教室におけるシャドーイングの実践を中心に」

『外国語教育フォーラム』3, 35-48

赵 焯 (2008)「考察大学日语教育」华东师范大学 硕士论文

水谷 修・水谷 信子 (1979)『Aural Comprehension Practice In Japanese』The Japan Times, Ltd.

人民教育出版社 (2005)『新版中日交流標準日本語』初級 上 人民教育出版社

人民教育出版社 (2005)『新版中日交流標準日本語』初級 下 人民教育出版社

冷 铁铮 (1994)「日语教育的现状和问题」日语学习与研究成果, 1994.3

資料

(1) 会話文例 (初級 I 24 課):

(携帯電話が鳴いている)

小野: もしもし, 小野です。

清水: 小野さん? 清水だけど。

小野: ああ, 清水君, どうしたの?

清水: 最近太田から連絡あった?

小野: 太田君から? ううん, ないわよ。どうして?

清水: 太田, 今度中国へ転勤だって。

小野: 本当に? いつ行くの?

清水: たしか来月だよ。

小野: 急ね。中国のどこ? 期間はどのくらい?

清水: 北京だって。期間は4年から5年かな。

小野: ずいぶん長いわね。太田君一人で行くの?

清水: いや, 奥さんもいっしょだよ。

来週送別会をするけど, 都合はどうか?

小野: ええと, 火曜日は予定があるけど, それ以外は大丈夫よ。

清水: 分かった。じゃあ, また連絡するよ。

(1) プロソディー・シャドーイングでは, 発音に注意を向け, それをできるだけそのまま模倣しながら, 復唱することが重要である。特にリズムやイントネーションなど韻律に注意する。

コンテンツ・シャドーイングでは, 文の意味内容を取りながら, 同時に口からすらすらと復唱した音声が出てくる状態になることが目的である。

サイレント・シャドーイングでは, 声に出すか出さないかの小声まずはやってみるという段階である。最初からいきなりシャドーイングをするのは難しいという場合に実施する。パラレル・リーディングは発音の良し悪しよりもモデル音声についていけるかどうか, 一番のポイントとなる。

附 I 発音の試験問題

1. 大学を退学したんですか。
だいがく たいがく
2. ビンの中ピンを入れる。
なか い
3. 朝転んであざができた。
あさごろ
4. オリンピックで金と銀のメダルをとった。
きん ぎん
5. 原さんはお花が好きです。
はら はな
6. 総理大臣は草履を履いてます。
そう り だいじん ぞう り
7. 病院の婦りに美容院に寄ります。
びょういん かえ びょういん よ

8. きのう、^{がっこう}学校の^{きつさてん}そばの喫茶店で^のコーヒーを飲んだ。
9. ^{にほんご}日本語の勉強で^{かんじん}肝心なのは、^{かんじ}漢字を覚えることだ。
10. ^{にしゅうかん}二週間を単位に^{にゅういん}入院と^{たいいん}退院を繰り返しました。
11. おじいさんの好きだった^すハッカを墓^{はか}に持って行ってあげよう。
12. せっかく^{さかや}酒屋まで^か買いに行ったのに、^{しょうこうしゅ}紹興酒が^う売り切れだったんです。
13. ^{おおば}大場さんのおばさんとおばあさんが^きオーバーを着た。
14. さっき^{こうつうじこ}交通事故で怪我をした^{ひとたち}人達の中に、^{なか}あの人の^{とう}お父さんもいたんですって。
15. ^{ともだち}友達と一緒に^{いっしょ}一週間^{いっしゅうかん}ぐらい^{きゅうしゅうちほう}九州地方へ^い行ってくることにしました。

〈論 文〉

台湾人日本語学習者の「ニトッテ」の使用について

—LARP at SCU コーパスを例に—

張 秀 玲

キーワード：形態的特徴，受け手，述語，負の転移，構文制約

はじめに

「ニトッテ」は台湾人日本語学習者が最も使われる複合助詞の一つである。中国語の「對」，「對（於）……來說」，「對（於）……而言」に対応しているため，安易に使ってしまう傾向があるとされてきた。日本語教育では，「トシテ」との混同による誤用もよく挙げられている（市川 2007，金子 2007，張 2001）。

本稿では，台湾人日本語学習者の作文に見られる「ニトッテ」の使用データを用いて，「ニトッテ」の構文について台湾人日本語学習者（以下，「学習者」と呼ぶ）の使用の特徴及び誤用の要因を探ることを目的とする。この目的のために，まず，「ニトッテ」に関する先行研究を概観する。次に，研究課題を示し，研究方法について述べる。学習者の作文データから学習者の「ニトッテ」の使用傾向について「形態的特徴」，「受け手の特徴」，「述部の特徴」の観点から分析し，学習者の使用特徴を明らかにする。得られた誤用の種類と誤用例の分析結果から，誤用の要因を探る。最後に，台湾人日本語学習者に対する構文力向上に資する日本語指導について考える。

1. 先行研究

従来の文法参考書や文型書には「判断の立場や視点」から説明しているものが多い。例えば，庵 ほか（編）（2002：45-46）では，述部にはその立場という範囲について有効な状態である「価値判断・評価を行う立場を表す」語であるが，「美しい，汚い，貴重だ，有名だ」のような客観的な状態を表す表現が述語に来ることはないと説明する。

語学的観点から「ニトッテ」の意味機能を分析したものに，三井（2001），杉本（2003，2005）と，宮田（2009）などがある。杉本は（2003）は，「ニトッテ」句が判断主体となる場合，人称制限が生じることを示し，「ハ」や否定，モダリティ形式などの要素が付加されることによって，「ニトッテ」句の生起が適格になると述べている。宮田（2009）は，「ニトッテ」の意味用法について，ただ単に「～の立場から見れば」の意味だと指導するのは不十分で，述部の生起制限，構文的制約の説明が必

要だと指摘する。

日本語教育では、金子（1993）、張（2001）、市川（2007）、金（2009）などに代表されるように、「ニトッテ」と「ニ対シテ」、「ニトッテ」と「トシテ」との混同による誤用に焦点を当て、多くの研究がなされてきた。金子（1993）は日本語教育現場指導の経験から、誤用の責任を学生に帰すのではなく、教師も指導の工夫の余地があると考え、「AはXニトッテB」の構文を取り上げ、学習者の「ニトッテ」の誤用の多さに関する要因を探り、日本語教育現場での工夫を提言した。一方、金（2009）は対照の観点から、母語話者の比較を通して学習者の誤用の原因と結びつけて言及した。金（2009：102）は、学習者の「ニトッテ」の誤用の原因として次の3点を挙げている。①「XにとってAはB」における「X」が「B」の主体ではなく、「受け手」であることへの無理解、②「AはB」という意味づけ・位置づけを行う意義が見出せない場合の「にとって」の使用、③「X」と「A」がコミットしていることへの無理解、である。

本稿では、先行研究の諸論考を踏まえた上、実際の学習者作文コーパスを用い、学習者の複合助詞「ニトッテ」の使用を考察し、誤用の原因を究明する。

2. 調査資料と収集方法

台湾人日本語学習者を中心とする、複合助詞「ニトッテ」の意味・用法の使用実態について調べるために、台湾で構築された学習者コーパス『LARP at SCU コーパス』^(注1)の作文データを調査資料とする。対象とする作文データは学習者の一回目の課題作文である。作文テーマは計33あり、作文篇数は延べ956篇で、約30万語である。

用例の検索には、特定の文字列を検索することができる「KWIC Finder」(http://www3l.ocn.ne.jp/~h_ishida/KWIC.html)を利用した。

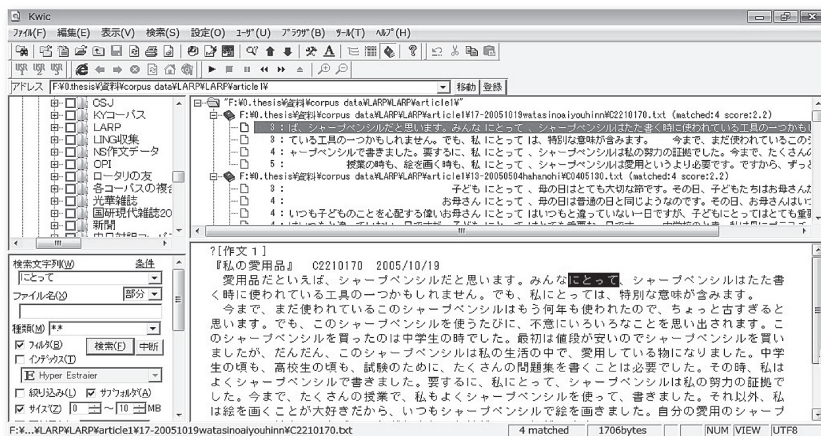


図1 KWIC Finderの検索画面

検索語に「ニトッテ」を入れ、検索をかけ例文を抽出した。エラーの混入は目視検証し、複合助詞の用法でない「手ニトッテ」「メモニトッテいく」「～ヲ例ニトッテ」のような本動詞の用法及びそ

の活用形に関するものは分析対象から除外した。その結果、取り出した複合助詞「ニトッテ」の用例は延べ340例である。

3. 調査方法

具体的には、学習者の複合助詞「ニトッテ」の使用特徴について、「Aは、XニトッテB」や「Xニトッテ、AはB」構文を中心に、「形態的特徴」、受け手「X」と述部「B」の三つに分け、それぞれの使用傾向の解明に試みた。

まず、複合助詞「ニトッテ」が実際使用されている形態的特徴の分布を調査した。次に学習者の受け手「X」の特徴について、「人間」「団体組織」と「その他」について分け、分布状況の量的比較を行った。その次、述部「B」の特徴を品詞分類し、述部の使用実態の把握を試みた。最後に、「Xニトッテ、B」の構文について、学習者の誤用例を通して、誤用の要因を探ることにした。

4. 調査結果

4.1 学習レベル別における形態的特徴

現代日本語で使用されている複合助詞「ニトッテ」の形態的特徴に関して、『BCCWJ』コーパス^(注2)での調査では、普通体では表1で示したA)～E)の5つの形式が見られた。学習者の作文データから抽出した複合助詞「ニトッテ」の例が、実際使用されている形態的特徴及び使用分布について、日本語力レベル別に分類したものが表1である。

表1 複合助詞「ニトッテ」の形態的特徴の分類 (LARP at SCU)

形式	レベル別 形態的特徴	初級 後半	中級 前半	中級 後半	中上級 前半	中上級 後半	上級 前半	上級 後半	合計 (n=340)
	作文篇数	175	166	145	138	129	131	72	956
普通体	A) ニトッテ	20	41	58	74	47	40	13	293
	B) ニトッテハ	1	2	7	9	8	7	4	38
	C) ニトッテモ	0	0	1	0	1	2	4	8
	D) ニトッテノ	0	0	0	0	0	0	1	1
	E) ニトッテ… ト・バ・タラ	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		21	43	66	83	56	49	22	340

調査した結果、次のことが得られた。

- ① 複合助詞「ニトッテ」では、普通体では「Xニトッテ、B」の構文の形を用いることが多く、「ニトッテ」の後に他の助詞「ハ」「モ」「ノ」などを後接する形態も見られた。
- ② 連体形では「Xニトッテノ＋名詞」の形は見られたが、使用頻度が低い。
- ③ A)～E)の形態の中、最も多かったのは連用用法の「ニトッテ」(293例)である。他に「ニトッテハ」は38例、「ニトッテモ」は8例、連体形の「ニトッテノ」は1例のみである。

4.2 受け手「X」の特徴

ここで、複合助詞「ニトッテ」文がよく出てくる「Aは、XニトッテB」や、「Xニトッテ、AはB」構文を中心に、「X」を中心に分析した結果を述べる。

受け手「X」の特徴について、従来の研究では名詞（人・組織を表す名詞）が来るとしている研究が多い（市川1997、グループ・ジャマシイ（編）、1998など）。しかし、具体的にどんな単語が来ることが多いかについて、ほとんど明示されていない。

本論の調査対象とした『LARP at SCU』の学習者作文データの分析では、学習者が使用した複合助詞「ニトッテ」の例から抽出した受け手「X」の部分を、「人間」「団体組織」と「その他」の三種類に分類できる。さらに「人間」の類では「人称」・「身分」、 「団体組織」の類では「職業」・「国・町」・「会社・組織」、 「その他」の類では「社会・出来事」・「体・心」・「物・こと」などの類に下位分類し、それぞれの分布を行った結果が表2である。

表2 学習レベル別における受け手「X」の特徴（LARP at SCU）

分 類	範 疇	「X」の例（例文数）	例文数	合計(n=340)
人間	人称	私(202), 自分(8), 彼女(2), 我々, 私たち, みんな, 彼女たち	216 (63.5%)	314 (92.4%)
	身分	人(20), 現代人(12), 人々(8), 母親(7), 母(6), 人間(6), 子供(4), 台湾人(3), 人民(3), 日本人(2), 中国人(2), 外国人(2), 家族(2), 父, 弟, 若者, 学習者, 女の子, 若い人, 高校生, お金持, …	98 (28.8%)	
団体・組織	職業	サラリーマン(4), 清掃員	5 (1.5%)	16 (4.7%)
	国・町	台湾(2), 国家(2), 先進国, 町	6 (1.8%)	
	会社・組織	～党(2), 会社, ～業(界), ～全員	5 (1.5%)	
その他	社会・出来事	社会(2), 生活, 将来, 進歩, 健康	6 (1.8%)	10 (2.9%)
	体・心	体, 手	2 (0.6%)	
	物・こと	我が家, 本	2 (0.6%)	

*（ ）内は述べ語数2以上の例文数を表すものである。

全体の「ニトッテ」の使用傾向を見ると、次のことが言える。

学習者の使用では、受け手「X」は「人間」の類が最も多く使われている。「私・彼女」のような人称代名詞は216例（63.5%）で、身分を示す「母親・大人」のような名詞が98例（28.8%）であり、合わせて314例で、全体の92.4%を占めている。特に「私」は計202回（59.4%）使用されており、学習者の全体使用例（340例）の6割を占めている。「私ニトッテ」（202例）という例の使用の高頻度が非常に目立つ。

「X」は「団体組織」の類では、それぞれ職業や国・町、組織などを表す人・人間に類するものであり、合わせて16例あり、全体の4.6%を占めている。一方、「その他」の類では、社会生活、体、物の範疇では、擬人法を適応している名詞であり、全体では2.9%を占めている。

学習者の受け手「X」の使用範疇と使えた単語は限られている。340例のうち、使用された「X」

の単語では、異なり語数は60語であり、その中で、2回以上使われたのは20語であり、1回使われたのは40語である。

4.3 述部「B」の特徴

述部「B」の特徴について、複合助詞「ニトッテ」の構文「Aは、XニトッテB」と、「Xニトッテ、AはB」における述部「B」を中心に、日本語学習者の使用傾向と特徴を見ていく。

以下は『LARP at SCU』の学習者作文データから抽出した例を、述部「B」を品詞別のほか、さらにモダリティ形式の有無に分け、それに正用・誤用別にクロスして分析したものである。

使用状況の結果を表3のように示した。述部「B」では名詞句は210例（61.8%）で、最も多かった。次動詞句は73例（21.5%）で、その次は形容詞句57例（16.8%）である。

表3 学習レベル別における述部の特徴（LARP at SCU）

述部の 品詞分類	述部の形態	学習者の産出例	正用	誤用	小計	合計 (n=340)
名詞句	名詞	宝物だ。初めてのバイドだ。	159	6	165	210 (61.8%)
	名詞 +α	大切な課題だ <u>と思う</u> 。	28	19	45	
		～チャンスかもしれない <u>けど</u> 。				
形容詞・ 形容動詞句	形容詞い	忙しい。難しい。	38	4	42	57 (16.8%)
	形容動詞だ	便利だ。好きだ。				
	形容詞 +α	難しい <u>と思う</u> 。つまらない <u>かもしれない</u> 。	12	3	15	
動詞句	動詞	勉強になった。迷惑を <u>かけられた</u> 。	39	21	60	73 (21.5%)
	動詞 +α	早すぎる <u>と思う</u> 。影響がある <u>そう</u> だ。	5	8	13	

従来の研究では、宮田（2009）では「新聞」及び「会話」からそれぞれ100前後用例を採集し、述部「B」の品詞別を内訳したところ、どちらも名詞は過半数を占めており、「新聞」では名詞は6割、動詞は2.5割、形容詞は1割弱で、動詞のほうが形容詞よりやや使用率が上回る。一方、「会話」では名詞は7割を占めており、形容詞は2割、動詞は1割以下の割合で、形容詞のほうが動詞の2倍ぐらいの使用率であると、報告されている。また、金（2009）では「新聞記事」と「国研作文コーパス」を利用して、母語話者の述語の使用状況を調べ、その結果、名詞は73%で、形容詞は17%、動詞9%とその他2%である、と述べられている。

このように、『LARP at SCU』の学習者作文データによる品詞別の述語使用分布は、従来の先行研究における母語話者「ニトッテ」の使用例調査とではほぼ同じ使用傾向であると言える。また、このように「Aは、XニトッテB」や「Xニトッテ、AはB」構文では、「名詞句」は代表的な述語文であると示唆される。

なお、宮田（2009）も金（2009）も動詞述語文と形容詞述語文は不自然な例が多いと指摘しており、『LARP at SCU』の学習者作文データの品詞別による正用・誤用割合別の分布を見てみることにした。下記図2で示したように、述部は「名詞句」（210例、61.8%）の場合には「名詞」だけの場

合は正用159例で、誤用6例である。正用になる例が9割で圧倒的に多いに対し、「名詞+α」の場合では正用28例に対し誤用例19例もあり、正用・誤用の割合は3:2、誤用率がぐんと高くなる。

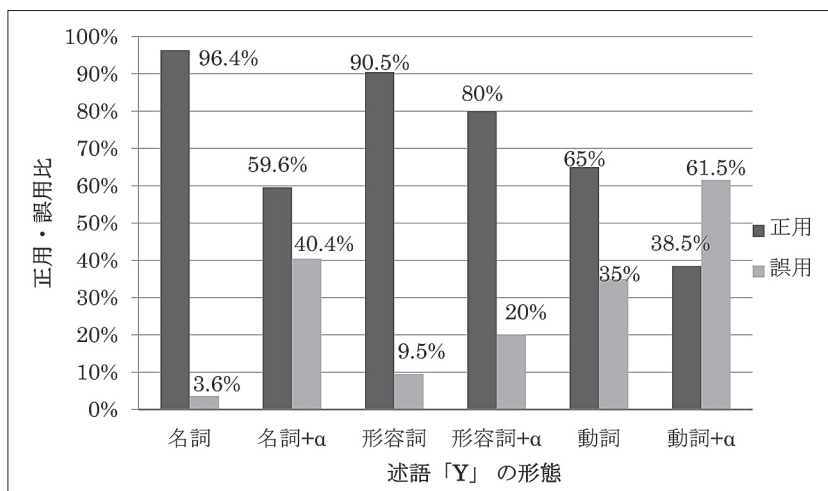


図2 学習レベル別における述部の正用・誤用分布 (LARP at SCU)

述部は「形容詞句」(57例)の場合には「形容詞」だけの場合は正用38例、誤用4例である。一方「形容詞+α」の場合は正用12例で、誤用3例である。「形容詞+α」の場合は誤用がやや多い。

一方、述部は「動詞句」(73例)の場合には「動詞」だけの場合は正用39例で、誤用は21例である。これに対して「動詞+α」の場合は正用が5例で、誤用は正用より上回って8例もある。両方とも誤用が多かった。このように学習者の産出例を見ると、述部は「動詞句」を使われる場合には他の「名詞句」や「形容詞句」より誤用がずっと高くなる傾向にあることが分かった。

名詞述語文では、物事を表すコト名詞が一番多く、その次はモノ、時間、場所、その他の順に使われている。形容詞述語文では、「好き・大切・うれしい・大変・辛い」のような感情形容詞が一番多く使われた。その次は「いい・やさしい・難しい・面倒くさい」などのような評価形容詞、他に「長い・高い・多い」のような物事の属性を表す形容詞は少数の例が使われた。動詞の場合は、「早すぎる・プラスになる・心配する・感じがする・迷惑をかける」のような形容詞に近い状態性を表す表現が殆どであるが、「始まる・圧迫する」のような非状態動詞が少数ながらも観察された。

5. 誤用分析と考察

ここでは先行研究の研究成果を踏まえながら4節で調べた結果を、実際に学習者が使われた用例を挙げながら考察し、誤用の原因を究明していく。

日本語学習者の作文に見られる複合助詞「ニトッテ」の誤用を分析し、次のような例は中国語母語とする学習者にはよく見られる誤用である。(*は学習者の誤用例である。中国語は筆者訳)

- (1) * 私ニ対シテ, これは簡単だよ。(對(於)我這個是簡單的)
- (1)' 私ニトッテ, これは簡単だよ。(對(於)我來說這個是簡單的)(張, 2001: 72)
- (2) * 私ニツイテ, 部屋は一番な所です。(? 對我, 房間是最棒的地方)(「私の部屋」)
- (2)' 私ニトッテ, 部屋は一番な所です。(對我來說, 房間是最棒的地方)
- (3) * 私ニツイテ, 忘れられないことは多いでした。(? 對我, 有許多的難以忘懷的事)(「忘れられないこと」)
- (3)' 私ニトッテ, 忘れられないことは多かったです。(對我來說, 有許多的難以忘懷的事)

中国語を母語とする学習者は、日本語を勉強している時は「ニツイテ」、「ニトッテ」と「ニ対シテ」は中国語の「對(於)〜」、「〜對(於)…來(說)」に対応すると記憶したため、日本語で表現しようとする時、中国語の「對於」という表現形態に、それに対応する日本語の表現形態が「ニ」「ニトッテ」「ニ対シテ」「ニツイテ」等多数の表現の中から、安易に一番早く習得した「ニツイテ」やまた漢字のある「ニ対シテ」を選んでしまう恐れがある。例(2), (3)では「ニトッテ」を「ニツイテ」と間違えるのは、初級レベルでよく見られた誤用現象である。形式的には似ているため混乱していることが考えられる。中上級になってから語形の類似性による誤用があまり見られなかった。

また、学習者は直訳感覚で作文を書くことも多いため、例(4)〜(6)のように、中国語の“〜對(於)…來(說)”は日本語の「ニトッテ」に対応する、というふうに意味を理解しているため、「ニトッテ」と「ハ・ガ」との混同が多く、日中両言語間の構文上の共起制限を気づかれぬまま、「ニトッテ」を多用してしまう傾向がある。

- (4) * 私ニトッテ, 恋愛に対して, ずっと消極的な態度を持っています。(『大学生の恋愛観』)。
(對(於)我來說, 對於戀愛, (我)一直是抱持著消極態度。)
- (4)' 私ハ, 恋愛に対して, ずっと消極的な態度を持っています。
(我啊, 對於戀愛一直是抱持著消極態度。)
- (5) * 私ニトッテ, 冬はピアノをひく季節だと思いません。(『忘れられない出来事』)
(對(於)我來說, 我並不覺得冬天是彈琴的好季節。)
- (5)' 私ハ, 冬はピアノをひく季節だと思いません。(我啊, 並不覺得冬天是彈琴的好季節。)
- (6) * 都市育ちの子供ニトッテ, あまり戸外活動をしません。(『夏休み』)
(對(於)都市長大的孩子來說, 平日並不做戶外運動。)
- (6)' 都市育ちの子供ガ, あまり戸外活動をしていません。(都市長大的孩子, 平日並不做戶外運動。)

「〜ニトッテ」は、そのまま中国語の「(對於〜來說)」に訳せるので、学習者は単純な「私ハ」「子供ハ」のような文を使わずにしたのは、母語の対応語句に影響されたと考えられる。

また「ニトッテ」は通常文末に評価や価値判断の述語文が来ることが多いので、文末最後に気持・願望を表すようなモダリティ形式の「(たい) と思います」などを使うと、不自然になる場合が多い。「私ニトッテ、～と思う」のように会話では意味が通じることから許容されることが多く、なかなか間違いだと気付かない学習者が多い。

- (7) * スポーツは私ニトッテ、あまり好きじゃないものだと思います。(『スポーツ』)
(球類運動對我來說，我覺得並不是個很喜歡的東西)
- (8) * 所得が高くなって、物を獲ることも簡単になる現代社会の人々ニトッテ、儉約の意識はあまりないと思う。(『ゴミ問題』)
(對這所得變高，物資取得也變得容易的現代社會的人們來說，我覺得大家沒什麼節約的意識。)
- (9) * 台湾人ニトッテ、外食は他の国より便利だと思う。(『台湾の外食文化』)
(對台灣人而言，我想外食比其他國方便許多)
- (10) * 最近はあることに気がついた。それはコーヒーショップが増えることだ。飲めない私ニトッテ、不思議な状況だと思う。(『コーヒー文化』)
(最近發覺一件事，那就是咖啡店越來越多。對不喝的我來說，我覺得這是令人不可思議的狀況。)

以上例 (7) ～ (10) のような誤用の背景には中国語訳「對～來說，我覺得～」の影響が大きかったと考えられる。

中国語訳の影響以外、構文での共起制限によって、次の例 (11) ～ (12) のような非文も学習者の使用例ではよく見られたものである。

- (11) * 私ニトッテ、彼女は買えない宝物です。(對我來說，她是無價之寶) (「友情」)
- (11)' 私ニトッテ、彼女はかけがえのない {存在／宝物} です。(對我來說，她是無可取代／無價之寶)
- (12) * 野良犬に追われたことがあるので、私ニトッテ、野良犬は怖いです。(「野良犬の問題」)
(我因為被狗追過，所以對我來說，狗是很可怕的)
- (12)' 野良犬に追われたことがあるので、私ニトッテ、野良犬は怖い存在です。
- (12)" 野良犬に追われたことがあるので、私ハ、野良犬が怖いです。

「ニトッテ」の文は通常、「X」が「B」の主体ではなく「受け手」である。「ニトッテ」は「重要・簡単・大切な存在」といった評価を述べる語と結びつきやすいが、主観的な意味の述語（好き・嫌い・うれしい）などと結び付きにくいとされている（市川2007，金2009など）が、中国語に対応する「對（人物）來說，很重要・簡単・重要的存在（評価）／喜歡・討厭・高興（主観）」では、両方

とも自然な文であるため、例 (11)～(12) では、名詞の「存在」を付加することによって、名詞化すると文の適格性が上がり、やや自然な文になる。

一方、次の (13)～(15) の誤用例は動詞述語の例である。例 (13) は (13)' のように述語に「(A) ことは (B の) きっかけ」を付加することによって、名詞化すると文の適格性が上がり、やや自然な文になる。一方、例 (14) では、「私」は主観的な「懂れた」では、意味づけ・位置づけの意義が見出せないし、「ニトッテ」文はなじまない。例 (15) は母語の対応語句に影響されたと考えられる。

(13) * 日本語学科に入るのを決めたきっかけは高校のときに参加した日本語のスピーチコンテストです。あのときは私ニトッテ正式に日本語を習い始めました。(『私と日本語の出会い』)

(13)' あのときのことは私ニトッテ正式に日本語を習い始めるきっかけであった。

(14) * 高校生の時、日本語学科は私ニトッテ本当に懂れました。(『大学生生活に期待すること』)

(14)' 高校生の時、日本語学科は {私ニトッテ本当に懂れた存在でした／私の懂れな場所でした}。

(15) * まだ二年生の私ニトッテ、あの時、将来に対することを全然考えませんでした。(『200年を迎えて』)

(對於當時還是二年級的我來說，那時對於未來的事完全沒去想)

(15)' まだ二年生の私は、あの時、将来のことを全然考えていませんでした。

以上、誤用例を挙げながら諸要因を見てきた。従来の文法書や先行研究では「ニ対シテ」との混同は多いとされてきたが今回は見つからなかった。逆に、形式類似による誤用には、初級レベルでは「ニツイテ」との混同が数例見られた。中国語母語の「對……來說」からの負の転移で日本語に対応する語句には「ハ・ガ」文を使わずに「ニトッテ」文を多用した傾向が見られた。更に、「私ニトッテ、～と思う」文が多く使われ、「私ハ、～と思う」との混同や中国語訳の「對～來說，我覺得～」の影響が大きいと考えられる。また、形容詞述語文や動詞述語文では、「X」・「A」・「B」の共起関係を考え、ただ形容詞や動詞だけの述語文ではやや不自然で、文末に評価や価値判断の名詞を付け加えることによって、文の適格性が上がり、自然な文になる場合が多い。

おわりに

以上、学習者コーパスを利用して、台湾人日本語学習者の「ニトッテ」の使用特徴と誤用の要因を探ってきた。従来の指導は意味機能の説明を中心に短レベル（短文）だけの説明で済ませた場合が多い。「XニトッテAはB」における「X」「A」「B」三者の共起関係からその成立条件や制約について、学習者に意識付けを強化させる必要がある。特に「ニトッテ」が多用している中、誤用分析は指導上には勿論必要だが、「私ニトッテ」のような立場を強調する過剰使用にも、注意を促す必要

があると考え。今回紙幅の都合で、レベル分けの誤用要因をきちんと探ることができなかった。今後、レベル分けの使用特徴や誤用要因、また日本人母語話者データや他の国の日本語学習者との比較をしながら、複合助詞「ニトッテ」の取扱いの検討を行い、母語干渉の影響を考慮した台湾人日本語学習者のための効果的な指導法を明らかにし、日本語教育現場に寄与したいと考えている。

謝 辞

本稿執筆においては、査読の先生から貴重なご指摘とご教示を賜り、心より深く感謝を申し上げます。

〈注〉

- (1) 『LARP at SCU コーパス』は台湾の東呉大学で日本語習得研究のために構築された台湾人日本語学習者コーパスで、LARP at SCUは“Language Acquisition Research Project at Soochow University”の略称である。
- (2) 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)は、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所が構築した現代日本語のコーパスである。約1億語の均衡コーパスで、書籍、雑誌、新聞、白書、教科書、広報紙、Webの掲示板、ブログなど多様な日本語が含まれている。

参考文献

- 庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘著（白川博之監修）（2002）『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- 市川保子（2007）『中級日本語文法と教え方のポイント』スリーエーネットワーク
- 金子比呂子（1993）『「AはxにとってB」に関する一考察』『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』19
- （2007）『「とって」一価値付け・意味付けの判断の「あてはめ先」——グループKANAME編著『複合助詞がこれでわかる』pp.65-77 ひつじ書房
- グループ・ジャマシイ〔砂川有里子・他〕編著（1998）『日本語文型辞典』くろしお出版
- 金蘭美（2009）『「xにとってAはB」構文の意味・用法——母語話者と学習者の使用例の比較を通して』『日本語教育』142 日本語教育学会
- 杉本武（2003）『複合助詞『にとって』』『文芸言語研究』言語編44、筑波大学文芸・言語学系
- （2005）『複合助詞『にとって』の意味と文法機能』『複合辞研究の現在』和泉書院
- 張麟声（2001）『日本語教育のための誤用分析—中国語話者の母語干渉20例—』スリーエーネットワーク
- 藤城浩子（2005）『「にとって」文の機能と成立条件』『東京大学留学生センター研究論集』14、東京大学留学生センター
- 三井正孝（2001）『「ニトッテ格の共起条件』』新潟大学国語国文学会誌』43
- 宮田公治（2009）『「にとって」の意味と構文的制約』『日本語教育』141号 日本語教育学会

〈論 文〉

授受補助動詞「てくれる」の習得に関する考察

—韓国語母語話者を対象に—

金 賢 珠

キーワード：授受補助動詞，日本語力，誤用傾向，てくれる，てもらう

1. はじめに

日本語の授受動詞は日本語学習者にとって使い分けは容易でない（森山：2007）。また，日本語と文法が類似する韓国語を母語とする学習者にも日本語の授受表現の習得や使い分けは難しい。

授受表現が韓国人日本語学習者にとって難しい点として，特に2つが挙げられる。1つは授与動詞「くれる／あげる」の使い分けである。もう1つは「てもらう」の使用である。日本語の「くれる／あげる」に該当する韓国語は動詞「주다（チュダ）」1つである。日本語では話し手の視点によって「あげる／くれる」を使い分ける（久野：1978）が，韓国語では話し手の視点に関わらず，動詞「주다（チュダ）」を使う。

「くれる／あげる」と「주다（チュダ）」を本動詞と補助的用法で比較すると下記ようになる。

- | | | | |
|---------------------------|---|----------|-------------|
| 1) a. ジュースを <u>あげる</u> | } | 주스를 주다 | ←・・・本動詞として |
| b. ジュースを <u>くれる</u> | | | |
| 2) a. ジュースを <u>買ってあげる</u> | } | 주스를 사 주다 | ←・・・補助動詞として |
| b. ジュースを <u>買ってくれる</u> | | | |

「もらう」については，物の移動を表す「받다（パッタ）」はある（例3'）が，補助的用法の「てもらう」に対応する韓国語はない。4)「買ってもらう」を韓国語の「사 받다（サ パッタ）」に置き換えると，4')のように非文となる。

- | | | |
|------------------------------|---|-------------|
| 3) 僕が母にジュースを <u>もらう</u> 。 | } | ←・・・本動詞として |
| 3') 내가 엄마에게 주스를 받다 | | |
| 4) 僕が母にジュースを <u>買ってもらう</u> 。 | } | ←・・・補助動詞として |
| 4') 내가 엄마에게 주스를 사 받다 | | |

「くれる／あげる／もらう」の補助的な用法をまとめると以下ようになる。

日本語	てくれる	てあげる	てもらう
韓国語	아/어 주다 (ア/オ チュダ)		×

上記のとおり、韓国語の「주다 チュダ (クレル／アゲル)」には補助的な用法があるが、「받다 パッタ (モラウ)」には補助的な用法がない。そのため、日本語の「てもらう」文を韓国語に訳す際、「てもらう」が持つ補助的な役割がずれて、ニュアンスが伝わらない。

そこで、本稿では韓国人日本語学習者を対象に行なった授受補助動詞についての調査結果をもとに、「てくれる」に焦点を当て、「てくれる」の誤用にはどのような傾向が見られるか、授受動詞の補助的な用法が韓国語ではどのような形で表されるのかの実態を把握する。また、その結果が授受表現の習得と日本語のレベルとどのような関係があるかを検討する。

2. 調査の概要

2.1 韓国語「주다 (ヤル／クレル) 받다 (モラウ)」の辞書的意味 (筆者訳)

《주다》

[Ⅰ] 「動詞」【・・・に／・・・から／・・・を】

・物などを他人に渡して持たせたり享受させたりする。

例) 犬に餌をやる／子供に小遣いをやる

[Ⅱ] 「補助動詞」

(動詞に接続され '-어 주다' 構成で用いられる。)

・他人のためにある行動を行なうことを表す語。

例) ご飯を代わりに食べてやった／友達のを修理してやった／彼は友達の宿題を代わりにしてやった。

《받다》

「動詞」【・・・に／・・・から／・・・を】

・他人がくれたり、他人から送られたりする物などを受け取る。

국립국어원표준대사전 (国立国語院標準国語大辞典), 2012

2.2 アンケート調査の時期と対象

調査は、2011年7月および2011年11月の2回実施した。表1は、対象となった韓国人日本語学習者97名の日本語力を、日本語能力試験の合否で示したものである。

表1 韓国人日本語学習者

日本語 レベル別	A 群		B 群		C 群		D 群	計
	N3	3 級	N2	2 級	N1	1 級	未受験	
学習者数	6 名	4 名	15 名	9 名	24 名	11 名	28 名	97 名
	10 名		24 名		35 名		28 名	

A 群～C 群は、日本語能力試験合格級により分類。

2.3 アンケート調査と集計

短文1つまたは2つからなる問題文の授受表現の部分を、文脈に合わせて3つの選択肢から選ぶ問題（計10問）、日本語および韓国語に訳す2問の計12問を作成し、調査対象者にランダムに提示した。得られた回答を正用1点の計10点満点で得点化し、比較検討する。但し、韓国語に訳す2問は得点化しない。また、対象者を日本語能力試験合格級により分類するが、D群は未受験者であるため日本語力の判断が困難であるので、考察から除外する。

3. 結果

3.1 「てくれる」文における誤用率

「てくれる」文の誤用を抽出し、日本語のレベルから誤用傾向を分析した。「てくれる」が正解は、問3, 5, 7, 8, 11である。

図1は、「てくれる」文において生じた誤用を日本語のレベル別に示したものである。

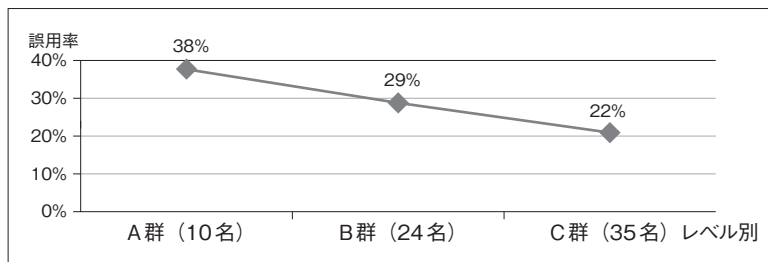


図1 「てくれる」レベル別誤用率

図1から、A群の誤用率は38%、B群が29%、C群が22%、と、日本語のレベルが上がると誤用率が下がる結果が得られた。

3.2 「てくれる」の誤用の特徴

図2は、各日本語のレベルの誤用全体から見た、「てくれる」→「てもらう」、「てくれる」→「てあげる」の回答率である。

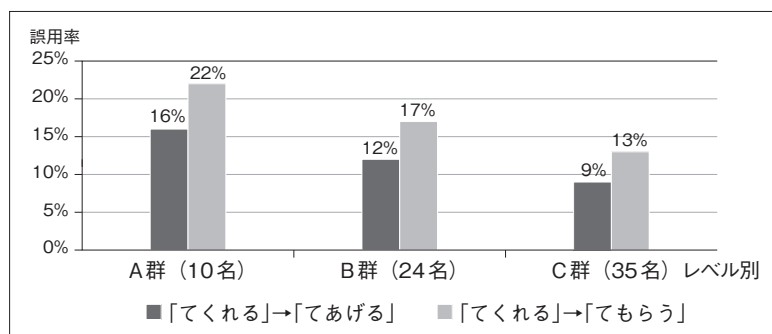


図2 「てくれる」の誤用の内訳

図2に見られるように、すべての群で「てくれる」を「てもらう」とした割合が「てくれる」を「てあげる」とした割合を上回っている。しかし、いずれの誤用も日本語のレベルが上がると、誤用率が下がる。

レベル別に比較してみると、C群が「てくれる」を「てもらう」と答えた割合が、B群が「てくれる」を「てあげる」と答えた割合よりやや高い。

表3は、「てくれる」を正用とする問（5問）の誤用表現を示している。（ ）内の％は、「てくれる」→「てもらう」を100としたときの「てくれる」→「てあげる」の割合である。

表3 「てくれる」の誤用頻度

日本語のレベル（人数）	A群（10名）	B群（24名）	C群（35名）
「てくれる」→「てあげる」	8（73%）	15（75%）	16（73%）
「てくれる」→「てもらう」	11（100%）	20（100%）	22（100%）

問題数：計5問

表3でわかるように、A群が73%、B群が75%、C群が73%と「てくれる」を「てあげる」とする誤用の割合が「てもらう」とする割合より低い。

3.3 韓国語訳での様相

学習者の全体的な傾向を見るため、表4と表5では未受験の学習者を含む97名の回答の型をまとめる。表4は、問1の「てくれる」が含まれる日本語文の韓国語訳に見られた様相をまとめたものである。

問1) 次の日本語文を韓国語に訳して下さい。

「ジュンスがライブDVDを見せてくれました。→

表4 「てくれる」の韓国語訳の様相

回答型	問1の回答	問1の回答の日本語訳	回答者数
①	준수가 라이브DVD를 보여주었습니다	「Aが～Xをみせてくれる」 ジュンスがライブDVDを見せてくれました。	97名

問1では日本語のレベルを問わず、「てくれる」の韓国語訳の様相として、下記の1つの型が見られた。

A が X を ～てくれる

1) 준수가 라이브DVD를 보여주었습니다

表5は、問2の「てもらう」が含まれる文を韓国語訳に見られた様相をまとめたものである。

問2) 次の日本語文を韓国語に訳して下さい。(アドバイス: 어드바이스 or 조언)

「先輩にアドバイスしてもらいました」→

表5 「てもらう」の韓国語訳の様相

※ A = 与え手, X = 対象

回答型	問2の回答	問2の回答の日本語訳	回答者数	回答率
a	선배에게 조언을 받았습니다	「Aに～Xをもらう」 先輩にアドバイスをもらいました。	50名	51.5%
b	선배가 조언을 해주었습니다	「Aが～Xをしてくれる」 先輩がアドバイスをしてくれました。	15名	15.5%
c	선배가 조언해주었습니다	「Aが～Xてくれる」 先輩がアドバイスしてくれました。	12名	12.4%
d	선배에게 충고를 들었습니다	「Aに～Xを聞く」 先輩にアドバイスを聞きました。	9名	9.3%
e	선배에게 조언받았습니다	「Aに～Xもらう」 先輩にアドバイスもらいました。	6名	6.2%
f	*선배에게 조언을 해받았습니다	「Aに～Xをしてもらう」 先輩にアドバイスをしてもらいました。	2名	2.1%
g	선배에게 조언을 구했습니다	「Aから～Xを求める」 先輩からアドバイスを求めました。	1名	1%
h	선배로부터 조언을 얻었습니다	「Aから～Xを得る」 先輩からアドバイスを得ました。	1名	1%
i	선배로부터 조언을 얻었습니다	「Aに～Xを得る」 先輩にアドバイスを得ました。	1名	1%
回答者計			97名	100%

問2の「てもらう」の韓国語訳の様相として、a～iの9種類が見られた。a（선배에게 조언을 받았습니다「Aに～Xをもらう」）が97名中51.5%，次にb（선배가 조언을 해주었습니다「Aが～Xをしてくれる」）が97名中15.5%，c（선배가 조언해주었습니다「Aが～Xてくれる」）が97名中12.4%，d（선배에게 충고를 들었습니다「Aに～Xを聞く」）が97名中9.3%，e（선배에게 조언받았습니다「Aに～Xもらう」）が97名中6.2%である。その他，「Aに～Xをしてもらう」が2.1%，「Aから～Xを求める」，「Aに～Xを得る」，「Aから～Xを得る」が各1%であった。

また，学習者97名のうち50名が，「先輩にアドバイスしてもらいました」を「선배（先輩）에게（に）조언（アドバイス）을（を）받았습니다（もらいました）」と表現している。「アドバイスしてもらう」のところが「조언을 받다」つまり，「アドバイスをもらう」となっており，「動詞てもらう」の代わりに「名詞をもらう」が適用されている。

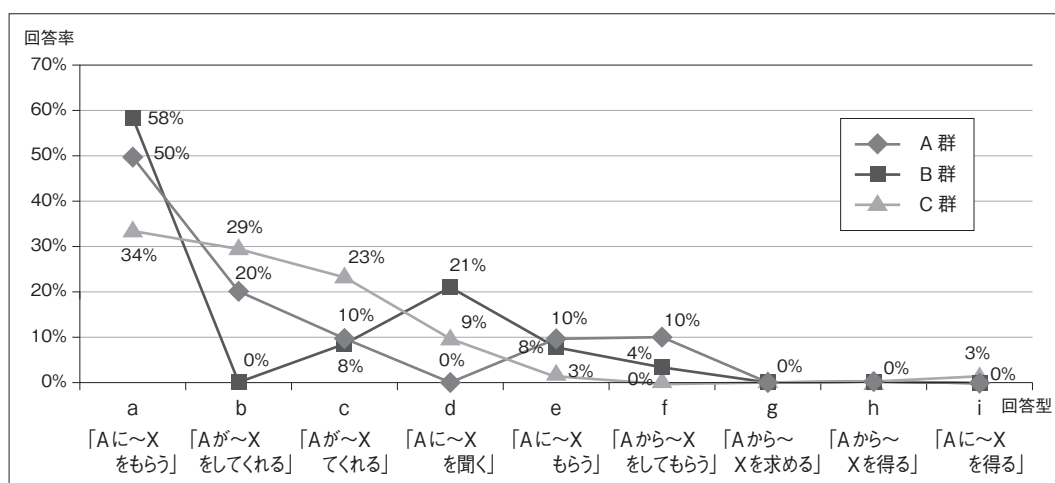


図3 問2の回答の種類と日本語のレベル別回答率

図3は，問2の回答の種類と日本語のレベル別回答率をグラフに示したものである。図3で見られるように，日本語のレベルを問わず，a「Aに～Xをもらう」とした韓国語訳が高い。日本語のレベル別では，A群，B群いずれも回答型aの「Aに～Xをもらう」が他の8つの回答より高い割合である。

	a	b	c	d	e	f	i	h	g
A 群	50%	20%	10%	0%	10%	10%	0%	0%	0%
B 群	58%	0%	8%	21%	8%	4%	0%	0%	0%

C群は，a「Aに～Xをもらう」が34%で割合が高いものの，b「Aが～Xをしてくれる」が29%，c「Aが～Xてくれる」が23%となり，他のレベル群とは異なる傾向がうかがえる。

図4は，得られた回答の種類を「(받다/пат타) モラウ型」，「(주다/チュダ) クレル型」，「その他」の3つに分けて，グラフに示したものである。

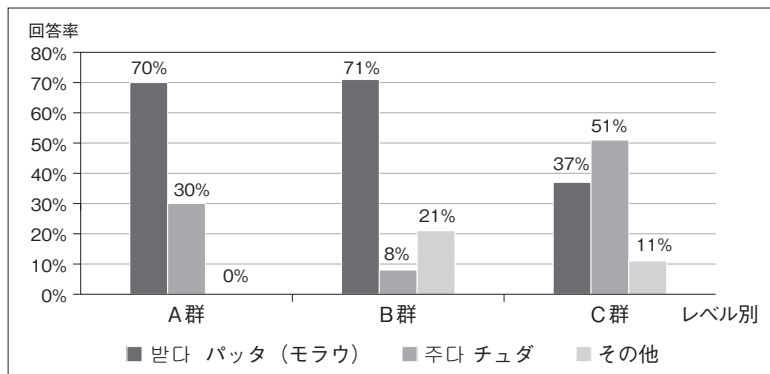


図4 問2の回答の傾向

回答を比較すると、回答率は、3つの型のうち「(받다/пат타) モラウ型」がほかより高い。日本語のレベル別では、A群とB群は、「(주다/츄다) クレル型」と「その他」が30%以下の回答率だが、「(받다/пат타) モラウ型」は70%以上の回答率である。C群は、「(주다/츄다) クレル型」が51%、「(받다/пат타) モラウ型」が37%、「その他」が11%で、「(주다/츄다) クレル型」が非常に高い回答率を示している。

《まとめ》

調査結果から次のことが明らかになった。

- 1) 本語力のレベルが高くなるにつれて「てくれる」の誤用が減る (A群38%, B群29%, C群22%)。
- 2) 日本語力のレベルを問わず「てくれる」を「てもらう」とした誤答が「てくれる」を「てあげる」とした誤答より多い。
- 3) 「てくれる」の韓国語訳は1つの型が見られたが、「てもらう」は9つの型が見られた。
- 4) 「てもらう」の韓国語訳を回答型別にみると「Aに～Xをもらう」の回答が最も多い。
- 5) 「てもらう」の韓国語訳の回答型を「(받다/пат타) モラウ型」, 「(주다/츄다) クレル型」, 「その他」の3つに分けたところ、A群とB群は「(받다/пат타) モラウ型」が顕著に高いが、C群は「(주다/츄다) クレル型」が最も高く、他のレベル群とは異なる傾向が見られる。

4. 考察

韓国語の「아/어 주다 (ア/オ チュダ)」1つに当たる日本語は「てくれる」と「てあげる」の2つで表す。そのため韓国語学習者は「てくれる」と「てあげる」の習得が難しいという主張がある。また、「(て) くれる」は、受け手が分かるため、「私に」が省略されるのが一般的であり、「が」と「に」という助詞の理解不足により習得が難しいという主張もある。

これらの主張を踏まえると、「てくれる」を「てあげる」とした誤用が多く生じると予測できる。しかし、調査結果から、日本語のレベルを問わず、「てくれる」を「てもらう」とする誤用が「てく

れる」を「てあげる」とする誤用を上回った。したがって、「てくれる」は、「てあげる」との混用に関しては、これらの主張のとおり言語体系の相違が要因となると言えるが、「てもらう」との混用に関しては言うことができない。

また、「てくれる」の韓国語訳は1つの型しか見られなかった。これは、日本語の「てくれる」の場合、韓国語「주다 チュダ (アゲル/クレル)」にも補助的用法があるため、日本語のレベルを問わず、学習者が日本語をそのまま韓国語に置き換えることができたと考えられる。

一方、「てもらう」は9つの回答型が見られた。これは、日本語の「てもらう」の場合、物の移動を表す動詞「받다 (パッタ)」は韓国語にも存在するが、補助的用法はないので当然のことである。しかし、問2の「先輩にアドバイスしてもらいました」の韓国語訳で、多くの学習者が「선배 (先輩) 에게 (に) 조언 (アドバイス) 을 (を) 받았습니다 (もらいました)」と表現している。「アドバイスしてもらう」のところが「조언을 (を) 받다 (もらう)」となっており、「動詞てもらう」の代わりに「名詞をもらう」という形を適用している。

これはつまり、「アドバイスする」は韓国語にも動詞「조언하다」があるが、これと同じ意味を持つ名詞「조언」という語があることから「動詞てもらう」を「名詞をもらう」にしていると推察される。このような例はほかにもある。例えば、日本語の「手伝ってもらいました」と文があるとした場合、「手伝う」は韓国語に動詞「돕다」と名詞「도움 (手伝い)」がある。よって、「手伝ってもらいました」は「도움 (手伝い) 을 (を) 받았습니다 (もらいました)」と表すことができる。

したがって、「てもらう」は、韓国語「받다 パッタ」という動詞が補助的用法を持たない。よって、「動詞てもらう」が「名詞をもらう」という形が適用されていることが今回の実験から見えた。

キム・ウンヨン (2006: 129) は (私が父に自転車を買ってもらった) の韓国語訳として「내 (私) 가 (가) 아버지에게 (父に) 자전거를 (自転車) 을 사 받다 (「サ パッタ」買ってもらった)」は非文と言及している。しかし、本調査では日本語力が低いA群で「*선배에게 조언을 해 받았습니다 (へ パッタ) してもらいました」(表5の回答型f参照) という非文が見られた。これは日本語の文をそのまま韓国語に置き換えた形である。つまり、「してもらいました」は日本語としては何の問題のない文であるが (해 받았습니다) の表現は韓国語としては非文となる。したがって、韓国人学習者にとって「てもらう」を韓国語で表すことは容易でないことを示唆する。

最後に、「てもらう」は日本語のように一般動詞と接続するものではないため、日本語「てもらう」を韓国語で訳す場合は「てもらう」のガ格と二格を変えて、日本語「てくれる」に相当する「어 / 아 주다 (ア/オ チュダ)」にするのが一般的である (尹: 2009)。この主張を踏まえると、「てもらう」の韓国語訳として「(주다/チュダ) クレル型」が多く見られると予測できる。実際の調査でどのような傾向が見られるかを検証するため、9つの「てもらう」の回答を「(받다/パッタ) モラウ型」, 「(주다/チュダ) クレル型」, 「その他」の3つに分けて分析した。その結果、A群とB群は「(받다/パッタ) モラウ型」が顕著に高かったが、C群は「(주다/チュダ) クレル型」が最も高く、他のレベル群とは異なる傾向が見られた。

「てもらう」の韓国語表現に多様性が見られたが、特に低レベルのA群とB群で「(받다/パッタ)

モラウ型」が多く見られたのは、助詞「に」を「が」に変えて他の動詞を用いる能力が低いため、日本語の「動詞＋て形」の部分を「動詞」と同様の意味を持つ「名詞」に取りかえて「名詞＋を」の形で表現していると考えられる。尹（2009）が言うように、ガ格と二格を変えて「てくれる」を用いることはできなかったと推測できる。したがって、本来韓国語の「받다 パッタ（モラウ）」動詞が補助的用法を持たない制約が日本語にも適用されていると推察される。

C群では「(주다/チュダ) クレル型」をとった表現が多かったことについては次のように分析できる。

- ① 「が」格と「に」格の区別
- ② 補助的用法の活用
- ③ 自然な韓国語の表現に置換

日本語力が高いC群は、この3つの能力を身に付いている可能性があり、他の群とは異なる傾向が見られたと考えられる。

市川（1997）が言うように、「私がもらう」、「私にくれる」というように「が」と「に」の違いだけで動詞が変わるので、「が」と「に」の意味・機能が分かっていないと、「(て) くれる」か「(て) もらう」かの判断ができない。したがって、低レベル群の学習者には、助詞を変えて韓国語に表現することは難しい。C群は、日本語を操る能力が低レベル群より高いことから、補助的用法を生かしながら自然な韓国語に変えるため、「が」格と「に」格の位置を変えて動詞「くれる」を選択することができ、低レベルの学習者より母語の関与が少ないと考えられる。

今回の実験で「てくれる」の誤用は、「くれる／あげる」よりも韓国語「받다/パッタ（モラウ）」が補助的用法を持たない方が「てくれる」の誤用の大きな要因である可能性が高いと考えられる。

また、授受補助動詞の韓国語訳の結果を考えた場合、「アドバイスしてもらおう」については、レベルが低い学習者は「(주다/チュダ) クレル型」より「(받다/パッタ) モラウ型」つまり、「조언을 받다（名詞をもらおう）」を著しく選んで使用している。全体については言えないが、名詞化が可能な動詞については、習得の早い段階で、最初に習得するのは「もらおう」と「くれる」で考えると、「もらおう」の方が容易である可能性があると実験で指摘したいところである。

5. おわりに

これまで、韓国語母語話者が日本語を習得するとき困難に思う授受動詞の補助的用法について、学習者の日本語のレベルと韓国語表現の様相という2つの観点から「てくれる」の誤用の傾向について考察した。

今回の実験で、レベルの高い学習者が「てもらおう」を自然な韓国語に変える作業ができたとしても、本来「てもらおう」が持つニュアンスを認識しているとは判断できない。なぜなら、韓国語には「(받다/パッタ) モラウ」の補助的用法がないことから、日本語の授受表現に内在している恩恵や感謝の濃淡の度合（中崎：2006：6）に気付かない可能性があるからである。

今後の課題として、これらを視野に入れて、これは中間言語としての可能性もあるので、他の母

話者にも同じ傾向が見られるか否か、対象者と例文をさらに増やし、授受補助動詞の誤用をもたらし要因について追究したい。

謝 辞

本稿の執筆において、山下暁美先生をはじめ、柳澤好昭先生、西川寛之先生には、貴重なご教示を賜りました。心より感謝申し上げます。

参考文献

- 市川保子 (1997) —Ⅳ. やりもらい—『日本語誤用例文小辞典』 凡人社, pp.177-195
- 稲熊美保 (2004) 「韓国人日本語学習者の授受表現の習得について——「てもらう」系と「てくれる」系を中心に」『国際開発研究フォーラム』 26, 名古屋大学大学院国際開発研究科, pp.13-26
- 久野暉 (1978) 『談話の文法』 大修館書店 p.134, p.141, pp.152-152
- 坂本正・岡田久美 (1996) 「日本語の授受動詞の習得について」『アカデミア——文学・語学編』 61, 南山大学 p.686
- 萩原章子 (2007) 「「～てあげる」「～てくれる」「～てもらう」の文法性判断テスト——学習者の日本語履修歴とのかかわりについて」『ICU 日本語教育研究』 4, 3-19
- 牧野成一 (1996) 『ウチとソトの言語文化学』 アルク, p.70
- 森山 新 (2007) 「応用認知言語学的な日本語教育の試み」『日本認知言語学会論文集』 7, 日本認知言語学会
- 尹喜貞 (2004) 「授受本動詞「あげる」「くれる」「もらう」の習得——日本語を外国語とする韓国人日本語学習者を対象として」『言語文化と日本語教育』 第28号
- 尹喜貞 (2009) 『日本語学習者の授受動詞の習得に関する研究—学習環境と母語の影響について—』 お茶の水女子大学大学院博士論文, pp.34-35
- 横田 隆志 (2008) 「日本語初級教材のイラストに見られる「視点」の分析」北陸大学, p.223

参考資料

- 국립국어원 표준국어대사전사이트 <http://stdweb2.korean.go.kr/main.jsp> (2012/7/29 アクセス)
- 日本語能力試験JLPT <http://www.jlpt.jp/> (2012年5月20日 アクセス)

〈論 文〉

日本語作文から見る漢字語彙の使用について

—日本語話者・韓国人学習者・台湾人学習者の比較を通じて—

胡 曉 睿

キーワード：漢字圏学習者，作文データベース，漢字語彙，文字種，難易度

1. はじめに

第二言語としての日本語教育における漢字教育は，漢字圏と非漢字圏に分けて行われるのが多数である。なぜなら漢字圏学習者は，母語にも漢字が使われているため，非漢字圏の学習者より，漢字力が高いからであると考えられる。しかし，漢字圏と言っても，母語によって漢字力がそれぞれである。漢字を日常的に使用している中国語母語話者より，同じく漢字圏学習者と扱われる韓国人の漢字力は，だいぶ低いだろう。漢字圏学習者は母語の影響で，非漢字圏学習者より漢字や漢語の習得過程は複雑であるため，「漢字圏」と同一に扱うのは妥当ではないと考えられる。

本研究は，漢字圏と呼ばれる日本・韓国・台湾の大学生が書いた日本語作文を利用し，日本語母語話者と学習者が作文に使われた漢字・平仮名・片仮名の比率と，漢字及び語彙の日本語能力試験級別使用率を調査する。また，使われた漢字語彙の用例を分析する。

2. 作文データベースについて

「日本・韓国・台湾の大学生による日本語意見文データベース」（以下「作文データベース」と略す）は，日本語を母語とする大学生と日本語を学ぶ台湾人及び韓国人大学生が日本語で執筆した意見文を収録したものである。

2011年3月末時点での作文執筆者の人数，性別，平均年齢は，表1のとおりである。

表1 執筆者情報

執筆者	人数	性別		平均年齢
JP（日本）	134名	男性 90名	女性 44名	19.4歳
KR（韓国）	57名	男性 14名	女性 43名	21.1歳
TM（台湾）	55名	男性 9名	女性 46名	22.2歳

JPは東京都内の大学に通う日本人大学生，KRは韓国，TMは台湾の大学に通う日本語学習者で

ある。執筆者は、同一の課題文を読み、辞書などは使用せずに約60分で原稿用紙1枚に800字程度で執筆した。

作文の課題：今、世界中で、インターネットが自由に使えるようになりました。ある人は「インターネットでニュースを見ることができるから、もう新聞や雑誌はいらない」と言います。一方、「これからも、新聞や雑誌は必要だ」という人もいます。あなたはどのように思いますか。あなたの意見を書いてください。

KRおよびTMに関しては、日本語能力試験2級（学習時間600時間相当）以上の日本語学習者を対象とした。また、母語の影響が論じられるよう、日本語で執筆した後で、同じ内容の意見文を母語でも執筆してもらった。

3. 調査方法

「作文データベース」から日本人・韓国人・台湾人の作文をランダムに各10編抽出し調査対象とする。「日本語読解支援システム リーディング チュウ太」(<http://language.tiu.ac.jp/>) を利用し、以下の手順を行う。

- ① 「漢字チェッカー」で使用される文字種の比率を判定する。
- ② 「漢字チェッカー」で漢字の難易度を判定する。
- ③ 「語彙チェッカー」で語彙の難易度を判定する。

4. 調査結果

4.1 文字種の使用状況

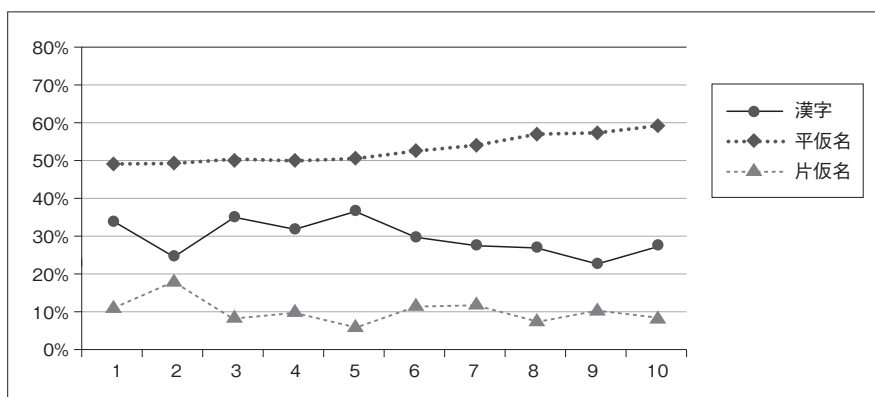


図1 日本人の文字種の使用状況

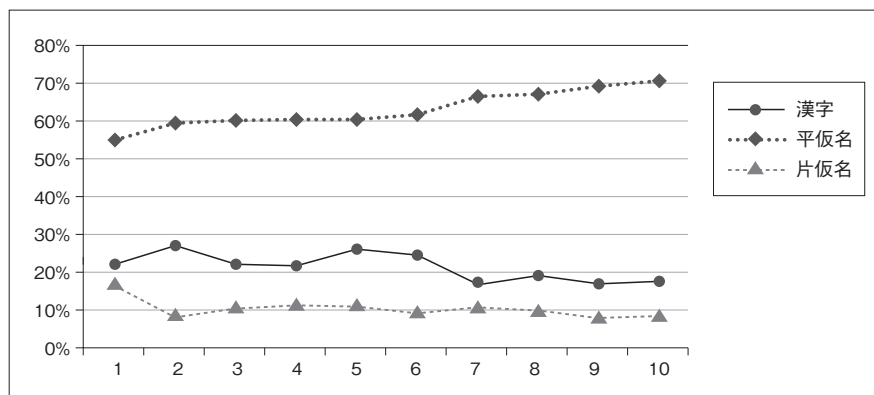


図2 韓国人の文字種の使用状況

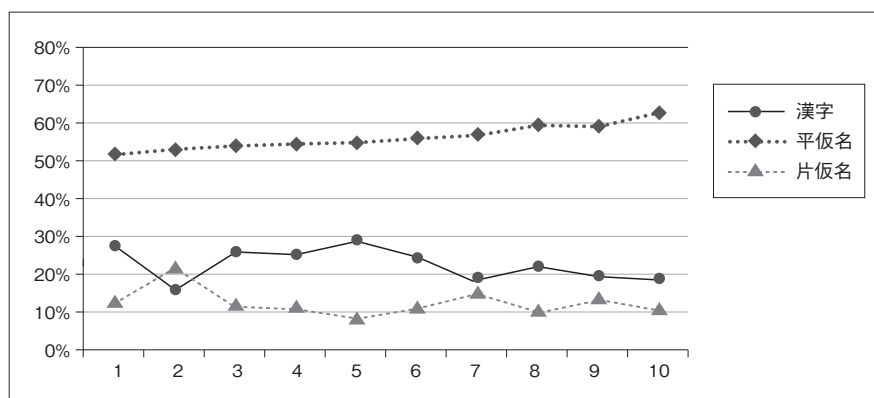


図3 台湾人の文字種の使用状況

3カ国の作文における文字種の使用状況を見ると、全ての作文には平仮名がもっとも多く使用されている。韓国人が台湾人より、台湾人が日本人より平仮名の使用率が有意に高い ($P_1 = 0.0009$; $P_2 = 0.02$)。

また、台湾人の1名を除いて、全ての作文における漢字の使用率が片仮名より高い。日本人の漢字使用率 (30%) は韓国人 (21%) と台湾人 (23%) より有意に高い ($P_1 = 0.0003$; $P_2 = 0.002$)。片仮名の使用率は台湾人のほうがやや高い。

4.2 漢字の級別使用状況

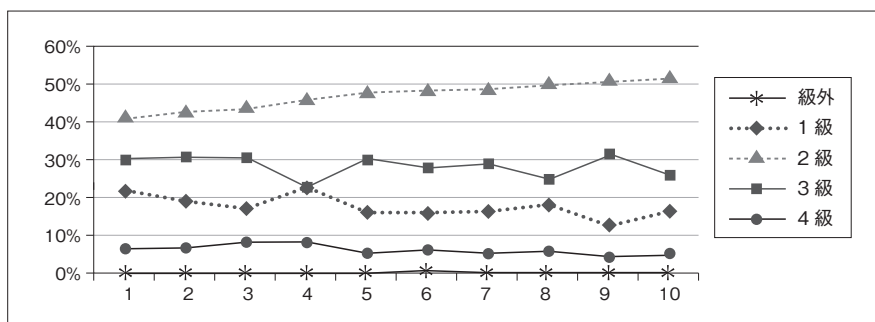


図4 日本人の漢字の級別使用状況

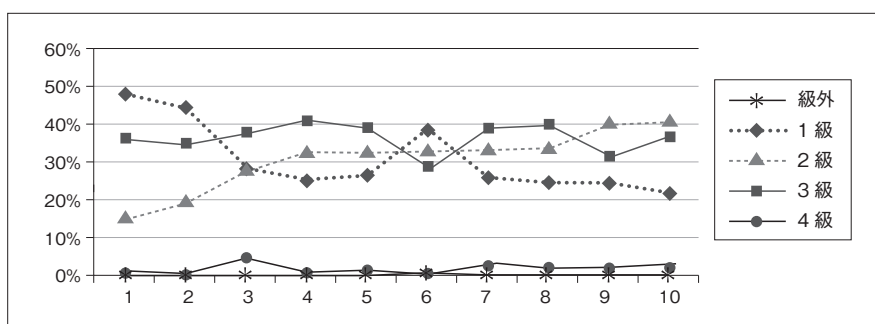


図5 韓国人の漢字の級別使用状況

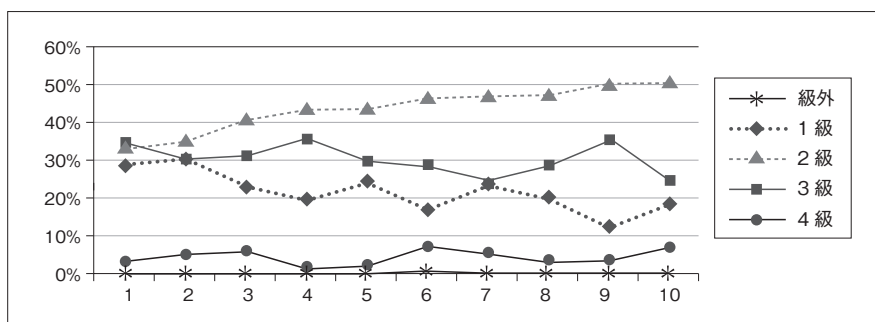


図6 台湾人の漢字の級別使用状況

3カ国における漢字の級別使用状況のグラフを見ると、日本人より、韓国人と台湾人の図形は上がり下がり激しいことがわかる。特に韓国人の漢字の級別使用率は個人差が大きい。平均値を言うと、韓国人は3級>2級>4級>1級>級外という順番で漢字が使われているが、一人一人の数値を見ると、2級・3級・4級の使用率は異なる。

日本人と台湾人は2級>3級>4級>1級>級外という順番で漢字が使われている。韓国人に比べると、2級と3級の漢字使用率が逆である。

4.3 語彙の級別使用状況

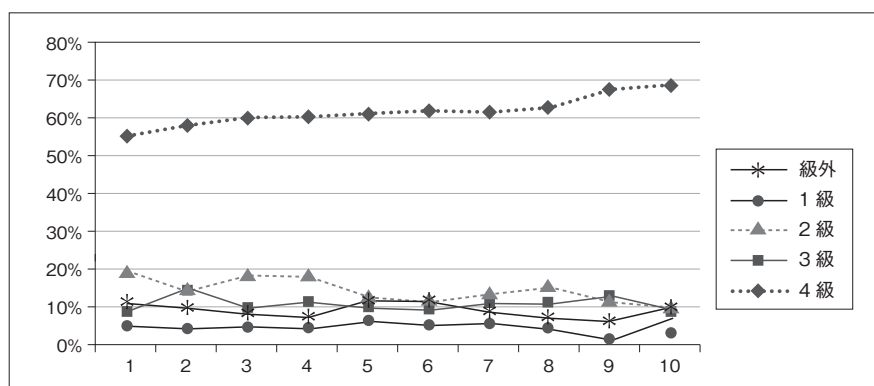


図7 日本人の語彙の級別使用状況

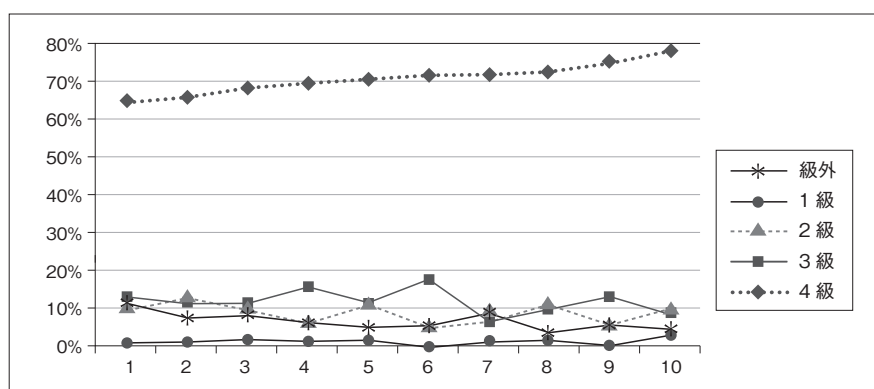


図8 韓国人の語彙の級別使用状況

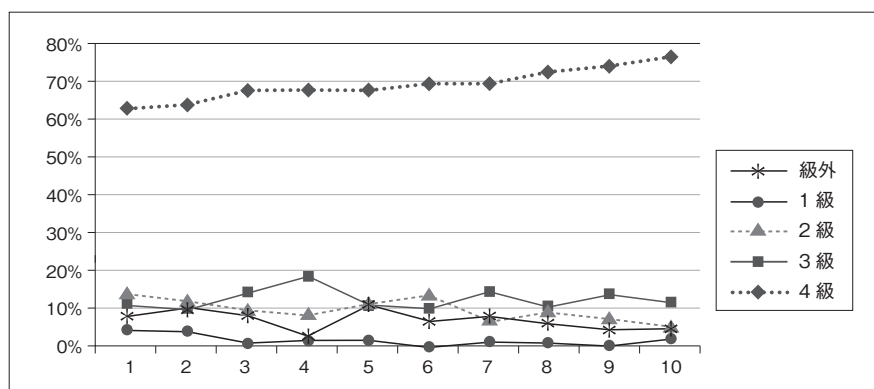


図9 台湾人の語彙の級別使用状況

3カ国の作文における語彙の級別使用状況を見ると、全ての作文には、4級語彙が半分以上使用されている。1級・2級・3級・級外の語彙は20%以下である。相対的に日本人は韓国人と台湾人に比べて、3級・4級の語彙使用率が低く、1級・2級の使用率が高い。

日本人は4級>2級>3級>級外>1級の順番で語彙が使われているのに対して、韓国人と台湾人は4級>3級>2級>級外>1級の順番である。

5. まとめと考察

作文に使用された文字種の結果をまとめると、全ての作文において平仮名の使用率もっとも高い。台湾人の1名を除いて、全ての作文における漢字の使用率が片仮名より高い。その1名の台湾人の作文には、「インターネット」は11回、「コンピューター」は7回使われている。外来語の多用のため、漢字の使用率が相対的に低くなると考えられる。

日本人の漢字使用率は韓国人と台湾人より有意に高い ($P<0.05$)。韓国人と台湾人の作文を見ると、書けない漢字語彙やあまり自信がない漢字語彙は、わざと漢字表記を避け、平仮名で書くことがわかる。

漢字の級別使用状況を言うと、母語話者より、学習者特に韓国人の漢字の級別使用率は個人差が大きい。それは、日本語レベルや学習段階の差異が原因であると考えられる。

韓国人は3級>2級>4級>1級>級外という順番で漢字が使われているのに対して、日本人と台湾人は2級>3級>4級>1級>級外の順番である。韓国人は日本人と台湾人に比べて、3級・4級の語彙使用率が高く、1級・2級の使用率が低いことから、難しい漢字の運用力がより低いことがわかる。

語彙の級別使用状況を見ると、全ての作文において、4級語彙が半分以上使用され、1級・2級・3級・級外の語彙は20%以下である。相対的に日本人は韓国人と台湾人に比べて、3級・4級の語彙使用率が低く、1級・2級の使用率が高い。それにしても、初級レベルの語彙は日常にもっとも多く使われることが明らかになった。

6. 漢字語彙の用例

ここでは、抽出した作文に使用されている漢字語彙の用例をいくつか挙げる。

日本人：

例1：インターネットは新聞雑誌を駆逐（→駆逐）するか？（JP012）

例2：しかし、インターネットにも弱点は幾つ（→幾つ）かある。（JP028）

例3：国際的な観点で見ても今だ（→未だ）に厳然と存在し続けていることにある。（JP023）

例4：ネットが紙に印刷されていないことに帰因（→起因）するのもかもしれない。（JP024）

例5：学生は新聞を読んで漢字や簡結（→簡潔）な文章の書き方を学んで欲しい。（JP024）

例6：（話題を）自然と読むこととなり、以外（→意外）とその記事がおもしろい（JP021）

*例1と例2は、漢字の書き間違いという字形の問題であるが、その他は同音漢字の使い分けの問題であると考えられる。

韓国人：

例 7：自分の意見を論理的に書く「論術」(→論述) 試験におもんじている。(KR004)

例 8：記詞①(→記事)のじゅうじつ②さは考えず速さだけ考える。(KR004)

例 9：世界は巨大(→巨大) なひとつの新しい世界 (KR040)

例 10：ネットのサイトは新聞とけいやくにむすばれている。サイトはかいしゃだ。だからりえき
かんけいがだいじだ。(KR040)

例 11：新聞や雑誌の特ちょうをもう一つのべてみると、それは「ほかん性」だ。(KR042)

例 12：私も家で新聞を読まずインターネットのニュースを見ることが多い。(KR048)

例 13：一時其①(→一時期) 電字②(→電子) ブックの時代が来たとしても (KR048)

* 例7と例8①は同音(または類音) 漢字の間違いである。例8②と例10, 例11は漢字表記を避け、平仮名で書くものである。例9は漢字字形の書き間違いである。例12と例13②は恐らく韓国語の影響を受け、書き間違えたものだろう。例13①は書かれた作文を見ると、漢字字形の習得不完全だと考えられる。

台湾人：

例 14：この未来から来た機器猫(→ドラえもん) はいろいろな道具を使って (TM010)

例 15：「資訊(→情報) 爆発」と言われている、いまのこの時代には (TM011)

例 16：出所がある情報でも、あまりに即刻性を強調するので、查明(→査証) しない情報が出るばかりという状況にもなった。(TM011)

例 17：新聞や雑誌は現在の人の情報工具(→手段) として、必要だと思います。(TM020)

* 4つの例は全て中国語の影響を受け、中国語の漢字語彙をそのまま使ってしまったものである。

漢字語彙の使用状況を見ると、日本人は主に字形や同音漢字の使い分けの問題にある。ワープロや携帯電話の普及で、母語話者の日本人にしても、漢字語彙を完全に正しく使用できるとも言えない。

韓国人は字形及び同音漢字の間違いのほか、母語の影響で漢字を書き間違えた例もあった。また、韓国人の共通点として、一般的に漢字で書かれた語彙の漢字表記を避け、平仮名で書いた現象が見られた。台湾人の漢字語彙の使用に、中国語をそのまま使った例がいくつか見られた。韓国人より、漢字語彙の用法に及ぼす母語の影響がより大きいと考えられる。

7. おわりに

本研究は、日本・韓国・台湾の大学生が書いた日本語作文を漢字語彙の視点から分析した。漢字圏と言っても、母語によってそれぞれの特徴があることが明らかになった。

現在の日本語教育は漢字圏・非漢字圏に分けて漢字教育を行うことを提唱している。しかし、漢字圏であるそれぞれの国の学習者は漢字力が異なり、母語の漢字と日本語の漢字はどれほど相違があるかも考慮しなければならないため、一律には論じられない。漢字圏学習者に対する漢字教育を

目指して、今後も続けて研究していく。

参考文献

- 大塚薫・林翠芳（2010）「中上級レベルの日本語学習者の作文教育―意見文にみる語彙・漢字使用及び誤用の分析結果を踏まえて―」『高知大学総合教育センター修学・留学生支援部門紀要』（4），pp.47-66，高知大学総合教育センター修学・留学生支援部門紀要編集委員会
- 小山真理・伊集院郁子（2008）「コーパスを用いた論文作成のための漢字および漢字語彙の抽出」『文化女子大学紀要. 人文・社会科学研究』（16），pp.59-74，文化学園大学
- 「日本・韓国・台湾の大学生による日本語意見文データベース」（http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/ijuin/koukai_data1.html）（2012年5月19日）
- 「日本語読解支援システム リーディング チュウ太」（<http://language.tiu.ac.jp/>）（2012年6月9日）

〈研究ノート〉

日本語作文クラスにおけるピア・レスポンスの試み

—JFL台湾人学習者の場合—

荒井 智子

キーワード：ピア・レスポンス，JFL台湾人学習者，作文教育，書き手と読み手，グループ構成方法

1. はじめに

筆者は台湾の大学で日本語を教えている。台湾では大学生に限らず日本語学習熱が高く、93.4人に1人が学習しているというデータがある（2010財団法人交流協会 台湾における日本語教育事情調査）。また、台湾の教育部中等教育司（文部科学省初等中等教育局に相当）が1999年より推進してきた「推動高級中學第二外語教育計畫」による成果が表れ、近年は、大学の日本語学科に入学した学生の中には高校の日本語科や第二外国語の授業、日本語クラブなどですでに日本語を学習したことのある学生も目立つようになったと感じる。しかし、作文の授業に対する意欲は高いとは言えないのが実情である。筆者の大学では、2年生の上学期から必修科目として作文の授業が始まる3年の下学期は選択科目になり、4年生では通年の選択必修科目として專題研究（卒業論文に相当）があり、書くことに関する授業は卒業まで続く。木村他（2010）は、書く学習が大切であることは母語の教育（国語教育）に限らず外国語教育においても同じであると述べている。それは、書くことが人間の精神生活や言語生活において欠くことができないこと、また、書くことは単にあるひとつの言語を学習した別の言語に言い換えることができて、それは「自分の立場で使う」ことがうまくできるようになったとは言えないという理由からである。

筆者は2008年から3年生の作文クラスを担当するようになり、協働学習であるピア・レスポンス（以下、PRと記す）という作文推敲方法を取り入れている。PRは効果的な作文推敲活動であるという研究報告が数多くあるが、活動方法は教師が実際の教育現場にあわせて具体的な方法を決めていくことになる。そのため、試行錯誤が必要であり、筆者のこの取り組みが今後の作文教育の現場や研究に貢献できればと願う。

2. 調査

2.1 作文クラス

2009年9月から2010年6月までの日本語専攻の3年生の作文の授業で、学習者数は28名であ

る。授業は週に1回、50分が2コマで、全36週である。授業で取り上げたことは、文体の違い、接続詞の使い方、文の構成、原因や理由の言い方、比較や割合を表す言い方、意見を述べる表現、感想を述べる表現などである。また、作文は7つのテーマ（「私の日本語学習法」「コミュニケーションについて」「ふるさとの祭」「今、熱中していること」「ニュースやグラフを取り入れた説明文」「身近なことを取り上げた意見文」「映画を見た感想」）を取り上げ、それぞれ400字から600字ほどの長さで書き、PRは6回行った。ひとつのテーマに関して、3週から4週の時間を取り、第3稿ほど書くことにする。28名の学習者全員が、PRを行うことが初めてだったので、第1回目の授業では、PRの意義や方法などについて詳しい説明と練習を行う時間をとることにした。

2.2 PRの方法

グループ構成の方法は、1回目と2回目はくじで、3回目と5回目は教師が指定して、4回目と6回目は学習者同士で自由に決めさせるというやり方で、3人で1グループになる。作文の第一稿を書くのは、授業の内容や作文のテーマによって授業時間内のときもあるが授業時間外に書いて提出させることもある。1人の作文につき15分間の話し合いの時間を設け、15分が過ぎると教師が次の人の作文を配布してピアで話し合いを始めるように指示する。また、ピアの作文は事前に配布して授業時間外に読んでおいてコメントを書き入れる方法と、授業時間内に配布したものをその場で読んで話し合う方法などを取り入れる。教師の添削は第二稿を提出させた後に文法やことばの修正が必要な箇所に印を付け、学習者自身が修正を行うという手順を踏む。

PRを行う際に教師が工夫した点は、学習者同士で活発な話し合いが行えるように畳の大教室を使ってひとつの机に1グループ3人が座り相手の顔を見ながら話し合えるようにした。また、教師から学習者に繰り返し伝えたことは、ピアで話し合うときには文法やことばの誤りだけを指摘し合うことがないように、読み手は書き手の作文のよいところや表現がうまいと感じたところ、さらに、意味がわかりにくいところや読み手自身の意見などを伝えるように促した。

3. 最後に

この作文クラスの学習者には合計4回のアンケート調査を行った。今後は、これらのアンケートの他に、第一稿から第三稿までの作文、読み手のコメントが書かれたシートや音声データなどから分析をまとめていく予定である。グループの構成方法、話し合いの時間の長さ、作文のテーマなどのPRの方法について学習者はどう感じているか。また、PRの継続と効果の現れ方の関係性についてはどうか。さらに、クラスにはさまざまな学習者がいるが、PRに合う学生と合わない学生がいるのか、その違いは何かなども取り上げていきたいと思っている。

参考文献

- 池田玲子・館岡洋子（2007）『ピア・ラーニング入門——創造的な学びのデザインのために』ひつじ書房
 木村博是・木村友保・氏木道人（2010）『英語教育大系第10巻リーディングとライティングの理論と実践——英語を主体的に「読む」・「書く」』大修館

〈研究ノート〉

文字の日本語における位置づけ

— 2007 年 —

鈴木 晃 二

キーワード：文字の分類，記号，メール文体，情緒表出記号

1. 意 義

この論文の意義は，2007年に書いた修士論文を，5年経った2012年現在において簡潔にまとめ，当時の顔文字使用の状況を記録しておくことである。また，今後の研究の材料の基礎として残しておくことである。以下は，修士論文のポイントをまとめたものである。

2. 顔文字の定義

修士論文では，以下の2点から顔文字を定義した。

①河野・西田（1995）の「文字の分類」から，「顔文字の字形（顔文字の形・表情や動作など）」は，「絵文字」と「図形文字」の説明に当てはまる部分が見られる。「顔文字の機能」は，「表意文字」に一部当てはまるといえよう。表意文字とは，「特定言語の音形式とは関係なしに，一つ概念（意味）を直接一つの字形で表わす文字」とある。これが，顔文字の場合，「いくつもの概念（意味）を一つの字形（顔文字の形）が表わす文字」といえるだろう。

②許慎の『六書』の「象形文字」の中に，「顔文字」に当てはまる部分が見られる。

顔文字は，以上で挙げたような文字の中にある特徴や機能を合わせ持っている。と同時に，符号や記号の集合体である。その符号や記号によって，顔の表情や動作を表わし，顔文字として機能しているのである。以上のことから，顔文字を「記号や符号によって顔や動作を構成し，文字が持ついくつかの機能や特徴を備えているもの」と定義する。

3. 顔文字の使用状況

集めたデータ（アンケートによる意識調査とメール文の実例）から，以下のようなことが考察された。

「顔文字を使うときの意識」において，若い世代は，顔文字を句読点の代わりに使う。年配の世代は，顔文字を句読点とは違ったものと認識し，顔文字と句読点を並べて使うことがある。

「顔文字の内容」において、顔文字は、その形で感情・感覚・動作を表し、文の内容を補うために使われるが、その顔文字が、文の内容とは必ずしも一致するわけではなかった。

「位置と語順」において、ほとんどの場合が、文末に使われる（図1参照）。文頭に使われることはほとんどなく、文と文との間に使われても、文の内容から前にある文の文末と推測できる。

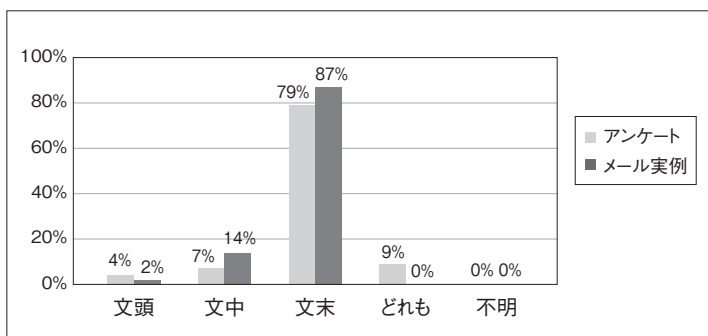


図1 携帯メールの顔文字の位置 アンケートとメール実例の割合

4. 顔文字の使われる文と文体

メール文体の実例を見ると、顔文字が付加される文は、話し言葉的な文となることが多い。この文体を「新言文一致体」（佐竹1980）や「メール文体」（佐竹2005）という。新言文一致体やメール文体の中で育ってきた顔文字は、井上（2006）がいう「新たな文体」という要素も持っているとも考えられる。

5. 顔文字の日本語における位置づけ

文字の定義と照らし合わせて「顔文字の定義」をつくり、顔文字使用のアンケート調査とメール文の実例の結果から「顔文字の使用状況」を明らかにした。さらに、「新言文一致体」や「メール文体」という新たな文体が生まれたという点も注目すべきである。

私は、以上の3つ（定義・使用状況・文体）から、戸梶（1997）の『情緒表出記号』という言葉を支持した。結論として、顔文字は、日本語において「記号」として扱い、厳密には『情緒表出記号』という言葉で位置づけた。

参考文献

- 井上逸兵（2006）「ネット社会の若者ことば」『月刊言語』35, 大修館書店, (3) p60-67
- 河野六郎・西田龍雄（1995）『文字最前』三省堂
- 佐竹秀雄（1980）「若者雑誌のことば—新・言文一致体—」『言語生活』343, p46-52
- （2005）「メール文体とそれを支えるもの」『講座社会言語科学第2巻・メディア』橋下良明・編, ひつじ書房
- 戸梶亜紀彦（1997）「コンピュータ上でのコミュニケーションに見られる情緒表現に関する研究—情緒表出記号の使用方法について—」『広島県立大学紀要』8, p125-138

〈研究ノート〉

流行語使用実態の経年調査法

—Google Trendsを用いて—

上 村 健太郎

キーワード：流行語，経年調査，Google Trends

1. はじめに

これまでの流行語の使用実態調査は，質問紙法による調査が主であった。しかし質問紙法による調査では，対象とするインフォーマントが日常の言語生活において無意識のうちに流行語を用いたり，調査に対する先入観をもっていたりすることにより，客観的な調査結果が得られ難い。また，ある流行語を使い始めたり，使う頻度が減ったりした時期はいつかという調査も難しい。

本稿では，流行語使用実態の経年調査の手法として，Google Trends(1)を提唱する。

2. Google Trends 調査

Google Trendsは，ある特定の語がGoogleでどの程度検索されたのかを，検索された語の総体と比較してどの程度の量があるのかグラフ化，数値化できるGoogle社のサイトである。検索を行った期間のうちもっとも使用頻度の高かった時点を基準点とし，他の期間の使用数を相対的に表したグラフが表示される。検索対象とする期間や地域を指定することも可能である。Google Trendsにおいて検索が可能な期間は2004年1月1日から，検索を行った当日までである。検索結果のデータは，Excelのcvsファイルとしてダウンロードすることが可能である。cvsファイルでは，Google Trendsにおいて表示されたグラフのデータを，数値データとして得ることができる。

本稿の調査では，2005年から2007年の3年間の「ユーキャン新語・流行語大賞」の受賞語25語を対象とした。当該期間の受賞語は30語あるが，「～」のような特殊文字が含まれているものはGoogle Trendsにおいて正確な調査結果が得られない恐れがあるため除外した。調査対象語は紙幅の都合上，次頁の図を参照されたい。

Google Trendsを用いて得られた流行語使用実態の経年調査結果を，次項の図1，図2のように散布図化した。図の縦軸が対受賞年比の使用率であり，100%を受賞年平均値とした。横軸が調査対象年の全調査語の平均値比の使用率であり，100%を当年における調査語の平均値とした。対受賞年比と当年平均値比の各100%近辺を境に2つのグループに大別できた。対受賞年比100%を上回る語を

Aグループ、100%を下回る語をBグループとした。

3. 考察とまとめ

受賞1年後から2年後までの1年間に、対受賞年比100%を上回る語が6語から2語へと減少した。受賞年から年を経るとAグループの語が減少し、Bグループへ移行していく語と、Aグループに存続する語に二分される傾向が示唆された。

Google Trendsを用いることで、流行語使用実態の経年調査が可能である。

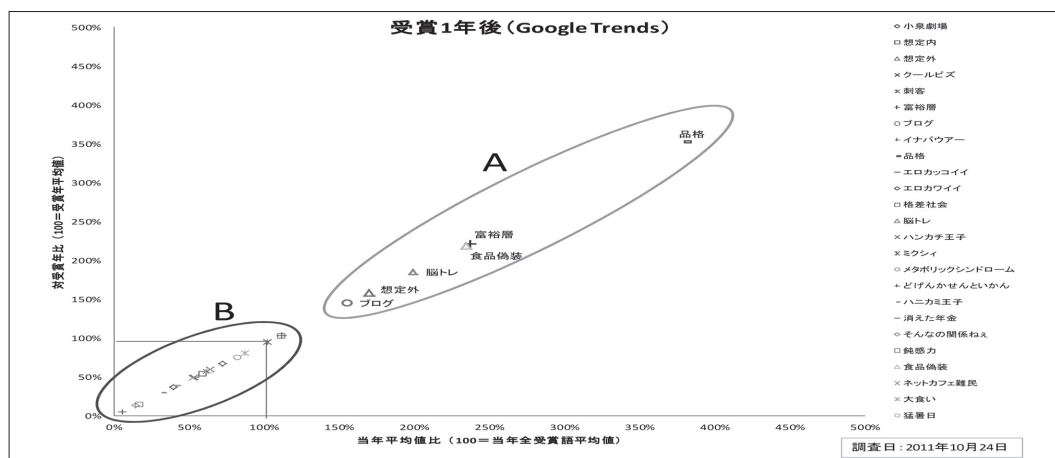


図1 受賞1年後における使用実態

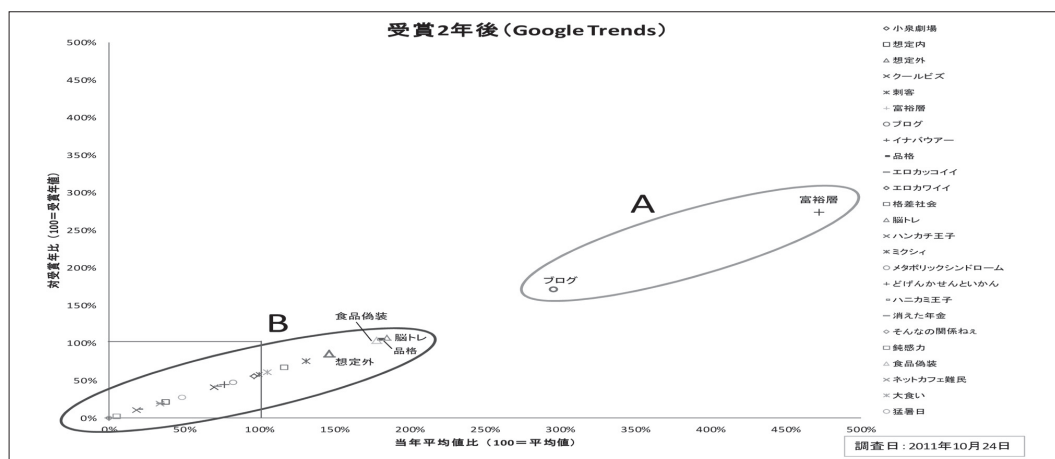


図2 受賞2年後における使用実態

〈注〉

(1) Google Trends <http://www.google.com/trends/?hl=ja> (2013年1月10日存在確認)

参考文献

井上史雄 (2012)「日本語世界進出のグーグル言語地理学—グーグルインサイトにみる外行語総合分布—」『明海日本語17』明海大学日本語学会, pp.29-42

平成24（2012）年度 卒業研究要旨

11090001 穂葉 早苗

「ヴィジュアル系と文化の繋がり ―the GazettEの世界観から人気の理由を学ぶ―」

現在、外国人が日本に留学する理由として「日本の文化」を知りたいからという理由が増えてきている。サブカルチャーとしてヴィジュアル系が取り上げられることも多くなり、人気は絶えることはない。ヴィジュアル系の人気の裏側には何があって、世の中にどんな影響を与えているのか。本稿ではthe GazettE（ガゼット）というバンドを中心に歌詞や音楽の世界観を分析、考察をしてアンケート調査から人気の理由を明らかにした。

11090002 秋山 宗広

「京都方言と標準語の成り立ちについて」

日々の生活の中で、人々は話し言葉を何げなく使用している。首都圏に在住する人は標準語を無意識に使用し、地域によっては、そこでしか通じない方言が存在する。そこで京都の言葉と標準語の成り立ちの考察を試みた。もともと京都の言葉は中心的な言語であったが、明治以降、東京遷都によって、江戸語から東京語へと移行し、標準語が成立するのである。本論稿では、その歴史的な背景と経緯を論ずるものである。

11090004 荒井 貴明

「小説家 西尾維新の文学的、言語学的見地」

現在、「物語シリーズ」や「めだかボックス」等の多数の人気作品を手掛ける西尾維新。彼の作品の魅力を文学的に研究し、またアナグラムなどの言葉遊びのプロでもある彼の言葉を言語学的に解釈する。

研究方法として西尾維新の作品を実際に読みどのような点が優れているか、魅力的であるかを個人的に研究した。また作品のなかで「少女不十分」という作品が西尾維新の小説の根幹であると捉え、同作品の理解について記述した。

11090005 叶 娜

「バイト敬語の乱れについて」

マクドナルドでアルバイトをしているが、その時接客に用いられる敬語が独特で正しいとは言えないことに気がついた。客に対する不愉快な言葉づかいをなくすために、間違った敬語をどう直せばいいのかについて考察した。不愉快な言葉づかいや誤った敬語の実例はアルバイト先で集めた。

本論文は、マクドナルドの店員と客に対してアンケート調査を行い、分析し、相手への気遣いを正しく伝える表現を明らかにした。

110900006 石川梨葉子

「安倍晴明について」

平安時代に実在した陰陽師安倍晴明は、人々の極端な不安、恐怖から生み出す妄想を巧みに操作し、当時の人々が存在を信じ恐れた鬼や妖怪や霊を祓うことをしていた。だが、様々な出生の謎があり、さらに「狐の子」という伝承が残っている。その事実を知るために京都の「晴明神社」に足をむけた。様々な資料をもとに晴明の素性を調べていき、彼は本当に「狐」との子供かもしれないということを調べることができた。

110900007 石戸 聡

「日本における服装史の変遷について」

日本人が欠かすことのできない和服について、各年代の流行を調べ、その変遷をまとめたものである。

日本の服装文化は、すべて和服から始まり、西洋の文化も取り入れ、それが経済的に大きく発展することになる。特に、安土桃山時代が一つの区切りとなり、着物文化の象徴となっている。各時代の目まぐるしい発展を取り上げ、和服における服装史について時代的な変遷とその文化の特徴を述べたものである。

110900008 石原 信宏

「目標を上手く設定するには」

目標は物事を達成する際に重要であり、目標設定をすることで努力することができ、満足のいく結果を生むことができる。だが目標は偶然達成することもあり、必ずしも良い影響を得られるとは限らない。そこで結果を残さなければいけないプロサッカー選手を調査し、目標を上手に設定する方法を調べた。

結果は、結果目標から逆算し、行動目標を達成し、結果から新たに課題を見つけ、目標を設定することを繰り返すことであるとわかった。

110900009 伊藤あやな

「千葉県の方言調査研究方法について」

千葉県の方言に関連した研究が始まったのは江戸時代からといわれている。だがその研究は千葉県の方言だけでなく語彙に関連したものであったという。明治以降は各地にある地域の方言に関心が集まり、いろいろな方言集が出版されるようになった。千葉県でも方言集は出版されている。この研究のために、「千葉話し言葉調査票」と刊行準備中のグロットグラムを用いて地域、世代、調査

対象の違いをまとめた。

11090010 伊藤 真未

「オノマトペの達人 宮沢賢治のオノマトペのメカニズムの解説」

日本語は韓国語とならんでオノマトペが豊かな言語である。なかでも宮沢賢治は「オノマトペの達人」として称されるほど、オノマトペに関心を持ち、独自のオノマトペを開発・発展していった。

そこで本稿では、彼の作品に用いられている賢治独特のオノマトペ（非慣習的オノマトペ）を作中から抜粋し、用法ならびにその効果を解説し、4つの法則に分類した。その結果、賢治特有のオノマトペの理解に近づいた。

11090011 榎本真寿美

「宝塚歌劇団における映画作品のミュージカル化について」

宝塚歌劇団で世界初の舞台化となった「愛と青春の旅立ち」と「オーシャンズ11」の二つが2010年と2011年にミュージカルとして上演された。

国内外で映画や漫画作品を題材としたものが多く舞台化されているが、女性のみで構成され公演を行う宝塚歌劇団では「愛と青春の旅立ち」と「オーシャンズ11」、二つの作品をどのように舞台化していったのかを調べ、映画での演出、舞台ならではの演出を比較した。

11090012 王 湘妹

「日中の言語対照について」

経済の発展とともに人々の交流は密接になってきている。しかし文化の違いから、誤解を起こすことがある。学習者は、日本語の語彙を習得する過程で、誤用を生じさせるが、原因は様々である。日本語の語彙の「語意」や「用法」など、同じ漢字を使用しながら、意味の異なるものがある。本稿では、同字異義と誤用を挙げ、その原因を分析した。更に、助詞の習得が、なぜ中国人学習者にとって難しいかも論じた。

11090013 大木 友里

「最近の戦国時代と呼ばれる箱根駅伝の現状―戦国時代を迎えて―」

箱根駅伝は、新旧の争いが激化し戦国時代と呼ばれるようになり、人気が増している。そこで本研究では、戦国時代となった要因を明らかにすることを研究課題とし、視聴率、経済効果、学生スポーツのあり方などについて文献調査を行った。その結果、少子化による大学志願者数の低迷から、各大学が箱根駅伝に力を入れ始め、最大の宣伝場所として利用するようになったことが、戦国時代となった主な要因であることがわかった。

11090015 帰山 尚

「江戸語から現代日本語への言葉の変遷」

日本語はつねに変化し、現在も変化をしている過程にある。新しい言葉が生まれ、消えていく言葉もあり、昔から使用されている表現や語彙も存在する。

そこで、本稿では、現在、使用されている言葉がどのような変遷をなしとげてきたのかを理解するために、江戸時代から現代日本語を通時的にその変遷過程を見ていくことによって、その生成を明らかにした。とくに語彙の部分を中心に考察したものである。

11090019 君塚 由香

「京ことばの日本各地への広がり方」

京都の方言に興味を持ち、京ことばの「お」がつく単語がどのように日本各地に広がって行ったのか疑問に思ったことから、主に、京ことば辞典や日本方言大辞典を用いて調べまとめた。そして、調べたものをグラフや表にして分析した。結果は、京都から近いところほど京ことばの「お」がつく言葉を多く使われるということがわかった。また、東北や九州は京都から遠い距離にあるので京ことばの使用率が低かった。

11090020 久保田治子

「動物園と水族館の歴史と現代の役割」

日本には多くの動物園・水族館があり人々に親しまれている。しかし、動物虐待の場だとして、動物園・水族館に反対する考え方もある。本研究では動物園・水族館の現代的な役割やその存在意義を明らかにすることを目的とし、文献調査をした。その結果、現代の動物園・水族館には、「種の保存」「自然環境の保全」「教育の場」「レクリエーションの場」の四つの重要な役割があり、動物虐待の場とは言えないことがわかった。

11090021 権 スヒョン

「日韓両国におけるあいさつ比較—あいさつ言葉、行動を中心に—」

近い国である日本と韓国であるが、あいさつ言葉と行動の面で両国に異同があると考え、それを明らかにすることを目的として、アンケートによる調査を行った。その結果、共通点としては、どちらも一般的なあいさつ言葉が圧倒的に多く使われていた。相違点としては、日本人に比べ韓国人の方が握手やハグをあいさつ行動として多く使うことや、「すみません」等の感謝と謝罪を一緒に表現するあいさつ言葉が韓国にはないことがわかった。

11090023 江 燕鳴

「日中対照言語についての研究」

日本と中国とは一衣帯水の国ではあるが、日本語と中国語は語族の異なる言語である。それゆえ

に、対照研究は非常に難しい。本稿では、中国語と日本語の音韻についての異同を対照し、その差異について分析する。また学習における問題点を探り、新しい視点を開拓したいと考える。音韻は、言語学習の軸である。基礎音韻の特徴を捉え、洗練された言語力を身につければ、この学習におけるスキルは学習者に役立つものと考ええる。

11090024 黄 金

「『すみません』から見た日本文化」

日本人は人に感謝するとき、「ありがとうございます」と直接的に言うほか、「すみません」とも言う。異文化間コミュニケーション場面では、日本人の言葉表現は相手に誤解される場合がある。「すみません」という言葉の特徴から、背景に隠れている日本の社会文化と価値観を分析した。そして、日本語学習者が日本語の学習を通じて、日本人のことを正しく理解するため、日本文化の学習も必要であることを述べた。

11090025 向後 佳祐

「日本人の曖昧さ」

日本人の曖昧さは「曖昧力」という定義づけがなされており、以心伝心やあうんの呼吸という言葉が、言葉を交わす以上のコミュニケーション力をもっている。またそれは集団意識の根底に根付いている。本研究は、日本人の曖昧さがどのような歴史的変遷をたどってきたかを考察し、日本文化にどのような影響を与えてきたかをまとめたものである。人間が心豊かに生きるための知恵として、曖昧さはどのように生かされたのかを実証する。

11090026 小寺あゆみ

「高校生に対する学校内での呼称」

本研究では、高等学校内で生徒が教師、友人、男子クラスメイト、女子クラスメイトそれぞれから呼ばれた呼称と呼ばれたかった呼称について男女別に調査をした。男子生徒は生徒だけでなく教師からも「名」で呼ばれたいと思う人が女子生徒より多い。これに対し女子生徒は、教師からは「姓」、友人からは「名」等、相手との距離感によって呼称を使い分けてほしいと思う人が男子生徒より多く、明らかな男女差があることがわかった。

11090027 小宮 尚人

「関西・近畿方言の浸透性と将来性」

私は方言が今変革の時期を迎えていると考え、多角的視点からどういった将来になるのかを考察することにした。研究方法としてネットを使用して主に使用率などを調査したが、結果としてやはり聞きなれない方言は検索数が少ないという結論に至った。加えて多角的観点から考察した結果、方言は「方言」という括りにとらわれず新しい音、様々な言語と合わせることで次の日本語の扉を

開くカギが隠されているという結論に至った。

11090028 呉 慧慧

「異文化コミュニケーションの理解について ―日本語と中国語対照表現―」

21世紀は、様々な文化が接触し、その上でコミュニケーションをする時代である。このような異なる文化を背景に持つ人々が共に生活し、共に働くということが当たり前の社会になってきている。そこで、このような状況における異文化教育の方法を見直すことが非常に重要となり、よりよいコミュニケーション能力の養成が言語教育の重要な目標になってきた。本研究では異文化教育についての方法を再検討し論じた。

11090029 斎藤 美笛

「ネットスラング及びネット語の認知度について」

日々生まれ変わるインターネットの言葉について、聞いた事があるか、日常で使うのか、単語の意味は知っているのか、会話で使うのかについて、大学の日本語学科の学生を対象にアンケートを実施した。その結果、全体の40%以上が意味を誤って認識したまま聞き流していた。また、ネット語を使う人は無意識に使っているのに対し、使わない人の9割以上は、使っている人も、言葉そのものも否定的に捉えているということがわかった。

11090030 佐藤 可奈

「若者はなぜあえて方言を使うのか ―方言ブーム・若者ことばから見る方言の魅力―」

近年、高校生などの若者の間で方言ブームが起きている。なぜ昔は恥ずかしいこととされていた方言が脚光を浴びるようになったのだろうか。

方言ブームの背景には、若者のポジティブ・ボライトネス志向が考えられる。要するに、新鮮でインパクトのある方言は親近感やノリの良さを表現し、また、仲間同士での連帯感を高めるのである。若者の常に斬新で粋な表現を求める探究心によって方言ブームは生まれたのである。

11090031 重信 岳行

「高度人材受け入れについて」

外国人が現代の日本で働くメリットは何があるのか興味を持ち、高度人材受け入れを調べた。高度人材に認定されると永住権の緩和や配偶者の就労、親や家事使用人の帯同の許可などがある。しかし、開始から3ヶ月の間でたったの約100人しか高度人材に認定されてない。この結果は経済産業省の予想を想像以上に下回る。早急にこの制度が認知されているのか調査し、そして内容を見直すことが必要であることがわかった。

11090032 柴田 祥吾

「神奈川県方言の変遷について」

人はスムーズなコミュニケーションを志向して、他人のことばとの差を出来るだけ小さくしたいと考える。差が存在するのは、他人と同じでは満足できず、個性ある新鮮な表現をしたいという欲求があるからである。これが言語分化を助長し、発展へと繋がってきた。本論文では、日本語方言の関東方言に焦点をあて、おもに神奈川県方言の語彙がどのような変遷を遂げ、変化していったのか研究したものである。

11090033 嶋崎 運理

「あきる野市における郷土史からみた言葉の変遷について」

現在、あきる野市では方言を使用する人は少なく、皆無といってもよい。それは時代的な背景や新興都市として、新住民が移り住んだことにより、言葉が標準語化していった経緯をもっている。そこで言語環境を衣、食、住の視点から資料にあたり、生活と言語の関係を明らかにし、また『多摩弁暦』を調査することによって、多摩弁としての言葉の変遷と標準語との関係について述べたものである。

11090034 清水フェルナンド

「日系ブラジル人社会と日本語」

私自身が日系人3世であることから、日系人社会の成り立ちに以前から興味を持っていた。そこで卒業論文のテーマを「日系ブラジル人社会と日本語」とした。文献を中心に歴史を調べた。さらに、日本語については、日系2世の日本語を分析した。その結果、日本語の保持が非常に難しく、ポルトガル語へのスイッチングがしばしば起きることが、明らかになった。

11090035 鍾 峻倫

「台湾南部における客家語と文化の特質について」

台湾における言語状況は、國語（北京語を基調としたもの）を共通語とし、閩南方言、客家方言、先住民族諸語が存在する。私の母語は客家語であり、本論稿では、台湾南部の客家語の生成とその山歌を調査した。

南部客家語の歴史は、広東省梅県からの移民が形成した方言であり、それにまつわる山歌は、客家社会の伝統的な口承文化に繋がっているのである。客家語の独自の発音方法と語彙に焦点をあてまとめたものである。

11090036 岑 雨彤

「体の部分を含む慣用句の研究―日中両国における目に関する慣用句の考察―」

実例の分析を通して、「目」に関する日中語の慣用句について、概念、感情表現、用法という三つ

の面から比較分析した。その結果、次の三つの結論を得た。①中国語での「目」に関する慣用句は日本語より少ない。②両語の「目」に関する慣用句に類似性があるが、中国語より日本語の方が豊かで、細かい。③日中両国での「目」に関する慣用句はプラス評価より、マイナス評価が多い。特に中国語の場合、その特徴が顕著である。

11090037 徐 ギョウ寅

「中国語話者の日本語における発音の問題について」

中国語話者は標準的日本語を発音しても、聞いた限りではまだ不自然であり、生得的なものとはできないと感じた。本論では正しい日本語を話せた上で、日本人らしく日本語を話すことを目指すため、日本語音声の特徴と中国語発音の特徴を比較し、自分の学習過程にあった問題と経験、また日本語のアクセントや母語の干渉を分析しながら、中国語母語話者の日本語発音問題をまとめたものである。

11090038 須賀 晴香

「プロ野球の人気を復活させるために」

かつて国民的スポーツと呼ばれたプロ野球の人気低下が著しい。本研究では、人気を保ち続けている読売ジャイアンツとパリーグ球団との経営方針、観客動員数増加のための方法などを比較するために文献調査した。その結果、読売ジャイアンツは全国を視野に入れた戦略を展開しているのに対し、パリーグ球団は本拠地での人気を上げることを中心としていることがわかった。そこでパリーグ球団の全国レベルの人気を上げる方法を提案した。

11090039 鈴木 悠加

「映画館の集客戦略 ―複合マーケティングの方法―」

ビデオレンタルの低価格競争の影響で、2000年代になって映画の観客動員数、興行成績の伸び悩みがさらに加速している。本研究では、映画の観客動員を増加させる方法を提案するために、ビデオレンタル業界と映画業界が現在行っている集客のためのサービスについて文献調査した。その結果、ビデオレンタル業界では店舗に足を運ばせるために他業種との提携を強めていた。そこで、映画館での様々な集客方法について提案した。

11090040 高橋 未樹

「長野県における方言『～シナイ』について」

長野県北信地方における方言の「～シナイ」ということばをテーマにとりあげ、アンケート調査などを用いて調べた。「～シナイ」という表現は、相手を誘うときや自分の意見の同意確認を求めるときなど、語尾に「～(ダ)シナイ」をつけ相手に尋ねる長野県北信地方の新方言であり、高齢者は使わないとされている。本論文のテーマに係わる著書、文献、及びインターネット記事を活用し、

分析を試みた。

11090041 竹原友里恵

「日本語学習者における敬語の誤用分析からみる敬語指導法」

敬語は、日本語学習者に限らず日本語母語話者でも苦手意識を持つ者が多い。しかし敬語は、日本で生活していく上で必要不可欠な要素である。では、敬語をどのように習得すべきなのか。この論文では、はじめに敬語学習はなぜ難しいのかを考え、頻出する敬語の誤用例を挙げた。そして教科書ごとに敬語の教授法の問題点を考え、どのような敬語の指導をするのが適切であるかを明らかにした。その際、初級レベルの敬語を対象とした。

11090042 忠岡 政貴

「ブラックバスと共存するためには」

ブラックバスは、適応力、繁殖力、強い魚食性から在来種への影響が指摘されている。今や全国的に生息域を拡大し、漁業被害や生態系への影響が心配されている。

一方、外来種であるブラックバスは釣りの対象魚として大きな経済効果を得ている。釣り客が河口湖周辺にもたらす経済効果は年間数十億円とも言われている。

悪影響もあるが、価値を生む可能性のある外来種とうまく共存できないか考察した。

11090043 田村衣麗奈

「京都・大阪のイメージ 外からの目と内からの目」

バラエティ番組などで京都人と大阪人が言い合いをする場面を見ることがある。京都は上品だが親しみにくく、大阪は下品だが親しみがもてるなど正反対のイメージで捉えられるのはなぜか。インターネットのサイトに書きこまれた京都・大阪のイメージに関する記述を整理して、近畿地方以外の人から見たイメージと大阪人・京都人自身のセルフイメージを比較することによって、それらのイメージがどうやって形成されたのかを探る。

11090045 張 剣峰

「(東京)日本語学校のホームページの情報からみる日本語学校の留学生募集」

日本語学校でインターンシップをしたことをきっかけに、日本語学校の学生募集に興味を持った。日本語学校が学生募集を行う媒体としてホームページを使用しているところが多いが、ホームページの内容と実際に集まる学生との関係について調査を行った。ホームページ上で用いられる言語等と実際に在籍している学生との関係を調べるとホームページの効果があるが、すべての言語のホームページが必要だとは言えないことが分かった。

11090046 趙 星海

「日中両国における目線の比較 ―場面と感情―」

中国人と日本人における目線は違うといわれている。その相異点は何か。本研究では、両国民の場面や感情による目線の違いについて考察する。研究の結果、まなざしは人間の付き合いに欠かせない、コミュニケーションにおいて重要な位置を占める。中国においては視線を合わすということは、人に対する尊敬の意味を表す。日本においても人間関係を結ぶ動作の一つである。日本人は中国人より目線に敏感な傾向があることが分かった。

11090047 張 舒一

「日中のコミュニケーションと敬意表現」

日本語と中国語の敬意表現はその使用範囲が異なる点も多く、日本語学習者の習得を妨げる要因となっている。日本語の使用に関する研究に待遇表現という用語がある。それは話し手の上下意識や親疎意識に基づく言語表現のことである。中国語は日本語の敬語のような文法体系を持っていないため、呼称という語彙的な手段が日本語よりも発達したのである。本稿は日本語と中国語の敬意表現の特徴を挙げ、双方の異同を調べたものである。

11090048 張 棟耀

「日本の会社で求められる敬語」

日本の会社は、職場での上下関係、立場、場面などに応じた言葉遣いや態度が求められる。教科書で習った敬語をそのまま使おうとしてもうまくいかない場合があり、実際の会社で、どのような敬語が使われているのか調べてみようと考えた。そこで、日本の会社で働いている中国人社員に、日々の仕事で用いている敬語や、会社で気をつけなくてはならない礼儀作法についてインタビューをし、ふさわしい言葉づかいや態度について整理した。

11090052 戸松 佑介

「イスラム世界と平和について」

9.11の米中樞同時多発テロが起きた時、私は小学生だった。世界に平和は訪れるのかと考えさせられた。毎日報道されるニュースを見ると、イスラム過激派がテロを起こしていて死傷者の数が後を絶たない。本来平和を願っているはずの宗教者なのに、なぜ人を殺害し、テロ行為をするのかという疑問を考えていきたい。そして平和とは何かという答えを考えながらイスラム世界を考察していきたい。

11090053 友部 悠貴

「1989年と2012年のマンガの擬音語・擬態語について」

長年愛読しているマンガ『静かなるドン』の1巻と103巻で擬音語・擬態語の使い方に相違があ

ることに興味を持ち、比較考察した。

マンガに出てくるすべての擬音語・擬態語を抜き出し、機能・場面・動作主などにより分類して、両者の比較を行った。その結果、時代が変わったことによって実社会で普及したこと・ものによっての変化や、話し言葉では表現できなく、書き言葉でしか表現できない擬音語・擬態語が見つかった。

11090055 鍋山 美綾

「幼児のオノマトペの使用と理解の発達 — 2歳児と3歳児を比較して —」

家庭内での2歳児と3歳児の使用しているオノマトペには特殊な意味を表わすものが多々あり、他人に使用しても通じない場合がある。2歳児と3歳児の言語使用、特にオノマトペに焦点を当てて観察し、使用されたオノマトペを分類することによって、それらが何を表わしているのか、また、一年間でどのように発達するのかを調査した。幼児特有の意味や言語の発達の様子を明らかにし、幼児にとってのオノマトペについて考察した。

11090057 藤代 晃子

「インターネットブログにおける文章表記 — 顔文字の使用目的 —」

Eメールをはじめ、チャットや、SNS（TwitterやFacebook）などインターネット内で顔文字を見ることはとても多い。顔文字にはどのような種類があり、文章中に顔文字を用いることはどのような意味があるのか。顔文字の影響や歴史などを交え、インターネットブログ内でどのように表記されているかを、二年前に授業で調査したデータを元に、今回さらに調査し、顔文字の使用目的を明らかにしていく。

11090058 藤田 双

「『ようだ』『らしい』『そうだ』の初級での指導について」

日本語教育における「ようだ」「らしい」「そうだ」は、誤用が起りやすい代表的な項目の一つである。そこで、どのように導入すれば学習者が混乱しない授業を行うことができるのかを明らかにするために、文法的観点と語用論的観点から三つの表現の相違点を機能別に明確にすることで、どの順序で導入していくべきなのかを導き出した。学習者の誤用がより少なくなるような導入方法を考察した上で実際に教案を作成した。

11090059 本江梨紗子

「日本語のあいまいな文末表現 — 『みたいな。』『って感じ。』を例に —」

本来ならば「～みたいな + [名詞]」「～って感じの + [名詞]」のように文中で用いられる表現が、「～みたいな。」「～って感じ。」のように文末表現として使われる例が最近増えている。いわゆるあいまい表現の一種と考えられる。このようなタイプのあいまいな文末表現がいつ頃からどのように

どのような場面で使用されるようになったのか、毎日・読売・朝日3紙の記事データベースを用いて用例を詳しく調査し、分析を試みた。

11090060 村社 美紀

「生命倫理教育教材開発に関する研究—代理懐胎を中心とする生殖補助医療を通して—」

医療技術の発達により妊娠・出産の形態は多様化したが、大学生が正しい知識を得る場や、生命倫理について考える機会はほとんどない。そこで、代理懐胎を通した生命倫理教育の教材作成を試み、その効果について検討した。

その結果、新たに開発した代理出産に関する教材を用いると、不安が強まることが確認された。幸福な出産DVDでは、出産に対する穏やかさや温かさのイメージが強まった。両者を組み合わせた教材が効果的である。

11090061 本吉 隼也

「犬の擬人化について」

現代の日本では、ペットとして飼育されている犬に対し「洋服を着用させる」、「人間に話しているかのような会話をする」飼い主が存在する。本研究では犬の飼い主92人にアンケートを行い、犬を人間扱いする飼い主の特徴、傾向を相関関係のグラフを使用し考察した。

その結果、犬のことを人間扱いする飼い主は、犬を「子ども」として見ていることが分かり、飼い主が犬に対して使用する言葉遣いは、幼児に会話する時と酷似していた。

11090063 吉田 孔明

「四字熟語の認知度について—漢字能力検定試験に基づく調査—」

現代において四字熟語はあまり使われなくなっており、若い世代では四字熟語を知らない人が多いという声をよく聞く。そこに興味を持ち実際の認知度を確かめようと思い本研究を行った。

漢字検定の問題を参考とし、大学生を対象に四字熟語のテストを行ったところ、検定が設定している基準よりも低い結果となり、基準の適切性に疑問を持つ結果となった。

また漢字検定の問題のレベルと難易度についての整合性も確認することができた。

11090064 Ramler, Stephen

「翻訳理論について」

英語母語話者として、日本にいたるとすぐに変な「英語」にぶつかる。それが起こる際に翻訳が重要な働きをしていると考えた。調べると地域化と理論的な地域化の意味がずれていると分かった。本論文では、正しい翻訳の重要性を普及する為に翻訳理論をもっと分かりやすくすべきだと考える。そこで、翻訳理論についての専門用語は非常に多くて分かりづらいので、翻訳理論を出来るだけまとめて分かりやすく説明する。

11090065 劉 倩

「新社会人になるまでに知っておくべきこと」

学生は成年、未成年も含んだ極めて曖昧な枠組みである一方で、社会人とは大きな距離感がある。これからの社会を担い創っていく学生は、脆弱がゆえに未知数の潜在性があるとも言える。「知らない」ことが社会の中で「罪」であるとするならば、学生の期間は、大多数の学生達にとって、「社会に出るまでのいろいろな意味での準備期間」である。本論文では、その間に学んでおくべきことについて分析・考察したものである。

11090066 林 成忠

「受身表現における日中対照研究」

日本語と中国語の受身表現はその使用範囲が異なる点も多く、中国人日本語学習者の習得を妨げる要因となっている。日本語は「～られる」「～される」形で受身を表現するのに対し、中国語は「被」という「介詞」で表す。中国人学習者は受身に接すると、まず中国語の「被」を考える傾向がある。本稿は日本語と中国語の受け身表現の特徴を挙げ、双方の異同を調べ、学習者にわかりやすい提示方法を考え整理したものである。

11090067 和田 裕幸

「若年層における神奈川県の方言の使用状況」

神奈川県内においては近年共通語が多く使われており、方言に対しての認識が低いことが多く、調査に関しての資料なども少ないのが現状である。そこで、若年層を対象に調査を行い、その中でどの程度神奈川方言を使用しており、なおかつ神奈川方言に関してどのような印象を持っているか、神奈川方言に代わる言葉としてどのようなものを現在使用しているのかを調査し、そこから現在の神奈川県出身の若年層の方言使用等の変化を考察していく。

11090068 呉 凱昇

「日本人との距離」

留学経験と母国での経験を比較しながら日本人との距離を研究する。日本語学習者への助言として有効なものになればと考えている。日本人がどのようにコミュニケーションを取っているか、また物事の捉え方がどのようなになっているかを、アンケート等でデータを集めて分析した。

さらに日本人の社会でうまく暮らせるよう、日本人と円滑な関係を築き、日本留学を充実させてほしいことから、自分の経験をまとめた。

11090069 金 玲

「外国人日本語学習者における若者言葉」

同じことを伝える際に、異なる言葉が使用されることがある。それは、使う人の出身、職業、年

齢などによって用いられる言葉が違うからである。日本の社会において主な使用言語は日本語であるが、創造力を持つ若者によって若者言葉が作り出されている。

本論文では標準語を学んできた外国人日本語学習者は若者言葉をどのように考えているのか、また日本人の若者との交流においてどんな役割を果たしているのかについて考える。

11090070 朱 帆

「学校の指導不足による日本のいじめについて」

いじめは学校教育の影響を受けているが、その程度がどのくらいなのかはこれまで分かっていない。そこで、本研究では学校教育がいじめの原因となっている割合を研究課題とし、Web上の調査データを分析し、2002年～2005年の事件の中で学校教育がいじめの原因となっていた事件の割合を調べた。その結果、学校の教育が原因となっていた事件は約55%で、日本のいじめは学校の指導不足が大きい原因であると分かった。

11090071 助川 涼子

「川端康成における、女性を魅力的に描く方法」

川端康成は『伊豆の踊子』や『雪国』で有名な人物だ。そんな彼の描く女性は実に魅力的である。彼がどのような方法で魅力を引き出しているのかを解明するため、気になった部分を抜き出し、考察を試みた。そして彼の生い立ち、女性関係、好みを調べるうちに、フェティシズム的な要素を見出したのだ。そこにシュルレアリスムの要素も加わり、川端の魔法の描写が完成するのである。今回の論文では、それを記述していくことにする。

11090072 杉津 里紗

「エステサロン成功の鍵」

エステ業界は、長びく不況下にあっても、市場を拡大している数少ない成長産業である。とはいえ、毎年2000店舗以上のサロンが新規に開店し、同じ数ほどのサロンが閉店している。

そこで、筆者のサロンでの実体験を踏まえて、店舗比較、応接やサービス等の接客について考察し、サロンの成功や失敗の原因を探った。結論として、接客において、お客様と技術者両方の満足があって成り立つことが重要な要素であることが分かった。

11090074 辰見 夢美

「アニメがもたらした利益」

本研究では、日本のアニメとマンガの収益を追究した。日本で発達したアニメは、米国からの技術の導入により大きく進化した、日本独自の文化と言われるようになった。

アニメとマンガがもたらす利益には、アニメやマンガ独自がもたらす収益、アニメとマンガが相乗効果的に生み出す利益があり、これらは連鎖している。今後、書籍のデジタル化に伴い、世界中

へ留まることのない発信によりアニメとマンガの利益は拡大していく。

11090075 藤岡 美海

「笑いについての研究 ―昭和と平成の漫才を素材に―」

昭和と平成の漫才における相違点、及び生活上で自発的に生じる笑いと漫才のように外部刺激によって生じる笑いの相違点を把握することを目的とした。

昭和と平成の漫才の構成と生じた笑いを比較し、笑いは緊張と緩和の繰り返しによって受け手が持つ共有意識が崩され発生するという結果が得られた。また漫才によって発生する笑いは日常生活で見られる笑いと設定が理解出来る人間のみに可能な笑いという違いがあることが明らかになった。

11090901 王 重嘉

「日本で生活するために最初に勉強すべきカタカナの言葉」

来日直後、日本での生活の中でカタカナの言葉が多く、不便だと感じた。その原因は生活の中で使われているカタカナの言葉は教科書のより多いためと考える。これを検証するため、筆者は教科書とテレビゲームの名前、テレビニュース、電気量販店のチラシの中にあるカタカナの言葉の使用頻度を比較した。その上で、日本で生活するために、来日の際に最初に勉強すべきカタカナの言葉のリストを作成した。

11090902 姜 儒聲

「韓国人学習者における日本語の形式名詞の『もの』と『こと』」

日本語を学習する韓国人学習者が作文を書くときに言葉の置き換えではなく、優れた作文を書くために、日本語の形式名詞「もの」と「こと」の比較を行った。この2つはそれぞれ韓国語の「것」と「일」に対応する。このうち「こと」は「것」だけでなく「일」と対応することもある。「こと」が「것」になる場合と、「일」になる場合の違いを例文の比較により考察し、「こと」が仕事、事情の場合だけに「일」になることが分かった。

11090903 コウ メイフォン

「オノマトペの日中比較 ―マレーシア華人の中国語と日本語に焦点をあてて―」

中国国内、マレーシア国内と日本国内それぞれの新聞記事、商品説明、料理番組を資料とし、オノマトペの使用頻度の比較を行った。マレーシア国内の中国語より、中国国内の中国語のほうが使用頻度が高いという違いがわかった。3カ国いずれも、改まった場面ではオノマトペは使用されない。一方、商品や料理番組では、マレーシア国内の中国語より、日本語のほうがオノマトペを多く使用することが分かった。

11090904 呉 依慶

「留学生にとって難しいオノマトペ」

日本語の擬音語・擬態語は中国語の象声詞より、数も多く形態も複雑であると言われる。日本人の日常生活の中だけでなく、文学作品や特に子供向けの絵本の中にもオノマトペが大量に使われている。日本に溢れているオノマトペの習得は留学生にとって難しいものである。

本研究では、どんなオノマトペが難しいのかをアンケートで調査した。清濁音の違いや同じ音を繰り返すオノマトペが留学生にとって難しいということが明らかになった。

11090905 張 燕

「日本語に見られる男女差の使用実態」

日本語の特徴の一つは女性と男性の言葉遣いが違うことである。中でも、人称代名詞、終助詞等に違いがよく現れる。外国人学習者にとって、この違いを把握することは難しく、日常会話において不適切な表現をしてしまうことが多い。本研究は小説、ドラマ、アニメ、テレビ番組、ニュースなどを対象に男女の言葉遣いの違いを観察して、話し言葉や書き言葉などのさまざまな文体においてこの違いがどのように現れるかを考察する。

11090906 趙 丹陽

「中国人学習者のオノマトペ習得」

外国人から見て、日本人は誰でも任意にオノマトペを作ることができるような印象さえ持っている。社説や評論など概括性の強い文章に使われたものは推測も難しい。中国人は日本語のオノマトペに出会ったとき、適切な訳が見つからず躓いてしまうことが多い。新聞や辞書などに載っていた例文を集め、日中両言語の単語の違うところを比べ、リストを作成し、共通点や異なる点から、中国語に訳すときの注意点を探ってみた。

11090907 朴 修珍

「日本語の『～して』と韓国語の『-고』と『-서』」

日本語と韓国語は文法が似ていて、日本人にとって韓国語は学びやすい言語と言われている。確かに語順はほぼ同じかも知れない。しかし、文型の場合は必ずしも一致しているわけではない。例えば、日本語の「～して」を韓国語に翻訳すると「-고」と「-서」の二つの文型に分かれる。「-고」と「-서」は使い分けなければならないが、意味が微妙に似ているので区別しにくい。例文を挙げながら「-고」と「-서」の違いを明確にした。

11090908 李 婉月

「日本人における信仰とは」

日本には、仏教、道教、キリスト教など、さまざまな宗教が伝えられた。主張をする外来の宗教

は、日本に伝わると急速に「日本化」していった。最後には日本人が古くから伝えてきた民族宗教と同化、もしくは融合していくのである。その大きな特徴は、「いくつもの信仰の対象を同時に持ち合わせている」ことである。つまり日本人の多くは、外来の宗教にとりこまれずに、古代以来の民族宗教を受け継いできたということになる。

11090909 劉 源

「日中対照研究に関する考察—意思疎通及び翻訳に影響を与える要素に注目して—」

日本は中国と同じ漢字圏の国であるが、日本語の言葉の発想や、文法体系が中国語とは異なる。そのため日本語の勉強は中国語母語話者の学習者にとってけっして容易なことではない。本研究は自らの経験談を元にして、中国語母語話者日本語学習者の意思疎通及び翻訳に影響を与える母語干渉を例に、実際のコミュニケーション場面において、誤用がないように普段から注意すべき点を分析してみた。

11080023 金 志成

「一寸法師と小人の呼び名のちがい」

本論は韓国と日本の親指小僧と一寸法師で、親指小僧は「小人」と呼ばれ、一寸法師は「一寸法師」と呼ばれている呼び名のちがいを研究した。

韓国も日本も儒教敬語があって、身分にあわせて相手の言葉を変える。呼び名も変わる。日本語と韓国語ではちがいがある。日本の場合、相手へのやさしさもあって、「一寸法師」をそのまま名前で呼んでいる。韓国は、儒教や身分の影響があって、最後まで親指小僧を「小人」と呼んだと考えた。

11080083 卢 燕梅

「中国人日本語学習者の自動詞と他動詞の誤用表現についての習得」

中国語母語話者の自動詞と他動詞における誤用を減らすため、自動詞と他動詞の形態のパターンと使用のルールについてまとめた。使い分けは主語が有生か無情か意図的な行動か否かによる。自動詞か他動詞を用いる場合、責任を取るか取らないかによって意味が変わる。これをしっかり理解して使い分けを把握すれば、誤用が少なくなる。自動詞と他動詞は受身と使役の習得に深い影響する。

編集後記

『明海日本語』は、明海大学日本語学科の機関誌として発行され、10年以上の歴史を持つ。スタッフの研究の公表の機会を作り、新設の大学の活動状況を外部に知らせる機能があった。これまでも優秀な論文が本誌で発表されてきた。

提出された論文と研究ノートは、日本語学科専任教員が審査し、場合によっては書き直しを命じ、あるいは掲載を認めないこともある。教員の投稿論文も、相互に審査し、採否については院生と同様の措置をとった。つまり本誌掲載の論文は、レフリー付きの、学術雑誌並みの価値を持つ。なお大学院生の投稿に関しては、これまでと同様、相互に原稿を交換して書き直しをした。

18号での論考の配列は、論文テーマ相互の関連によった。日本語の研究、中国語・韓国語との対照研究の順に並べた。文法や談話、音声の分析などが目立つ。

また、学生の卒業研究の題名と要旨を掲載する。多様なテーマで取り組んだ成果である。明海大学日本語学会の主な構成員である学部学生の卒業記念、思い出になることを期待したい。

来年度以降も年1回印刷刊行のペースを厳守し、卒業生には卒業式に、在校生には新年度のオリエンテーションの際に、配布できるようにしたい。

本号の編集には、大学院博士後期課程の金 賢珠（キム ヒョンジュ Kim Hyeunju）と胡 曉睿（コウ ギョウズイ HU XIAORUI）が活躍した。また、本学教員の萩原稚佳子が卒業研究要旨の整理にあたった。

なおこれまで約10年間の『明海日本語』は、pdfファイルとしてインターネットでも公開されている。『明海日本語』で検索すると、以下のサイトが出る。

<http://www.urayasu.meikai.ac.jp/japanese/meikainihongo/meikainihongotop.htm>

この第18号では、特別増刊号として、インターネット版のみの号をも後日出版する。社会言語学的内容が主になる予定である。カラー図版を使えることと、原稿の長さにはほぼ制限がなくなるのが利点である。

2013年2月

井上史雄

「明海日本語」編集規定

- (1) 本誌は、明海大学外国語学部日本語学会内の編集委員会によって編集される。
- (2) 掲載論文は、明海大学外国語学部日本語学会会員および学术交流提携校の教員ならびに明海大学大学院応用言語学研究科関係者によるものとする。
- (3) 論文は、未公刊の学術論文に限る。
- (4) 論文の分量は、ワープロ打ちで、学術論文A4判10枚（12,000字程度）、研究ノートA4判2枚（2,400字程度）以内とする。
- (5) 論文の採否は、編集委員会が決定する。
- (6) 論文の提出方法は、電子メール送信又はフロッピー郵送に限る。
- (7) 原則として、毎年1回、学年度末に発行する。

（平成25（2013）年2月15日修正）

明海日本語ホームページ

<http://www.urayasu.meikai.ac.jp/japanese/>

電子メールアドレス“明海日本語”〈meikai_nihongo@yahoo.co.jp〉

「明海日本語」第18号

2013年2月26日 印刷

2013年2月26日 発行

編集者 明海大学日本語学会

発行者 代表者 水谷 信子

発行所 明海大学日本語学会
〒279-8550 千葉県浦安市明海1
電話 047-355-5120

印刷所 (株) 外為印刷
〒111-0032 東京都台東区浅草2-29-6
電話 03-3844-3855

MEIKAI NIHONGO

Meikai Japanese Language Journal

No. 18

2013

CONTENTS

Articles

- A Study on Analysis Methods of Regional Differences in Minutes
of Local Councils Using Morpheme N-gram TAKAMARU, Keiichi (1)
- “Aisatsu” and Guidance in Schools
– Transition from the Meiji Era to the Showa Era – KURAMOCHI, Masuko (11)
- A Contrastive Study of Japanese and Chinese Criticism
– from the Perspective of Job and Career – REN, Xing · CHEN, Mimi (21)
- The Acquisition of Japanese Special Mora Rhythm by Chinese Learners of Japanese
– Comparing Known Words, Unknown Words, and Non- words –
..... KINOSHITA, Naoko (35)
- Effect of Shadowing on Japanese Learning
– Focusing on Pronunciation of Learners in China – QIAO, Fang (45)
- Usage of “ni-totte” by Taiwanese Japanese-Learners
– Focusing on the LARP at SCU Corpus – ZHANG, Xiu Ling (55)
- Considering “～te kureru” Acquisition
– The Case of Korean Japanese Learners – KIM, Hyeunju (65)
- The Use of Kanji Vocabulary in Japanese Compositions
– A comparison of Native Japanese Speakers with Korean Learners
and Taiwanese Learners – HU, Xiaorui (75)

Study Notes

- The Effect of the Peer Response in Japanese Writing Classes for Taiwanese Students
..... ARAI, Tomoko (83)
- The Positioning of Emoticons in Japanese (in 2007) SUZUKI, Koji (85)
- A Study of Change in Use of Vogue Words
– Using Google Trends – KAMIMURA, Kentaro (87)
- 2012 Graduation Study List OGIWARA, Chikako (89)
- Editor's Postscript INOUE, Fumio (106)
-

MEIKAI NIHONGO GAKKAI

Meikai Japanese Language Study Society
Akemi 1 Urayasu-Shi, Chiba, Japan